履 修 要 項
2022年度

TEIKYO

帝京大学 薬学部

帝京大学建学の精神

努力をすべての基とし偏見を排し
幅広い知識を身につけ
国際的視野に立って判断ができ
実学を通して創造力および人間味豊かな
専門性ある人材の養成を目的とする

○帝京大学　ディプロマ・ポリシー

帝京大学は、建学の精神に掲げる人材の育成を目的および使命としており、これを達成するために「自分流」という教育理念および「実学・国際性・開放性」という具体的な教育指針を示し、学部学科等において教育目的を定めている。これらの方針の下で、教養教育科目と専門科目からなる教育課程を編成する。

以下の能力を身につけ、所定の教育課程および単位を修めた者に対して学位を授与する。

１、本学の教養教育の学修目標に掲げる能力を身につけている。
２、幅広い教養と社会的倫理観、豊かな創造力および人間味を身につけている。
３、専門分野についての知識・技能を有し、それを用いて社会に貢献する意思を持っている。
４、異文化を理解し、国際的視野により物事を判断できる素養を持っている。
５、主体性を持って他者と協働して学び、自他を更に高め合う関係を構築できる。

○帝京大学　カリキュラム・ポリシー

帝京大学は、学位授与に要求される能力を修得するために、学部学科等において教養教育科目および専門科目を体系的・効果的に編成し、講義、演習および実習等を適切に組合せた授業を開講する。

また、教育の質の向上に努めるために、履修に必要な指導等をきめ細かく行う。

各科目については、以下の方針でカリキュラムを編成する。

１、教養教育科目においては、帝京大学教養教育ミッションに基づき、生涯学び続ける力の修得ができる科目編成を行う。
２、専門科目においては、学部学科等の専門分野についての主体的な学びを促し、知識・技能を身につけるための系統的な科目編成を行う。
３、教育指針の「実学」に基づき、実践を通して論理的な思考を身につけるための科目編成を行う。
４、教育指針の「国際性」に基づき、異文化理解の学修ができる科目編成を行う。
５、教育指針の「開放性」に基づき、学生の視野を広げるため、必要な知識・技能を偏ることなく幅広く学ぶことができる科目編成を行う。

○帝京大学薬学部　教育目的

薬学部は、建学の精神に則り、高度の専門知識・技能と豊かな人間性を基盤とした実務実践力に加えて、研究心や課題発見・問題解決能力、自己研鑽能力があり、医療チームや地域社会において信頼される薬剤師として、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

○帝京大学薬学部　ディプロマ・ポリシー（DP）

薬学部は、科学の進歩に伴う医療の高度化、少子高齢化社会における地域医療連携と国民の健康維持・増進という観点から、社会や医療現場の期待に応え、地域住民や個々の患者のニーズに対応できる薬剤師の養成を目指している。卒業時の学習成果（アウトカム）として以下の修得目標に掲げる能力を身につけ、かつ所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 医療人として温かい人間性と高い倫理観を持ち、他者の尊厳や人権等に配慮して誠実に行動し、自己研鑽に努め、プロフェッショナリズムに基づき行動できる。
2. コミュニケーション力により患者、家族、医療チームのメンバーと信頼関係を築き、連携して、患者中心の視点でチーム医療に参画できる。
3. 医薬品の物理的・化学的特性を考慮し、求められる医療に必要な医薬品の調製と取扱いを適正に行うことができる。
4. 科学的根拠の下に医薬品等が生体に及ぼす影響を理解し、適切で効果的な薬物治療を実施できる。
5. 地域における保健・医療・福祉の資源を活用し、地域医療連携を通して、地域住民の健康維持・増進を支援できる。
6. 基礎、臨床および社会薬学領域での研究の意義を理解し、医療における問題点を科学的・論理的に考え、薬学的視点から問題解決を推進する姿勢を示すことができる。

○帝京大学薬学部　修得目標（レベル1、2）：卒業時における学修成果（アウトカム）※2022年度入学生より

修得目標：レベル1	文科省10の資質との対応	修得目標：レベル2
A. 倫理観とプロフェッショナリズム 医療人として温かい人間性と高い倫理観を持ち、他者の尊厳や人権等に配慮した利他的な観点で共感的に誠実で素直に行動し、自己研鑽に努め、あわせて次世代を担う人材の育成を行うことができる。	1）薬剤師としての心構え 9）自己研鑽 10）教育能力	１．医療人として倫理的問題を認識し、倫理的原則に基づいて医療活動を行うことができる
		２．他者の尊厳、人格と背景を尊重し、温かい人間性の下に利他的な観点で、共感的、誠実に自分の適性を活かして患者、生活者と接することができる
		３．自己主導型学習を実践し、学習成果の自己評価を毎年度行い、自己の向上に努めることができる
		４．自然科学、人文科学、社会科学にわたる幅広い知識の上に医療専門知識の学びを進めることができる
		５．同僚、後輩に対する指導、助言をする
B. チーム医療を通した患者中心の医療への参画 コミュニケーション力により患者、患者の家族、医療チームのメンバー等と信頼関係を築き、専門職連携を通して、患者中心の視点でチーム医療に参画できる。	2）患者・生活者本位の視点 3）コミュニケーション能力 4）チーム医療への参画	６．グローバル化した社会において、他者と個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、受け入れ、支援的態度を示すコミュニケーションを実践する
		７．患者、患者家族、医療チームのメンバーとコミュニケーションに基づく信頼関係を築くことができる
		８．医療機関におけるチーム医療に参画し、協働して医療活動を行うことができる
		９．地域におけるチーム医療に参画し、協働して医療活動を行うことができる
C. 医薬品の適正な調製と取扱い 医薬品の物理的・化学的特性を考慮し、法規・制度や社会環境等に配慮し、求められる医療に必要な医薬品の調製と取扱いを適正に行うことができる。	5）基礎的な科学力 6）薬物療法における実践的能力	１０．医薬品の調製、管理、供給に必要な基本的な化学的、物理的特性を説明できる
		１１．医薬品の調製、管理、供給に必要な分離、分析、同定を行うことができる
		１２．製剤の性質を把握し、効果的な薬物送達を目指した製剤設計ができる
		１３．処方箋に基づく適切な調剤、医薬品の供給ができる
		１４．関連する法令に則り、医薬品の調製・取扱いができる
D. 薬物治療の実践 科学的な根拠の下に医薬品等が生体に及ぼす影響を理解し、患者個人の背景を尊重した適切で効果的な薬物治療を実施できる。	6）薬物療法における実践的能力	１５．生命現象、人体の構造を薬学的観点で説明できる
		１６．医薬品の生体への影響を科学的に判断することができる
		１７．代表的な病原微生物とそれらが原因となる疾患、治療法を説明できる
		１８．代表的な疾患と、治療に用いる薬物の適応との関連性を説明できる
		１９．医薬品情報に基づき、安全に医薬品を提供し、薬物治療を実践できる
		２０．薬物療法に必要な情報を情報源から収集、聴取し、必要に応じて提供できる
		２１．適切な処方提案と、薬効と副作用の評価ができる
		２２．患者一人ひとりに適した薬物治療を計画、実施、評価できる
		２３．医薬品の生体内の挙動を推論できる
		２４．エビデンスに基づいた薬物療法を実践できる
E. 国民の健康維持と地域医療への貢献 地域における保健・医療・福祉の資源を把握・活用し、地域医療連携を通して、地域住民の健康維持・増進を支援できる。	2）患者・生活者本位の視点 7）地域の保健・医療における実践的能力	２５．科学的な根拠を基盤として環境衛生の保全、食品の衛生管理を実践できる
		２６．保健、医療、福祉と介護に必要な人材、施設を理解し、それらと連携できる
		２７．地域における疾病予防、健康増進、プライマリケアを実践できる
		２８．地域包括ケアにおける在宅医療を実践できる
		２９．セルフメディケーションを支援できる
F. 科学的探究心 基礎、臨床および社会薬学領域での研究の意義を理解し、医療における問題点を科学的・論理的に考え、薬学的視点から問題解決を推進する姿勢を示すことができる。	8）研究能力 5）基礎的な科学力	３０．薬学的発見の基礎となる研究の概要を把握できる
		３１．科学的研究で明らかになった新しい知見、高度先進医療を説明できる
		３２．未知、未解決の薬学的問題あるいは科学的問題を発見し、解決に向けて取り組むことができる
		３３．海外との交流や文献を通じて、世界的視野に立って薬学、医療における情報を入手し、研究や実務に活用することができる

帝京大学薬学部　カリキュラム・ポリシー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で要求される能力を修得するために、薬学部では、学習成果（アウトカム）基盤型教育の考え方に基づいて、以下の方針でカリキュラムを編成する。

１．「薬学教育モデル・コアカリキュラム」を基盤として、ディプロマ・ポリシーに掲げられた６つのアウトカムを身につけることを目指す。

２．修得目標レベル 1-A（倫理観とプロフェッショナリズム）は、多様な分野の教科において幅広く取り上げ、すべての学年を通して醸成する。できる限り実習、討議を加えた学修方法で実施し、求められる技能・態度に適した評価方法で評価する。

３．修得目標レベル 1-B（チーム医療を通した患者中心の医療への参画）は、豊かな人間性に基づく信頼関係を築き、コミュニケーション能力を高めることを目的としており、本学部の特徴として特に重視する。学年進行に伴った順次性あるらせん型のヒューマニティ・コミュニケーション教育カリキュラムを構築し、医学部・医療技術学部と合同で医療系学部横断型の多職種連携教育(IPE)を実施し、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を行う。

４．修得目標レベル 1-C（医薬品の適正な調製と取扱い）、修得目標レベル 1-D（薬物治療の実践）、修得目標レベル 1-E（国民の健康維持と地域医療への貢献）を中核とした薬学専門教育では、学年進行に伴った順次性あるらせん型カリキュラムを構築し、科学的根拠に基づいた薬剤師としての能力を効果的に醸成する。

入学時から４年次前期に渡り、講義等で幅広い薬学専門知識を身につけ、実習や演習を通して知識の活用力や問題解決能力を醸成する。修得した知識は客観試験や論述試験で評価し、実習や演習の学習成果は、技能・態度に適した方法で評価する。４年次後期以降では、統合型演習や実務実習を中心に、より実践的な学修環境を提供し、知識の評価とパフォーマンス評価を行う。

５．修得目標 1-F（科学的探究心）は、１～３年次の基礎系薬学実習を基盤として、主に４～６年次の卒論実習（卒業研究）を通して醸成する。より深い科学的・論理的な思考力、課題発見・問題解決能力とともに、能動的に学ぶ姿勢や自己研鑽能力を涵養し、知識の評価とパフォーマンス評価を行う。

６．卒業時に求められる総合的な学習成果については、知識は客観試験や論述試験で、薬剤師としての実務能力はポートフォリオ等で、卒業研究はルーブリックを用いたパフォーマンス評価でそれぞれ評価する。

目　　次

授業科目と単位数

2017年度入学生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2018年度入学生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2019年度入学生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2020年度入学生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
2021年度入学生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2022年度入学生　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

授業科目のつながり

授業科目のつながり－2022年度入学生－　・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

学習成果（アウトカム）基盤型教育について

薬学部の学習成果（アウトカム）基盤型教育について　・・・・・・・・・・ 10
カリキュラム・マップ－2022年度入学生－　・・・・・・・・・・・・・・ 12
カリキュラム・ツリー－2022年度入学生－　・・・・・・・・・・・・・・ 15

履修について

授業および時間割～国家試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

時間割

2022年度 1年生薬学部時間割（前期・後期）　・・・・・・・・・・・・・・ 32
2022年度 2年生薬学部時間割（前期・後期）　・・・・・・・・・・・・・・ 33
2022年度 3年生薬学部時間割（前期・後期）　・・・・・・・・・・・・・・ 34
2022年度 4年生薬学部時間割（前期・後期）　・・・・・・・・・・・・・・ 35
2022年度 5年生薬学部時間割　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
2022年度 6年生薬学部時間割（前期・後期）　・・・・・・・・・・・・・・ 36

行事予定

2022年度　行事予定（2022年3月～2023年3月）　・・・・・・・・・・・・・ 38

その他

薬学教育モデル・コアカリキュラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
薬学部教職員一覧表・オフィスアワー制度について　・・・・・・・・・・・125

授業科目と単位数

【2017年度入学生】

共通教育科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
共通教育科目	情報リテラシー	1.5	1	前
	生命倫理 ☆	1.5	1	前
	医療社会学	1.5	1	後
	ヒューマンコミュニケーション ☆	2	1	通年
	英語	2	1	通年
	【選・必】医療統計学	2	1	半期
	【選・必】ヘルスケアエデュケーション	2	1	半期
	【選・必】医療心理学	2	1	半期
	【選・必】臨床心理学	2	1	半期
	【選・必】社会と医療	2	1	半期
	【選・必】医療とボランティア	2	1	半期
	【選・必】医療経済学	2	1	半期
	【選・必】基礎医療法学	2	1	半期
	【選・必】日本国憲法	2	1	半期
	【選・必】TOEIC対策英語	2	1	半期
	【選・必】生命と物質のサイエンス	2	1	半期
	【選・必】くすりを理解するための有機化学	2	1	半期
	【選・必】チーム医療論	2	1	半期
	【選・必】医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン	1	1	半期
	【選・必】コンタクトレンズの基礎	1	1	半期
	【選・必】医療数理科学入門	2	1	半期
	【選・必】地域健康管理学入門	2	1	半期
	【選・必】新薬発見のケーススタディー	1	1	半期
	【選・必】災害からの復活と公衆衛生	2	1	半期
	【選・必】プレホスピタルケア概論	1	1	半期
	【選・必】夢のDDS	1	1	半期
	【選・必】世界に羽ばたく医療人	2	1	半期
	【選・必】グラフィック基礎	2	1	半期
	【選・必】英語演習	2	1	半期
	【選・必】アカデミック・イングリッシュ	2	1	半期
	【選・必】イングリッシュ・コミュニケーション	2	1	半期
	【選・必】研究倫理	2	1	半期
	【選・必】ヘルス・コミュニケーション	2	1	半期
小計	標準単位	12.5		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
入門	薬学への招待1 ☆	1.5	1	前
	薬学への招待2	1.5	1	後
小計	標準単位	3		

区分	授業科目	単位	学年	学期
物理化学・分析化学分野	基礎物理化学 ☆	1.5	1	前
	薬学数学 ☆	1.5	1	後
	物理化学1 ☆	1.5	1	後
	物理化学2 ☆	1.5	2	前
	物理化学3 ☆	1.5	2	後
	薬品分析化学 ☆	1.5	1	後
	応用分析化学 ☆	1.5	2	前
	機器分析学 ☆	1.5	2	後
	臨床分析学 ☆	1.5	3	前
	放射薬品学 ☆	1.5	3	後
	基礎薬学特論1	1	4	後
小計	標準単位	16		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
有機化学分野	基礎化学 ☆	1.5	1	前
	有機化学1 ☆	1.5	1	後
	有機化学2 ☆	1.5	2	前
	有機化学3 ☆	1.5	2	後
	有機化学4 ☆	1.5	3	前
	医薬品化学1 ☆	1.5	3	後
	医薬品化学2	1.5	4	前
	生薬学・天然物化学 ☆	1.5	3	後
	漢方医学概論	1.5	4	前
	基礎薬学特論2	1	4	後
小計	標準単位	15		

区分	授業科目	単位	学年	学期
生命薬学分野	生命科学1 ☆	1.5	1	前
	生命科学2 ☆	1.5	1	後
	生化学1 ☆	1.5	2	前
	生化学2 ☆	1.5	2	後
	感染免疫学 ☆	1.5	3	前
	分子生物学 ☆	1.5	3	後
	機能形態学 ☆	1.5	1	前
	生理学1 ☆	1.5	1	後
	生理学2 ☆	1.5	2	前
	薬科生物学 ☆	1.5	1	後
	基礎薬学特論3	1	4	後
小計	標準単位	16		

区分	授業科目	単位	学年	学期
衛生薬学分野	エコサイエンス ☆	1.5	2	後
	栄養化学 ☆	1.5	2	後
	環境衛生学 ☆	1.5	3	前
	衛生化学 ☆	1.5	3	前
	毒性学 ☆	1.5	3	後
	保健衛生学	1.5	4	前
	衛生薬学特論	1	4	後
小計	標準単位	10		

区分	授業科目	単位	学年	学期
医療薬学Ⅰ分野	医学概論 ☆	1.5	1	前
	薬理学1 ☆	1.5	2	前
	薬理学2 ☆	1.5	2	前
	薬理学3 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学1 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学2 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学3 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学4 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学5 ☆	1.5	3	後
	病態・薬理学6 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学1 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学2	1.5	4	前
	薬物治療学3	1.5	4	前
	薬物治療学4	1.5	4	前
小計	標準単位	21		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
医療薬学Ⅱ分野	物理薬剤学 ☆	1.5	2	前
	製剤学1 ☆	1.5	2	前
	製剤学2 ☆	1.5	2	後
	生物薬剤学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態学 ☆	1.5	3	後
	調剤学 ☆	1.5	3	前
	医薬品情報学 ☆	1.5	3	後
	薬学統計学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態制御学	1.5	4	通年
	薬事関係法規・制度	1.5	4	前
	医薬品安全性学	1.5	4	前
	地域医療論	1.5	4	前
小計	標準単位	18		

区分	授業科目	単位	学年	学期
総合分野	薬学最前線	1	5	＊
	薬学総合講義1	2	6	前
	薬学総合講義2	2	6	前
	薬学総合講義3	2	6	前
	薬学総合講義4	2	6	後
小計	標準単位	9		

区分	授業科目	単位	学年	学期
演習科目	医療コミュニケーション1	1	2	前
	医療コミュニケーション2	1	3	後
	医療コミュニケーション3	1	4	前
	医療コミュニケーション4	1	5	＊
	語学演習1	1	2	通年
	語学演習2	1	3	通年
	薬学演習	1.5	4	通年
	薬学統合演習1	6	4	後
	薬学統合演習2	6	6	前
小計	標準単位	19.5		

区分	授業科目	単位	学年	学期
実習科目	薬学実習1	1	1	前
	薬学実習2	1.5	1	後
	薬学実習3	1	2	前
	薬学実習4	1.5	2	後
	薬学実習5	1	3	前
	薬学実習6	1	3	前
	薬学実習7	1.5	3	後
	薬学実習8	1.5	4	前
	薬学実習9	1.5	4	前
	薬学実習10	3	4	後
	薬学実務実習(病院・薬局)	20	5	＊
	卒論実習	14	4	後
			5	通年
			6	前
小計	標準単位	48.5		

標準総単位	188

＊印:5年次1～4期のいずれかで履修
☆印:学年末総合評価試験対象科目
【選・必】共通教育科目は4単位必修

【2018年度入学生】

共通教育科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
共通教育科目	情報リテラシー	1.5	1	前
	生命倫理 ☆	1.5	1	前
	医療社会学	1.5	1	後
	ヒューマンコミュニケーション ☆	2	1	通年
	英語	2	1	通年
	【選・必】医療統計学	2	1	半期
	【選・必】ヘルスケアエデュケーション	2	1	半期
	【選・必】医療心理学	2	1	半期
	【選・必】臨床心理学	2	1	半期
	【選・必】社会と医療	2	1	半期
	【選・必】医療とボランティア	2	1	半期
	【選・必】医療経済学	2	1	半期
	【選・必】基礎医療法学	2	1	半期
	【選・必】日本国憲法	2	1	半期
	【選・必】TOEIC対策英語	2	1	半期
	【選・必】生命と物質のサイエンス	2	1	半期
	【選・必】くすりを理解するための有機化学	2	1	半期
	【選・必】チーム医療論	2	1	半期
	【選・必】医療界の男女共同参画社会の構築とキャリアデザイン	1	1	半期
	【選・必】コンタクトレンズの基礎	1	1	半期
	【選・必】医療数理科学入門	2	1	半期
	【選・必】地域健康管理学入門	2	1	半期
	【選・必】新薬発見のケーススタディー	1	1	半期
	【選・必】災害からの復活と公衆衛生	2	1	半期
	【選・必】プレホスピタルケア概論	1	1	半期
	【選・必】夢のDDS	1	1	半期
	【選・必】世界に羽ばたく医療人	2	1	半期
	【選・必】グラフィック基礎	2	1	半期
	【選・必】アカデミック・イングリッシュ	2	1	半期
	【選・必】イングリッシュ・コミュニケーション	2	1	半期
	【選・必】研究倫理	2	1	半期
	【選・必】ヘルス・コミュニケーション	2	1	半期
小計	標準単位	12.5		

薬学専門科目

入門	薬学への招待1 ☆	1.5	1	前
	薬学への招待2	1.5	1	後
小計	標準単位	3		

物理化学・分析化学分野	基礎物理化学 ☆	1.5	1	前
	薬学数学 ☆	1.5	1	前
	物理化学1 ☆	1.5	1	後
	物理化学2 ☆	1.5	2	前
	物理化学3 ☆	1.5	2	後
	薬品分析化学 ☆	1.5	1	後
	応用分析化学 ☆	1.5	2	前
	機器分析学 ☆	1.5	2	後
	臨床分析学 ☆	1.5	3	前
	放射薬品学 ☆	1.5	3	後
	基礎薬学特論1	1	4	後
小計	標準単位	16		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
有機化学分野	基礎化学 ☆	1.5	1	前
	有機化学1 ☆	1.5	1	後
	有機化学2 ☆	1.5	2	前
	有機化学3 ☆	1.5	2	後
	有機化学4 ☆	1.5	3	前
	医薬品化学1 ☆	1.5	3	後
	医薬品化学2	1.5	4	前
	生薬学・天然物化学 ☆	1.5	3	後
	漢方医学概論	1.5	4	前
	基礎薬学特論2	1	4	後
小計	標準単位	15		

生命薬学分野	生命科学1 ☆	1.5	1	前
	生命科学2 ☆	1.5	1	後
	生化学1 ☆	1.5	2	前
	生化学2 ☆	1.5	2	後
	感染免疫学 ☆	1.5	3	前
	分子生物学 ☆	1.5	3	後
	機能形態学 ☆	1.5	1	前
	生理学1 ☆	1.5	1	後
	生理学2 ☆	1.5	2	前
	薬科生物学 ☆	1.5	1	後
	基礎薬学特論3	1	4	後
小計	標準単位	16		

衛生薬学分野	エコサイエンス ☆	1.5	2	後
	栄養化学 ☆	1.5	2	後
	環境衛生学 ☆	1.5	3	前
	衛生化学 ☆	1.5	3	前
	毒性学 ☆	1.5	3	後
	保健衛生学	1.5	4	前
	衛生薬学特論	1	4	後
小計	標準単位	10		

医療薬学Ⅰ分野	医学概論 ☆	1.5	1	後
	薬理学1 ☆	1.5	2	前
	薬理学2 ☆	1.5	2	前
	薬理学3 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学1 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学2 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学3 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学4 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学5 ☆	1.5	3	後
	病態・薬理学6 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学1 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学2	1.5	4	前
	薬物治療学3	1.5	4	前
	薬物治療学4	1.5	4	前
小計	標準単位	21		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
医療薬学Ⅱ分野	物理薬剤学 ☆	1.5	2	前
	製剤学1 ☆	1.5	2	前
	製剤学2 ☆	1.5	2	後
	生物薬剤学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態学 ☆	1.5	3	後
	調剤学 ☆	1.5	3	前
	医薬品情報学 ☆	1.5	3	後
	薬学統計学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態制御学	1.5	4	通年
	薬事関係法規・制度	1.5	4	前
	医薬品安全性学	1.5	4	前
	地域医療論	1.5	4	前
小計	標準単位	18		

総合分野	薬学最前線	1	5	*
	薬学総合講義1	2	6	前
	薬学総合講義2	2	6	前
	薬学総合講義3	2	6	前
	薬学総合講義4	2	6	後
	【選】病院カンファレンス臨床学習	1	3	通年
小計	標準単位	9		

演習科目	医療コミュニケーション1	1	2	前
	医療コミュニケーション2	1	3	後
	医療コミュニケーション3	1	4	前
	医療コミュニケーション4	1	5	*
	語学演習1	1	2	通年
	語学演習2	1	3	通年
	薬学演習	1.5	4	通年
	薬学統合演習1	6	4	後
	薬学統合演習2	6	6	前
小計	標準単位	19.5		

実習科目	薬学実習1	1	1	前
	薬学実習2	1.5	1	後
	薬学実習3	1	2	前
	薬学実習4	1.5	2	後
	薬学実習5	1	3	前
	薬学実習6	1	3	前
	薬学実習7	1.5	3	後
	薬学実習8	1.5	4	前
	薬学実習9	1.5	4	前
	薬学実習10	3	4	後
	薬学実務実習(病院・薬局)	20	5	*
	卒論実習	14	4	後
			5	通年
			6	前
小計	標準単位	48.5		

標準総単位	188

＊印:5年次1～4期のいずれかで履修
☆印:学年末総合評価試験対象科目
【選・必】共通教育科目は4単位必修

【2019年度入学生～】

共通教育科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
共通教育科目	情報リテラシー	1.5	1	前
	生命倫理 ☆	1.5	1	前
	医療社会学	1.5	1	後
	ヒューマンコミュニケーション ☆	2	1	通年
	英語	2	1	通年
	【選・必】医療統計学	2	1	半期
	【選・必】ヘルスケアエデュケーション	2	1	半期
	【選・必】医療心理学	2	1	半期
	【選・必】臨床心理学	2	1	半期
	【選・必】社会と医療	2	1	半期
	【選・必】医療とボランティア	2	1	半期
	【選・必】医療経済学	2	1	半期
	【選・必】基礎医療法学	2	1	半期
	【選・必】日本国憲法	2	1	半期
	【選・必】TOEIC対策英語	2	1	半期
	【選・必】生命と物質のサイエンス	2	1	半期
	【選・必】チーム医療論	1	1	半期
	【選・必】医療界のワーク・ライフ学	1	1	半期
	【選・必】コンタクトレンズの基礎	1	1	半期
	【選・必】医療数理科学入門	2	1	半期
	【選・必】地域健康管理学入門	2	1	半期
	【選・必】新薬発見のケーススタディー	1	1	半期
	【選・必】災害からの復活と公衆衛生	2	1	半期
	【選・必】プレホスピタルケア概論	1	1	半期
	【選・必】夢の薬物送達システム(DDS)	1	1	半期
	【選・必】世界に羽ばたく医療人	2	1	半期
	【選・必】グラフィック基礎	2	1	半期
	【選・必】アカデミック・イングリッシュ	2	1	半期
	【選・必】イングリッシュ・コミュニケーション	2	1	半期
	【選・必】ヘルス・コミュニケーション	2	1	半期
	【選・必】多文化社会論	2	1	半期
	【選・必】音楽	2	1	半期
小計	標準単位	12.5		

薬学専門科目

入門	薬学への招待1 ☆	1.5	1	前
	薬学への招待2	1.5	1	後
小計	標準単位	3		

物理化学・分析化学分野	基礎物理化学 ☆	1.5	1	前
	薬学数学1 ☆	1.5	1	前
	薬学数学2 ☆	1.5	1	後
	物理化学1 ☆	1.5	1	後
	物理化学2 ☆	1.5	2	前
	物理化学3 ☆	1.5	2	後
	薬品分析化学 ☆	1.5	1	後
	応用分析化学 ☆	1.5	2	前
	機器分析学 ☆	1.5	2	後
	臨床分析学 ☆	1.5	3	前
	放射薬品学 ☆	1.5	3	後
	基礎薬学特論1	1	4	後
小計	標準単位	18		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
有機化学分野	基礎化学 ☆	1.5	1	前
	有機化学1 ☆	1.5	1	後
	有機化学2 ☆	1.5	2	前
	有機化学3 ☆	1.5	2	後
	有機化学4 ☆	1.5	3	前
	医薬品化学1 ☆	1.5	3	後
	医薬品化学2	1.5	4	前
	生薬学・天然物化学 ☆	1.5	3	後
	漢方医学概論	1.5	4	前
	基礎薬学特論2	1	4	後
小計	標準単位	15		

生命薬学分野	生命科学1 ☆	1.5	1	前
	生命科学2 ☆	1.5	1	後
	生化学1 ☆	1.5	2	前
	生化学2 ☆	1.5	2	後
	感染免疫学 ☆	1.5	3	前
	分子生物学 ☆	1.5	3	後
	機能形態学 ☆	1.5	1	前
	生理学1 ☆	1.5	1	後
	生理学2 ☆	1.5	2	前
	基礎生物学 ☆	1.5	1	前
	薬科生物学 ☆	1.5	1	後
	基礎薬学特論3	1	4	後
小計	標準単位	17.5		

衛生薬学分野	エコサイエンス ☆	1.5	2	後
	栄養化学 ☆	1.5	2	後
	環境衛生学 ☆	1.5	3	前
	衛生化学 ☆	1.5	3	前
	毒性学 ☆	1.5	3	後
	保健衛生学	1.5	4	前
	衛生薬学特論	1	4	後
小計	標準単位	10		

医療薬学Ⅰ分野	医学概論 ☆	1.5	1	後
	薬理学1 ☆	1.5	2	前
	薬理学2 ☆	1.5	2	前
	薬理学3 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学1 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学2 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学3 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学4 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学5 ☆	1.5	3	後
	病態・薬理学6 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学入門 ☆	1	1	後
	薬物治療学1 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学2	1.5	4	前
	薬物治療学3	1.5	4	前
	薬物治療学4	1.5	4	前
小計	標準単位	22		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
医療薬学Ⅱ分野	物理薬剤学 ☆	1.5	2	前
	製剤学1 ☆	1.5	2	前
	製剤学2 ☆	1.5	2	後
	生物薬剤学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態学 ☆	1.5	3	後
	調剤学 ☆	1.5	3	前
	医薬品情報学 ☆	1.5	3	後
	薬学統計学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態制御学	1.5	4	通年
	薬事関係法規・制度	1.5	4	前
	医薬品安全性学	1.5	4	前
	地域医療論	1.5	4	前
小計	標準単位	18		

総合分野	薬学最前線	1	5	＊
	薬学総合講義1	2	6	前
	薬学総合講義2	2	6	前
	薬学総合講義3	2	6	前
	薬学総合講義4	2	6	後
	【選】病院カンファレンス臨床学習	1	3	通年
小計	標準単位	9		

演習科目	医療コミュニケーション1	1	2	前
	医療コミュニケーション2	1	3	後
	医療コミュニケーション3	1	4	前
	医療コミュニケーション4	1	5	＊
	語学演習1	1	2	通年
	語学演習2	1	3	通年
	薬学演習	1.5	4	通年
	薬学統合演習1	6	4	後
	薬学統合演習2	6	6	前
小計	標準単位	19.5		

実習科目	薬学実習1	1	1	前
	薬学実習2	1.5	1	後
	薬学実習3	1	2	前
	薬学実習4	1.5	2	後
	薬学実習5	1	3	前
	薬学実習6	1	3	前
	薬学実習7	1.5	3	後
	薬学実習8	1.5	4	前
	薬学実習9	1.5	4	前
	薬学実習10	3	4	後
	薬学実務実習(病院・薬局)	20	5	＊
	卒論実習	14	4	後
			5	通年
			6	前
小計	標準単位	48.5		

標準総単位	192

＊印:5年次1～4期のいずれかで履修
☆印:学年末総合評価試験対象科目
【選・必】共通教育科目は4単位必修

【2021年度入学生】

共通教育科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
共通教育科目	情報リテラシー	1.5	1	前
	生命倫理 ☆	1.5	1	前
	医療社会学	1.5	1	後
	ヒューマンコミュニケーション ☆	2	1	通年
	英語	2	1	通年
	【選・必】医療統計学	2	1	半期
	【選・必】ヘルスケアエデュケーション	2	1	半期
	【選・必】医療心理学	2	1	半期
	【選・必】臨床心理学	2	1	半期
	【選・必】社会と医療	2	1	半期
	【選・必】医療とボランティア	2	1	半期
	【選・必】医療経済学	2	1	半期
	【選・必】基礎医療法学	2	1	半期
	【選・必】日本国憲法	2	1	半期
	【選・必】TOEIC対策英語	2	1	半期
	【選・必】生命と物質のサイエンス	2	1	半期
	【選・必】チーム医療論	1	1	半期
	【選・必】医療界のワーク・ライフ学	1	1	半期
	【選・必】コンタクトレンズの基礎	1	1	半期
	【選・必】医療数理科学入門	2	1	半期
	【選・必】地域健康管理学入門	2	1	半期
	【選・必】新薬発見のケーススタディー	1	1	半期
	【選・必】災害からの復活と公衆衛生	2	1	半期
	【選・必】夢の薬物送達システム(DDS)	1	1	半期
	【選・必】世界に羽ばたく医療人	2	1	半期
	【選・必】グラフィック基礎	2	1	半期
	【選・必】アカデミック・イングリッシュ	2	1	半期
	【選・必】イングリッシュ・コミュニケーション	2	1	半期
	【選・必】ヘルス・コミュニケーション	2	1	半期
	【選・必】多文化社会論	2	1	半期
	【選・必】音楽	2	1	半期
小計	標準単位	12.5		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
入門	薬学への招待1 ☆	1.5	1	前
	薬学への招待2	1.5	1	後
小計	標準単位	3		

物理化学・分析化学分野	基礎物理化学 ☆	1.5	1	前
	薬学数学1 ☆	1.5	1	前
	薬学数学2 ☆	1.5	1	後
	物理化学1 ☆	1.5	1	後
	物理化学2 ☆	1.5	2	前
	物理化学3 ☆	1.5	2	後
	薬品分析化学 ☆	1.5	1	後
	応用分析化学 ☆	1.5	2	前
	機器分析学 ☆	1.5	2	後
	臨床分析学 ☆	1.5	3	前
	放射薬品学 ☆	1.5	3	後
	基礎薬学特論1	1	4	後
小計	標準単位	18		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
有機化学分野	基礎化学 ☆	1.5	1	前
	有機化学1 ☆	1.5	1	後
	有機化学2 ☆	1.5	2	前
	有機化学3 ☆	1.5	2	後
	有機化学4 ☆	1.5	3	前
	医薬品化学1 ☆	1.5	3	後
	医薬品化学2	1.5	4	前
	生薬学・天然物化学 ☆	1.5	3	後
	漢方医学概論	1.5	4	前
	基礎薬学特論2	1	4	後
小計	標準単位	15		

生命薬学分野	生命科学1 ☆	1.5	1	前
	生命科学2 ☆	1.5	1	後
	生化学1 ☆	1.5	2	前
	生化学2 ☆	1.5	2	後
	感染免疫学 ☆	1.5	3	前
	分子生物学 ☆	1.5	3	後
	機能形態学 ☆	1.5	1	前
	生理学1 ☆	1.5	1	後
	生理学2 ☆	1.5	2	前
	基礎生物学 ☆	1.5	1	前
	薬科生物学 ☆	1.5	1	後
	基礎薬学特論3	1	4	後
小計	標準単位	17.5		

衛生薬学分野	エコサイエンス ☆	1.5	2	後
	栄養化学 ☆	1.5	2	後
	環境衛生学 ☆	1.5	3	前
	衛生化学 ☆	1.5	3	前
	毒性学 ☆	1.5	3	後
	保健衛生学	1.5	4	前
	衛生薬学特論	1	4	後
小計	標準単位	10		

医療薬学Ⅰ分野	医学概論 ☆	1.5	1	後
	薬理学1 ☆	1.5	2	前
	薬理学2 ☆	1.5	2	前
	薬理学3 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学1 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学2 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学3 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学4 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学5 ☆	1.5	3	後
	病態・薬理学6 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学入門 ☆	1	1	後
	薬物治療学1 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学2	1.5	4	前
	薬物治療学3	1.5	4	前
	薬物治療学4	1.5	4	前
小計	標準単位	22		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
医療薬学Ⅱ分野	物理薬剤学 ☆	1.5	2	前
	製剤学1 ☆	1.5	2	前
	製剤学2 ☆	1.5	2	後
	生物薬剤学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態学 ☆	1.5	3	後
	調剤学 ☆	1.5	3	前
	医薬品情報学 ☆	1.5	3	後
	薬学統計学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態制御学	1.5	4	通年
	薬事関係法規・制度	1.5	4	前
	医薬品安全性学	1.5	4	前
	地域医療論	1.5	4	前
小計	標準単位	18		

総合分野	薬学最前線	1	5	*
	薬学総合講義1	2	6	前
	薬学総合講義2	2	6	前
	薬学総合講義3	2	6	前
	薬学総合講義4	2	6	後
	【選】病院カンファレンス臨床学習	1	3	通年
小計	標準単位	9		

演習科目	医療コミュニケーション1	1	2	前
	医療コミュニケーション2	1	3	後
	医療コミュニケーション3	1	4	前
	医療コミュニケーション4	1	5	*
	語学演習1	1	2	通年
	語学演習2	1	3	通年
	薬学演習	1.5	4	通年
	薬学統合演習1	6	4	後
	薬学統合演習2	6	6	前
小計	標準単位	19.5		

実習科目	薬学実習1	1	1	前
	薬学実習2	1.5	1	後
	薬学実習3	1	2	前
	薬学実習4	1.5	2	後
	薬学実習5	1	3	前
	薬学実習6	1	3	前
	薬学実習7	1.5	3	後
	薬学実習8	1.5	4	前
	薬学実習9	1.5	4	前
	薬学実習10	3	4	後
	薬学実務実習(病院・薬局)	20	5	*
	卒論実習	14	4	後
			5	通年
			6	前
小計	標準単位	48.5		

標準総単位	192

＊印:5年次1～4期のいずれかで履修
☆印:学年末総合評価試験対象科目
【選・必】共通教育科目は4単位必修

【2022年度入学生】

共通教育科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
共通教育科目	情報リテラシー	1.5	1	前
	生命倫理 ☆	1.5	1	前
	医療社会学	1.5	1	後
	ヒューマンコミュニケーション ☆	2	1	通年
	英語	2	1	通年
	【選・必】医療統計学	2	1	半期
	【選・必】ヘルスケアエデュケーション	2	1	半期
	【選・必】医療心理学	2	1	半期
	【選・必】臨床心理学	2	1	半期
	【選・必】社会と医療	2	1	半期
	【選・必】医療とボランティア	2	1	半期
	【選・必】医療経済学	2	1	半期
	【選・必】基礎医療法学	2	1	半期
	【選・必】日本国憲法	2	1	半期
	【選・必】TOEIC対策英語	2	1	半期
	【選・必】生命と物質のサイエンス	2	1	半期
	【選・必】チーム医療論	1	1	半期
	【選・必】医療界のワーク・ライフ学	1	1	半期
	【選・必】コンタクトレンズの基礎	1	1	半期
	【選・必】医療数理科学入門	2	1	半期
	【選・必】地域健康管理学入門	2	1	半期
	【選・必】新薬発見のケーススタディー	1	1	半期
	【選・必】災害からの復活と公衆衛生	2	1	半期
	【選・必】夢の薬物送達システム(DDS)	1	1	半期
	【選・必】世界に羽ばたく医療人	2	1	半期
	【選・必】グラフィック基礎	2	1	半期
	【選・必】イングリッシュ・コミュニケーション	2	1	半期
	【選・必】ヘルス・コミュニケーション	2	1	半期
小計	標準単位	12.5		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
入門	薬学への招待1 ☆	1.5	1	前
	薬学への招待2	1.5	1	後
小計	標準単位	3		

区分	授業科目	単位	学年	学期
物理化学・分析化学分野	基礎物理化学 ☆	1.5	1	前
	薬学数学1 ☆	1.5	1	前
	薬学数学2 ☆	1.5	1	後
	物理化学1 ☆	1.5	1	後
	物理化学2 ☆	1.5	2	前
	物理化学3 ☆	1.5	2	後
	薬品分析化学 ☆	1.5	1	後
	応用分析化学 ☆	1.5	2	前
	機器分析学 ☆	1.5	2	後
	臨床分析学 ☆	1.5	3	前
	放射薬品学 ☆	1.5	3	後
	基礎薬学特論1	1	4	後
小計	標準単位	18		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
有機化学分野	基礎化学 ☆	1.5	1	前
	有機化学1 ☆	1.5	1	後
	有機化学2 ☆	1.5	2	前
	有機化学3 ☆	1.5	2	後
	有機化学4 ☆	1.5	3	前
	医薬品化学1 ☆	1.5	3	後
	医薬品化学2	1.5	4	前
	生薬学・天然物化学 ☆	1.5	3	後
	漢方医学概論	1.5	4	前
	基礎薬学特論2	1	4	後
小計	標準単位	15		

区分	授業科目	単位	学年	学期
生命薬学分野	生命科学1 ☆	1.5	1	前
	生命科学2 ☆	1.5	1	後
	生化学1 ☆	1.5	2	前
	生化学2 ☆	1.5	2	後
	感染免疫学 ☆	1.5	3	前
	分子生物学 ☆	1.5	3	後
	機能形態学 ☆	1.5	1	前
	生理学1 ☆	1.5	1	後
	生理学2 ☆	1.5	2	前
	基礎生物学 ☆	1.5	1	前
	薬科生物学 ☆	1.5	1	後
	基礎薬学特論3	1	4	後
小計	標準単位	17.5		

区分	授業科目	単位	学年	学期
衛生薬学分野	エコサイエンス ☆	1.5	2	後
	栄養化学 ☆	1.5	2	後
	環境衛生学 ☆	1.5	3	前
	衛生化学 ☆	1.5	3	前
	毒性学 ☆	1.5	3	後
	保健衛生学	1.5	4	前
	衛生薬学特論	1	4	後
小計	標準単位	10		

区分	授業科目	単位	学年	学期
医療薬学Ⅰ分野	医学概論 ☆	1.5	1	後
	薬理学1 ☆	1.5	2	前
	薬理学2 ☆	1.5	2	前
	薬理学3 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学1 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学2 ☆	1.5	2	後
	病態・薬理学3 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学4 ☆	1.5	3	前
	病態・薬理学5 ☆	1.5	3	後
	病態・薬理学6 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学入門 ☆	1	1	後
	薬物治療学1 ☆	1.5	3	後
	薬物治療学2	1.5	4	前
	薬物治療学3	1.5	4	前
	薬物治療学4	1.5	4	前
小計	標準単位	22		

薬学専門科目

区分	授業科目	単位	学年	学期
医療薬学Ⅱ分野	物理薬剤学 ☆	1.5	2	前
	製剤学1 ☆	1.5	2	前
	製剤学2 ☆	1.5	2	後
	生物薬剤学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態学 ☆	1.5	3	後
	調剤学 ☆	1.5	3	前
	医薬品情報学 ☆	1.5	3	後
	薬学統計学 ☆	1.5	3	前
	薬物動態制御学	1.5	4	通年
	薬事関係法規・制度	1.5	4	前
	医薬品安全性学	1.5	4	前
	地域医療論	1.5	4	前
小計	標準単位	18		

区分	授業科目	単位	学年	学期
総合分野	薬学最前線	1	5	＊
	薬学総合講義1	2	6	前
	薬学総合講義2	2	6	前
	薬学総合講義3	2	6	前
	薬学総合講義4	2	6	後
	【選】病院カンファレンス臨床学習	1	3	通年
小計	標準単位	9		

区分	授業科目	単位	学年	学期
演習科目	医療コミュニケーション1	1	2	前
	医療コミュニケーション2	1	3	後
	医療コミュニケーション3	1	4	前
	医療コミュニケーション4	1	5	＊
	語学演習1	1	2	通年
	語学演習2	1	3	通年
	薬学演習	1.5	4	通年
	薬学統合演習1	6	4	後
	薬学統合演習2	6	6	前
小計	標準単位	19.5		

区分	授業科目	単位	学年	学期
実習科目	薬学実習1	1	1	前
	薬学実習2	1.5	1	後
	薬学実習3	1	2	前
	薬学実習4	1.5	2	後
	薬学実習5	1	3	前
	薬学実習6	1	3	前
	薬学実習7	1.5	3	後
	薬学実習8	1.5	4	前
	薬学実習9	1.5	4	前
	薬学実習10	3	4	後
	薬学実務実習(病院・薬局)	20	5	＊
	卒論実習	14	4	後
			5	通年
			6	前
小計	標準単位	48.5		

標準総単位	192

＊印:5年次1～4期のいずれかで履修
☆印:学年末総合評価試験対象科目
【選・必】共通教育科目は4単位必修

授業科目のつながり

授業科目のつながり －2022年度入学生－

分野	1年		2年		3年			4年		5年		6年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	通年	前期	後期	実習期	大学期	前期	後期
共通教育科目	英語												
	情報リテラシー	医療社会学											
	生命倫理												
	ヒューマンコミュニケーション												
	選択科目１	選択科目２	（選択科目）	（選択科目）									
薬学基礎	薬学への招待１	薬学への招待２					病院カンファレンス 臨床学習				薬学最前線	薬学総合講義１ 薬学総合講義２ 薬学総合講義３	薬学総合講義４
物理化学 分析化学	基礎物理化学	物理化学１	物理化学２	物理化学３	臨床分析学	放射薬品学			基礎薬学特論１				
		薬品分析化学	応用分析化学	機器分析学									
	薬学数学１	薬学数学２											
有機化学	基礎化学	有機化学１	有機化学２	有機化学３	有機化学４	医薬品化学１		医薬品化学２	基礎薬学特論２				
						生薬学・天然物化学		漢方医学概論					
生命薬学	機能形態学	生命科学２	生化学１	生化学２	感染免疫学	分子生物学			基礎薬学特論３				
	生命科学１	生理学１	生理学２										
	基礎生物学	薬科生物学											
衛生薬学				栄養化学	衛生化学	毒性学		保健衛生学	衛生薬学特論				
				エコサイエンス	環境衛生学								
医療薬学Ⅰ		医学概論	薬理学１	薬理学３	病態・薬理学３	病態・薬理学５		薬物治療学２					
		薬物治療学入門	薬理学２	病態・薬理学１	病態・薬理学４	病態・薬理学６		薬物治療学３					
				病態・薬理学２		薬物治療学１		薬物治療学４					
医療薬学Ⅱ			物理薬剤学	製剤学２	生物薬剤学	薬物動態学		薬物動態制御学					
			製剤学1		調剤学	医薬品情報学		医薬品安全性学					
					薬学統計学			地域医療論					
								薬事関係法規・制度					
演習	（ヒューマンコミュニケーション）		医療 コミュニケーション１			医療 コミュニケーション２		医療 コミュニケーション３	薬学統合演習１		医療コミュニケーション４	薬学統合演習２	
			語学演習１		語学演習２			薬学演習					
実習	薬学実習１	薬学実習２	薬学実習３	薬学実習４	薬学実習５	薬学実習７		薬学実習８	薬学実習１０	薬学実務実習 （病院・薬局）			
					薬学実習６			薬学実習９		卒論実習 ４年次１月～６年次前期			

学習成果（アウトカム）基盤型教育について

薬学部の学習成果（アウトカム）基盤型教育について

薬学部では「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」を実施するにあたり、学習成果（アウトカム）基盤型教育を導入しています。

１．学習成果（アウトカム）基盤型教育におけるディプロマ・ポリシー

学習成果（アウトカム）基盤型教育とは、卒業時までに学生諸君がどのような能力を身に付ける必要があるかをディプロマ・ポリシーに明示し、その能力を引き出すために各学年、各授業の学修目標を立ててゆく教育方法です。

１）アウトカム：学習成果を意味します。従来通りの学修目標として位置付け、帝京大学薬学部の学生が卒業時に身につけていなければならない能力という意味で使います。本学部では、後述する修得目標レベル１と同じものです。

２）修得目標：ディプロマ・ポリシーに示した 6 つのアウトカム（A～F）を修得目標レベル 1 と位置付けます。この修得目標レベル１は、文部科学省が提示した「薬剤師として求められる基本的な 10 の資質」の内容をすべて含んでおり、薬学教育モデル・コア・カリキュラムの内容を網羅して 6 つにまとめました。6 つの修得目標レベル１は、それぞれが大きな概念で包括的な表現のため、この修得目標レベル 1 に到達するために、いくつかの具体的に評価可能な目標に分割したものが修得目標レベル 2（No.1～33）です。

３）修得目標レベル１、修得目標レベル２と SBOs(Specific Behavioral Objectives；**到達目標)の関係**

修得目標レベル１の「D. 薬物療法の実践」を例に挙げて具体的に説明します。「D. 薬物療法の実践」は、「科学的な根拠の下に医薬品等が生体に及ぼす影響を理解し、適切で効果的な薬物治療を実施する。」ことを卒業時に求めています。そこで、この能力が身についているかどうか判断するためにこの修得目標レベル１の D では、具体的な 10 の修得目標レベル 2 (No.15～24) を設定しました。この修得目標レベル 2 のそれぞれについて「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」に記載された複数の SBOs が対応しています。

【表１「D. 薬物療法の実践」の 10 の修得目標レベル 2 とそれぞれに含まれる SBOs の数】

修得目標レベル 2		SBOs 数
15	生命現象、人体の構造を薬学的観点で説明できる。	123
16	医薬品の生体への影響を科学的に判断することができる。	72
17	代表的な病原微生物とそれらが原因となる疾患、治療法を説明できる。	50
18	代表的な疾患と、治療に用いる薬物の適応との関連性を説明できる。	135
19	医薬品情報に基づき、安全に医薬品を提供し、薬物治療を実践できる。	35
20	薬物療法に必要な情報を情報源から収集、聴取し、必要に応じて提供できる。	58
21	適切な処方提案と、薬効と副作用の評価ができる。	28
22	患者一人ひとりに適した薬物療法を計画・実施・評価できる。	17
23	医薬品の生体内の挙動を推論できる。	40
24	エビデンスに基づいた薬物療法を実践できる。	27

２．カリキュラム・マップ

各学年で学ぶ科目のシラバスの「授業計画」の欄には、「項目」、「内容」に対応して「コアカリ番号」が記載されています。このコアカリ番号に対応する SBOs は、前述の通り、それぞれの修得目標レベル 2 を経由して 6 つの修得目標レベル 1 のどれかに繋がっています。カリキュラム・マップとは、その科目で取り上げる内容がどのような修得目標レベル 1（アウトカム）に繋がっているかを示す表であり、非常に重要な情報です。

【表２　１年生のカリキュラム・マップ】

修得目標レベル1（アウトカム）				A 倫理観とプロフェッショナリズム					B チーム医療を通した患者中心の医療への参画				C 医薬品の適正な調製と取扱い					D 薬物治療の実践										E 国民の健康維持と地域医療への貢献					F 科学的探究心			
修得目標レベル2				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
科目区分	科目名	区分	年次																																
共通教育	情報リテラシー	必修	1																			○	○												○
共通教育	生命倫理	必修	1	○			○																												
共通教育	医療社会学	必修	1	○			○										○																		
共通教育	ヒューマンコミュニケーション	必修	1		○				○																										
共通教育	英語	必修	1				○																												○
薬学専門	薬学への招待１	必修	1	○	○																								○						
薬学専門	薬学への招待２	必修	1	○	○			○																					○						
薬学専門	基礎物理化学	必修	1				○						○						○																
薬学専門	薬学数学１	必修	1				○							○																					
薬学専門	薬学数学２	必修	1				○																												
薬学専門	物理化学１	必修	1										○																						
薬学専門	薬品分析化学	必修	1											○																					
薬学専門	基礎化学	必修	1				○						○																						
薬学専門	有機化学１	必修	1										○																						
薬学専門	生命科学１	必修	1															○																	
薬学専門	生命科学２	必修	1															○																	
薬学専門	機能形態学	必修	1															○																	
薬学専門	生理学１	必修	1															○																	
薬学専門	基礎生物学	必修	1				○											○																	
薬学専門	薬科生物学	必修	1															○	○																
薬学専門	医学概論	必修	1																		○											○			
薬学専門	薬物治療学入門	必修	1																		○														
薬学専門	薬学実習１	必修	1										○																						
薬学専門	薬学実習２	必修	1											○				○																	

表２の１行目の修得目標レベル１欄は、A から F までの修得目標レベル１を示しています。２行目には１から 33 までの修得目標レベル 2 を番号で表示しています。この表から、修得目標レベル１にはどの修得目標レベル 2 が含まれ、それぞれの修得目標レベル 2 はどの科目で学ぶことになるかが示されています。科目のシラバスに記載されているコアカリ番号を見れば、それに対応する SBOs がどの修得目標レベル 2 を経由して、どの修得目標レベル１に到達するのかがわかります。

例えば、表２の１行目の共通科目「情報リテラシー」では、○印についている修得目標レベル 2 の 19 と 20 を講義内容として取り上げ、それらは修得目標レベル１の「D. 薬物療法の実践」に繋がってゆくことがわかります。ここには代表的なもののみに○印が付いていますが、学びを進める過程で他の修得目標レベル１にも広く繋がっていることを実感しながら学んでください。

３．カリキュラム・ツリー

修得目標レベル１（アウトカム）は６年間かけて達成するものです。同じような科目名の場合、進級しても関連性があると容易に想像できますが、薬学の学問体系はとても広い分野の科目が集まって構成されているため、科目名だけでは６年間の繋がりがわかりません。そこで６年間の科目の繋がりを修得目標レベル１ごとにまとめたものが、カリキュラム・ツリーです。

ほとんどの科目は半年単位での実施が原則ですが、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーをよく理解することにより、今、受けている授業が次の学年の学修、実務実習、卒業時の修得目標レベル１(アウトカム)にどのように繋がるかを理解することで繰り返し学ぶ意識を持つことが最も重要です。

修得目標 レベル1・・A～Ｆ レベル2・・1～33　学修成果の4要素（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力）

				A:倫理観とプロフェッショナリズム					B:チーム医療を通した患者中心の医療への参画				C:医薬品の適正な調製と取扱い					D:薬物治療の実践									E:国民の健康維持と地域医療への貢献					F:科学的探究心			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
科目区分	科目名	必修選択	配当年次	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	知識・理解	知識・理解	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	知識・理解	知識・理解	知識・理解	汎用的技能	汎用的技能	統合的な学習経験と創造的思考力	統合的な学習経験と創造的思考力	知識・理解	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	汎用的技能	態度・志向性	知識・理解	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	態度・志向性
共通教育科目	情報ﾘﾃﾗｼｰ	必修	1年																			○	○											○
共通教育科目	生命倫理	必修	1年	○			○																											
共通教育科目	医療社会学	必修	1年	○			○										○																	
共通教育科目	ﾋｭｰﾏﾝｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	必修	1年		○				○																									
共通教育科目	英語	必修	1年				○																											○
専門科目	薬学への招待1	必修	1年	○	○																						○							
専門科目	薬学への招待2	必修	1年	○	○			○																			○							
専門科目	基礎物理化学	必修	1年				○						○						○															
専門科目	薬学数学1	必修	1年				○							○																				
専門科目	薬学数学2	必修	1年				○																											
専門科目	物理化学1	必修	1年										○																					
専門科目	薬品分析化学	必修	1年											○																				
専門科目	基礎化学	必修	1年				○						○																					
専門科目	有機化学1	必修	1年										○																					
専門科目	生命科学1	必修	1年															○																
専門科目	生命科学2	必修	1年															○																
専門科目	機能形態学	必修	1年															○																
専門科目	生理学1	必修	1年															○																
専門科目	基礎生物学	必修	1年				○											○																
専門科目	薬科生物学	必修	1年															○	○															
専門科目	医学概論	必修	1年																		○										○			
専門科目	薬物治療学入門	必修	1年																		○													
専門科目	薬学実習1	必修	1年										○																					
専門科目	薬学実習2	必修	1年											○				○																
専門科目	物理化学2	必修	2年										○																					
専門科目	物理化学3	必修	2年										○	○																				
専門科目	応用分析化学	必修	2年										○	○																				
専門科目	機器分析学	必修	2年											○																				
専門科目	有機化学2	必修	2年										○																					
専門科目	有機化学3	必修	2年										○																					
専門科目	生化学1	必修	2年															○																
専門科目	生化学2	必修	2年															○																
専門科目	生理学2	必修	2年															○																
専門科目	ｴｸｻｲｴﾝｽ	必修	2年																									○						
専門科目	栄養化学	必修	2年																											○				
専門科目	薬理学1	必修	2年															○	○		○													
専門科目	薬理学2	必修	2年															○	○		○													
専門科目	薬理学3	必修	2年															○	○	○	○													
専門科目	病態薬理学1	必修	2年																○		○													
専門科目	病態薬理学2	必修	2年																○		○													
専門科目	物理薬剤学	必修	2年												○																			
専門科目	製剤学1	必修	2年												○		○																	
専門科目	製剤学2	必修	2年												○																			
専門科目	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	必修	2年		○				○	○																								
専門科目	語学演習1	必修	2年				○		○																									○
専門科目	薬学実習3	必修	2年										○	○			○																	
専門科目	薬学実習4	必修	2年										○	○	○		○	○																

修得目標　レベル1‥A～F　レベル2‥1～33　学修成果の4要素（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力）

				A:倫理観とプロフェッショナリズム					B:チーム医療を通した患者中心の医療への参画				C:医薬品の適正な調製と取扱い					D:薬物治療の実践									E:国民の健康維持と地域医療への貢献					F:科学的探究心			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
科目区分	科目名	必修選択	配当年次	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	知識・理解	知識・理解	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	知識・理解	知識・理解	知識・理解	汎用的技能	汎用的技能	統合的な学習経験と創造的思考力	統合的な学習経験と創造的思考力	知識・理解	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	汎用的技能	態度・志向性	知識・理解	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	態度・志向性
専門科目	臨床分析学	必修	3年											○																				
専門科目	放射薬品学	必修	3年																			○												
専門科目	有機化学4	必修	3年										○																					
専門科目	医薬品化学1	必修	3年										○						○															
専門科目	生薬学天然物化学	必修	3年										○						○															
専門科目	感染免疫学	必修	3年															○		○														
専門科目	分子生物学	必修	3年															○																
専門科目	環境衛生学	必修	3年																									○						
専門科目	衛生化学	必修	3年																									○						
専門科目	毒性学	必修	3年																									○						
専門科目	病態薬理学3	必修	3年																		○													
専門科目	病態薬理学4	必修	3年																		○													
専門科目	病態薬理学5	必修	3年																		○													
専門科目	病態薬理学6	必修	3年																	○	○													
専門科目	薬物治療学1	必修	3年																		○													
専門科目	生物薬剤学	必修	3年																○							○								
専門科目	薬物動態学	必修	3年												○											○								
専門科目	調剤学	必修	3年								○	○				○						○		○											
専門科目	医薬品情報学	必修	3年																				○	○			○								○
専門科目	薬学統計学	必修	3年																								○					○		
専門科目	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	必修	3年		○				○														○								○			
専門科目	語学演習2	必修	3年				○		○																									○
専門科目	薬学実習5	必修	3年																○															
専門科目	薬学実習6	必修	3年																									○						
専門科目	薬学実習7	必修	3年																	○	○													
専門科目	病院ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ臨床学習	選択	3年								○										○													
専門科目	基礎薬学特論1	必修	4年			○							○	○																				
専門科目	医薬品化学2	必修	4年										○						○															
専門科目	漢方医学概論	必修	4年																		○													
専門科目	基礎薬学特論2	必修	4年			○							○	○																				
専門科目	基礎薬学特論3	必修	4年			○												○																
専門科目	保健衛生学	必修	4年																										○					
専門科目	衛生薬学特論	必修	4年			○																						○		○					
専門科目	薬物治療学2	必修	4年																		○													
専門科目	薬物治療学3	必修	4年																		○													
専門科目	薬物治療学4	必修	4年																	○	○		○											
専門科目	薬物動態制御学	必修	4年												○				○							○								
専門科目	薬事関係法規制度	必修	4年														○																	
専門科目	医薬品安全性学	必修	4年																			○	○											
専門科目	地域医療論	必修	4年									○																	○	○	○	○				
専門科目	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	必修	4年	○	○				○	○																								
専門科目	薬学演習	必修	4年			○																												
専門科目	薬学統合演習1	必修	4年					○													○		○	○	○									
専門科目	薬学実習8	必修	4年													○						○	○											
専門科目	薬学実習9	必修	4年												○										○	○								
専門科目	薬学実習10	必修	4年													○						○	○											
専門科目	薬学最前線	必修	5年																													○	○	○	
専門科目	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	必修	5年		○					○													○											
専門科目	薬学実務実習(病院薬局)	必修	5年	○	○					○	○	○				○					○	○	○	○	○		○		○	○	○				
専門科目	薬学総合講義1	必修	6年			○																												
専門科目	薬学総合講義2	必修	6年			○																												
専門科目	薬学総合講義3	必修	6年			○																												
専門科目	薬学総合講義4	必修	6年			○																												
専門科目	薬学統合演習2	必修	6年					○					○					○	○	○	○			○											
専門科目	卒論実習	必修	456年			○		○																								○	○	○	○

修得目標 レベル1・・A～ F レベル2・・1～33 学修成果の4要素（知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力） 全学の修得目標（A～N）

				A:倫理観とプロフェッショナリズム					B:チーム医療を通した患者中心の医療への参画				C:医薬品の適正な調製と取扱い					D:薬物治療の実践									E:国民の健康維持と地域医療への貢献					F:科学的探究心			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
				態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	知識・理解	知識・理解	態度・志向性	態度・志向性	知識・理解	知識・理解	知識・理解	知識・理解	汎用的技能	汎用的技能	統合的な学習経験と創造的思考力	統合的な学習経験と創造的思考力	知識・理解	態度・志向性	知識・理解	態度・志向性	汎用的技能	態度・志向性	知識・理解	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	態度・志向性
					M.自分の得意分野を見つけ、個性として昇華させることができる	A.自律・自立して学修できる	E.人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識を有する	L.他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる	H.多文化・異文化に関する知識をもって物事を判断することができる		K.協働作業によって新たなものを構築することができる	K.協働作業によって新たなものを構築することができる				B.修得した知識・技術で自分のかとして行動し、その結果に責任を持つ	B.修得した知識・技術で自分のかとして行動し、その結果に責任を持つ				D.多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	C.常に情報を収集し、それらを基に自分なりの考えを発信できる	N.獲得した資質・能力を総合的に活用し、自ら的立てた課題にそれらを適用することで解決することができる	N.獲得した資質・能力を総合的に活用し、自ら的立てた課題にそれらを適用することで解決することができる		B.修得した知識・技術で自分のかとして行動し、その結果に責任を持つ				I.実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる				D.多様な情報を収集・分析して適正に判断し、効果的に活用できる	F.口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する	J.問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できる	G.海外との交流を積極的に行う姿勢を有する
科目区分	科目名	必修選択	配当年次																															
基礎分野	医療統計学	選択	1年				○																											
基礎分野	ﾍﾙｽｹｱｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	選択	1年				○																											
基礎分野	医療心理学	選択	1年				○																											
基礎分野	臨床心理学	選択	1年				○																											
基礎分野	社会と医療	選択	1年				○																											
基礎分野	医療とﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	選択	1年				○																											
基礎分野	医療経済学	選択	1年				○																											
基礎分野	基礎医療統学	選択	1年				○																											
基礎分野	日本国憲法	選択	1年				○																											
基礎分野	TOEIC対策英語	選択	1年				○																											
基礎分野	生命と物質のｻｲｴﾝｽ	選択	1年				○																											
基礎分野	ﾁｰﾑ医療論	選択	1年				○				○	○																							
基礎分野	医療界のｶｰｸﾞｲﾌﾟ学	選択	1年				○																											
基礎分野	ｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞの基礎	選択	1年				○																											
基礎分野	医療数理科学入門	選択	1年				○																											
基礎分野	地域健康管理学入門	選択	1年				○																											
基礎分野	創薬発見のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨｰ	選択	1年				○																											
基礎分野	災害からの復活と公衆衛生	選択	1年				○																											
基礎分野	夢の薬物送達ｼｽﾃﾑ(DDS)	選択	1年				○																											
基礎分野	世界に羽ばたく医療人	選択	1年				○																											○
基礎分野	ｸﾞﾗﾌｨｯｸ基礎	選択	1年				○																											
基礎分野	ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾗｲﾃｨﾝｸﾞﾘﾃﾗｼｰ	選択	1年				○																											○
基礎分野	ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	選択	1年				○																											○
基礎分野	ﾍﾙｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	選択	1年				○																											
基礎分野	多文化社会論	選択	1年				○																											

2022年度入学生　カリキュラムツリー

専門科目　　※複数の学年にわたり配当されている科目は、最初の学年にのみ表示しております。

修得目標　レベル1‥A～F　レベル2‥1～33

	A：倫理観とプロフェッショナリズム					B：チーム医療を通した患者中心の医療への参画				C：医薬品の適正な調製と取扱い				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
6年			薬学総合講義1		薬学統合演習2					薬学統合演習2				
			薬学総合講義2											
			薬学総合講義3											
			薬学総合講義4											
5年	薬学実務実習(病院薬局)	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4					医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	薬学実務実習(病院薬局)	薬学実務実習(病院薬局)				薬学実務実習(病院薬局)	
		薬学実務実習(病院薬局)					薬学実務実習(病院薬局)							
4年	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	基礎薬学特論1		薬学統合演習1	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3		地域医療論	基礎薬学特論1	基礎薬学特論1	薬物動態制御学	薬学実習8	薬事関係法規制度
			基礎薬学特論2		卒論実習					医薬品化学2	基礎薬学特論2	薬学実習9	薬学実習10	
			基礎薬学特論3							基礎薬学特論2				
			衛生薬学特論											
			薬学演習											
			卒論実習											
3年		医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2		語学演習2		医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2		調剤学	調剤学	有機化学4	臨床分析学	薬物動態学	調剤学	
						語学演習2		病院ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ臨床学習		医薬品化学1				
										生薬学天然物化学				
2年		医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1		語学演習1		医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1			物理化学2	物理化学3	物理薬剤学		製剤学1
						語学演習1				物理化学3	応用分析化学	製剤学1		薬学実習3
										応用分析化学	機器分析学	製剤学2		薬学実習4
										有機化学2	薬学実習3	薬学実習4		
										有機化学3	薬学実習4			
										薬学実習3				
										薬学実習4				
1年	薬学への招待1	薬学への招待1		基礎物理化学	薬学への招待2					基礎物理化学	薬学数学1			
	薬学への招待2	薬学への招待2		薬学数学1						物理化学1	薬品分析化学			
				薬学数学2						基礎化学	薬学実習2			
				基礎化学						有機化学1				
				基礎生物学						薬学実習1				

2022年度入学生　カリキュラムツリー

専門科目　　※複数の学年にわたり配当されている科目は、最初の学年にのみ表示しております。

修得目標　レベル1‥A～F　レベル2‥1～33

	D：薬物治療の実践										E：国民の健康維持と地域医療への貢献					F：科学的探究心			
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
6年	薬学統合演習2	薬学統合演習2	薬学統合演習2	薬学統合演習2			薬学統合演習2												
5年				薬学実務実習(病院薬局)	薬学実務実習(病院薬局)	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	薬学実務実習(病院薬局)	薬学実務実習(病院薬局)		薬学実務実習(病院薬局)		薬学実務実習(病院薬局)	薬学実務実習(病院薬局)	薬学実務実習(病院薬局)		薬学最前線	薬学最前線	薬学最前線	
						薬学実務実習(病院薬局)													
4年	基礎薬学特論3	医薬品化学2	薬物治療学4	漢方医学概論	医薬品安全性学	薬物治療学4	薬学統合演習1	薬学統合演習1	薬物動態制御学		衛生薬学特論	地域医療論	保健衛生学	地域医療論	地域医療論	卒論実習	卒論実習	卒論実習	卒論実習
		薬物動態制御学		薬物治療学2	薬学実習8	医薬品安全性学		薬学実習9	薬学実習9				衛生薬学特論						
				薬物治療学3	薬学実習10	薬学統合演習1							地域医療論						
				薬物治療学4		薬学実習8													
				薬学統合演習1		薬学実習10													
3年	感染免疫学	医薬品化学1	感染免疫学	病態薬理学3	放射薬品学	医薬品情報学	調剤学		生物薬剤学	医薬品情報学	環境衛生学				医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	薬学統計学			医薬品情報学
	分子生物学	生薬学天然物化学	病態薬理学6	病態薬理学4	調剤学	医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	医薬品情報学		薬物動態学	薬学統計学	衛生化学								語学演習2
		生物薬剤学	薬学実習7	病態薬理学5							毒性学								
		薬学実習5		病態薬理学6							薬学実習6								
				薬物治療学1															
				薬学実習7															
				病院ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ臨床学習															
2年	生化学1	薬理学1	薬理学3	薬理学1							ｴｺﾉﾐｸｽ		栄養化学						語学演習1
	生化学2	薬理学2		薬理学2															
	生理学2	薬理学3		薬理学3															
	薬理学1	病態薬理学1		病態薬理学1															
	薬理学2	病態薬理学2		病態薬理学2															
	薬理学3																		
	薬学実習4																		
1年	生命科学1	基礎物理化学		医学概論								薬学への招待1			医学概論				
	生命科学2	薬科生物学		薬物治療学入門								薬学への招待2							
	機能形態学																		
	生理学1																		
	基礎生物学																		
	薬科生物学																		
	薬学実習2																		

2022年度入学生　カリキュラムツリー

共通教育科目	必修	選択

修得目標　レベル1‥A～F　レベル2‥1～33

	A：倫理観とプロフェッショナリズム					B：チーム医療を通した患者中心の医療への参画				C：医薬品の適正な調製と取扱い				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1年	生命倫理	ﾋｭｰﾏﾝｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		生命倫理		ﾋｭｰﾏﾝｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	ﾁｰﾑ医療論	ﾁｰﾑ医療論	ﾁｰﾑ医療論					医療社会学
	医療社会学			医療社会学		世界に羽ばたく医療人								
				英語		多文化社会論								
				生命倫理										
				医療統計学										
				ﾍﾙｽｹｱｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝ										
				医療心理学										
				臨床心理学										
				社会と医療										
				医療とﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ										
				医療経済学										
				基礎医療法学										
				日本国憲法										
				TOEIC対策英語										
				生命と物質のｻｲｴﾝｽ										
				ﾁｰﾑ医療論										
				医療界のﾜｰｸﾗｲﾌ学										
				ｺﾝﾀｸﾄﾚﾝｽﾞの基礎										
				医療数理科学入門										
				地域健康管理学入門										
				新薬発見のｹｰｽｽﾀﾃﾞｨｰ										
				災害からの復活と公衆衛生										
				夢の薬物送達ｼｽﾃﾑ(DDS)										
				世界に羽ばたく医療人										
				ｸﾞﾗﾌｨｯｸ基礎										
				ｱｶﾃﾞﾐｯｸｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ										
				ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ										
				ﾍﾙｽｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ										
				多文化社会論										

2022年度入学生　カリキュラムツリー

共通教育科目

必修	選択

修得目標　レベル1・・A～Ｆ　レベル2・・1～33

	D：薬物治療の実践										E：国民の健康維持と地域医療への貢献					F；科学的探究心			
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年					情報ﾘﾃﾗｼｰ	情報ﾘﾃﾗｼｰ						ﾁｰﾑ医療論	医療と ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ	ﾁｰﾑ医療論		医療統計学	ｱｶﾃﾞﾐｯｸ ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ	医療数理科学 入門	情報ﾘﾃﾗｼｰ
					医療統計学								災害からの復 活と公衆衛生				ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		英語
																	ﾍﾙｽ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		ｲﾝｸﾞﾘｯｼｭ ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ

履 修 に つ い て

授業および時間割

1．授業時間は以下のとおりです。

授業時限	1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目
時　　間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05

2．学生は各授業の開始時刻までに必ず教室に入室してください。遅刻者は入室を許可されないばかりでなく欠席扱いになることがあります。

3．授業中は私語や携帯電話の使用、飲食等をせず、静粛に受講してください。無断退室や授業を妨げるような行為は厳に慎んでください。講義は大学側で撮影するため、ビデオ、カメラ、タブレット等での撮影・録音はしないでください。違背者には厳正に対処いたします。

4．授業中に病気等やむを得ない事由で退席をするときは、授業担当教員にその旨を話し、指示を受けてください。

5．時間割の変更、教室の変更、休講等はその都度、掲示等でお知らせします。

履修登録

大学の授業には、全員が受講する必修科目と自由に選択することのできる選択科目があります。各学生がどの科目を受講するかについては大学に申告する必要があります。その申告が履修登録です。履修登録をしないと成績評価は勿論、単位が認定されなくなりますので、全員必ず行ってください。なお、履修登録期間等についてはガイダンスにてお知らせいたします。共通教育科目に含まれる選択科目のうち４単位を履修してください。ただし、選択科目の年間の履修単位数は８単位を上限とします。

出欠席

単位認定は授業時間数が基準になります。従って授業に出席することが大変重要になりますので、必ず出席してください。また、実習等に関する各種ガイダンスにも出席してください。

注）出席回数が出席すべき授業回数の３分の２に満たない場合には、当該科目について評価の対象外となり、定期本試験およびこれに準ずる試験の受験資格を失います。実習・演習等、実技を修得することが必要な科目についての欠席は原則として認めません。

1．講義・実習・演習などへの出欠の調査は、「出席管理システム」のほか、点呼、アンケート、サイン名簿表、レポート、小テスト等によって行います。授業担当者によりその方法は異なります。

2．大学または教員の都合による休講は、出席すべき授業時間数に含みません。

3．**欠席回数については学生各自の自己管理を原則とします**。

4．「出席管理システム」では、講義室・実習室の入退出の際に必ず学生証をカードリーダーにかざしてください。学生証を忘れた場合や学生証をかざし忘れた場合は欠席となります。ただし、以下の（1）～（2）の場合に限り、出席確認不備理由書を科目担当教員に提出することにより出席を認めます。出席確認不備理由書は教務課窓口にて受け取り、講義時間内に教員まで提出してください。

（1）選択科目の出欠席

（2）学生証紛失等により学生証再発行の手続き中の場合（学生証発行願を教員に提示してください）

また、他人に学生証を預けカードリーダーにかざしてもらう、他人の学生証を預かり代わりにカードリーダーにかざす、講義前後だけカードリーダーにかざして実際には出席しない等の場合は不正行為となります。（6．参照）

5．「出席調査用サイン名簿」を使用する場合、あるいは小テスト、レポート等により調査する場合は、原則として以下の取扱いとなります。

（1）出席調査時に不在の場合は欠席扱いとなります。

（2）サイン名簿を使用する場合、所定欄に記入しない場合は欠席扱いとなります。

（3）次のような行為は、不正行為となります。（6．参照）

①他人に自分の小テスト、レポートまたはサイン名簿の記入を依頼した場合

②小テスト、レポートまたはサイン名簿に他人の氏名等を記入した場合

③途中退席者の小テスト、レポートをその者に代わって提出した者、および依頼した場合

④サイン名簿に記入された他人の氏名を消去した場合

⑤サイン名簿の巡回を妨害した場合

⑥その他、出席に関する不正行為を行った場合

6．出席に関する不正行為を行った場合は以下の処分とし、学則に従い懲戒処分を科すことがあります。

（1）当該授業を欠席扱いとする。

（2）定期試験の受験を認めない。（本試験における成績評価は不合格とする）

7．病気、事故等やむをえない事情で欠席する場合は、原則診断書を添付のうえ、所定の欠席届を事前に事務部教務課に提出してください。事前に手続ができない場合は登校後 7 日以内に提出してください。届出が提出されても出席扱いとはしませんが、成績評価の参考資料、学生指導上必要ですので必ず提出してください。

8．交通機関の事故等により遅刻となった場合は、大学に到着後速やかに教務課窓口設置の電車遅延届を担当教員へ提出してください。電車遅延届には証明書が必要ですので、駅で必ず遅延証明書を受け取ってください。ただし、JR 埼京線の遅延については、JR より大学へ直接連絡が入りますので、遅延証明書の提出は不要です。

9．試験欠席の場合は、別掲の「試験」の規定に従ってください。

10．以下に挙げる理由による欠席に限り、欠席回数に算入しません。

（1）天災その他の非常災害。

（2）通学に使用する公共交通機関の突発事故等による大幅な遅延または運休。

（3）忌引（三親等以内の親族）。関係に応じて下表の日数とします。

忌引で授業を欠席した場合は、所定の忌引届に証明となる書類を添えて、忌引扱いの終了する日から数えて 7 日以内に事務部教務課窓口に提出してください。

学生との関係	忌引扱い日数	備　考
一親等（父、母、子）、配偶者	7 日	忌引扱い日数は、死亡日から起算した、日・祝日を含んだ連続の日数
二親等（祖父母、兄弟姉妹）	5 日	
三親等（伯父、叔父、伯母、叔母、曾祖父母）	3 日	

（4）通学不能と判断される重篤な疾患または不慮の事故。

（5）学校保健安全法に定める伝染性疾患（インフルエンザなど）。

（6）就職試験（6 年次のみ）。

（7）その他、学校がやむを得ない理由であると認めたもの。

交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合や警報が発令された場合の授業・実習の取扱いについては CAMPUS GUIDE を参照してください。

単位認定

単位は学修時間をもとに決められており、授業の方法および授業の教育効果などを考慮し、1 単位は 45 時間（講義の場合、授業 15 時間、予習 15 時間、復習 15 時間）の学修が基準となっています。

	単位数	半期/通年	総時間数	授業時間	準備学修（予習・復習等）
講義・演習	1単位	半期	45時間	15時間	30時間
	1.5単位	半期	67.5時間	24時間	43.5時間
	2単位	通年	90時間	32時間	58時間
実習	1単位	半期	45時間	30時間	15時間
	1.5単位	半期	67.5時間	45時間	22.5時間
	2単位	半期	90時間	60時間	30時間
	3単位	半期	135時間	90時間	45時間

1．１つの授業科目につき、出席すべき授業回数の３分の２以上の出席と 60 点（C評価）以上の成績評価により所定の単位を認定します。

2．成績評価は、90 点以上をＳ、80 点以上をＡ、70 点以上をＢ、60 点以上をＣとし、60 点未満をＤとします。60 点未満（D評価）は不合格とし、単位は認定されません。

3．学年末までに取得した単位数が規定の標準単位数より少ない場合は、学年末の会議により、仮進級もしくは留年となります。

ＧＰＡ制度

ＧＰＡ(Grade Point Average)制度とは、学修の成果を客観的な数値で評価するものです。この制度は、米欧の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しています。

＜ＧＰＡの算出方法＞

$$\frac{4.0\times \text{Ｓの修得単位数}+3.0\times \text{Ａの修得単位数}+2.0\times \text{Ｂの修得単位数}+1.0\times \text{Ｃの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む）}}$$

ＧＰＡスコアは 2.5 以上を確保することが望ましく、1.0 以下の者は退学勧告の対象となります。

試験の種類など

1．試験には主に次の種類があります。

（1）定期本試験　（2）中間試験　（3）授業中に行う試験　（4）学年末総合評価試験

2．定期本試験は原則として、前期または後期定期試験期間中に実施します。定期本試験の時間割・試験場は原則として**試験開始の２週間前まで**に掲示します。試験開始 10 分前には試験場に集合してください。

3．中間試験および授業中に行う試験は授業の進捗状況に応じて行うもので、実施については科目担当者の指示によります。

4．次のいずれかに該当する場合、受験を認めません。（成績評価の対象外となります。）

（1）出席が、出席すべき授業回数の**３分の２に満たない科目がある者**。（実習・演習等、実技を修得することが必要な科目についての欠席は原則として認めません）

（2）授業料その他必要な学費が**所定の期日までに未納である者。**

（3）学生証または仮学生証を所持していない者。

（4）その他、必要な手続きを終えていない者。

５．遅刻者は原則として受験を認めません。ただし、病気、事故その他やむを得ない事情により、**遅刻が試験開始後 20 分以内**であれば受験を認めます。その場合は原則として試験時間の延長は認めません。遅刻した場合は、試験開始からの経過時間・理由にかかわらず大学到着後速やかに事務部教務課に来てください。

追試験・再試験・認定試験・学年末総合評価試験

Ⅰ．試験欠席と追試験

１．定期本試験の受験資格がありながら、以下の理由で受験できなかった場合、追試験の受験を認めます。

（１）天災その他の非常災害。

（２）通学に使用する公共交通機関の突発事故等による大幅な遅延または運休。

（３）忌引（三親等以内の親族)。日数は（出欠席１０-（３））を参照。

（４）通学不能と判断される重篤な疾患または不慮の事故。

（５）学校保健法に定める伝染性疾患（インフルエンザなど)。

（６）就職試験（６年次のみ)。

（７）その他、学校がやむを得ない理由であると認めたもの。

２．追試験の受験を希望する者は、午前８時４５分以降、試験開始時刻までに電話で事務部教務課に連絡するとともに、欠席した定期本試験が行われた日から起算して３日以内に、当該科目担当教員に相談の上、欠席理由を証明できる書類（遅延証明書、診断書などの原本および教員提出用の複写）を添えて、所定の「試験欠席届（教務課提出用・担当教員提出用)」および「追・再試決定通知」を教務課および当該試験の担当教員に提出してください。また、所定の試験願に追試験料（1 科目につき 500 円）の入金証明書（証明書発行機にて発行）を添付のうえ指定された期間内に事務部教務課へ提出し、科目担当者の許可を得なければなりません。

３．就職試験により定期試験を欠席する場合は、あらかじめ当該授業担当教員の承認を受けた上で、「試験欠席届」を教務課および当該授業担当教員に提出してください。

４．追試験の日程は、実施が決まった場合に掲示または LMS 等により通知します。

５．追試験の成績は、点数の上限は 90 点とし、60 点以上を合格、60 点未満は不合格とします。評定尺度は、定期本試験に準じます。

６．追試験の不合格者および欠席者を対象とした試験は、原則として行いません。

７．中間試験については原則として追試験を行いません。ただし、科目担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

Ⅱ．再試験

１．再試験を行う場合には以下の者を対象とします。

（１）定期本試験を受験し、不合格だった場合。

（２）学校が認めた理由（試験欠席と追試験　（１）～（７））によらず、定期本試験を欠席した場合。ただし「試験欠席届」が欠席した定期本試験が行われた日から起算して３日以内に提出されている場合に限ります。

（３）出席が授業回数の３分の２に満たない場合、定期本試験の受験資格を失った者のうち、欠席回数が授業回数の半分を超えない場合。

（４）その他、学校が再試験受験を認めた場合。

2．学年末総合評価試験対象科目（ヒューマンコミュニケーションを除く）においては、定期本試験で 60 点以上 70 点未満の者に、再試験の受験を認めることがあります。受験を希望する場合には所定の手続きが必要となります。

3．以下の者については、再試験を受験できません。

（1）試験開始時刻までに電話で事務部教務課に連絡がなく、定期本試験を欠席し、正当な理由の「試験欠席届」が３日以内に提出されていない場合。

（2）欠席回数が授業回数の半分を超えた場合。

（3）正当な理由なく確認テストを欠席した場合。

4．再試験を受験する者は、所定の試験願に再試験料（１科目につき 2,000 円）の入金証明書（証明書発行機にて発行）を添付のうえ、指定された期間内に事務部教務課へ提出し、科目担当者の許可を得なければなりません。なお、期間内に受験手続をしなかった者は**受験を放棄したものとみなします。**

5．再試験の成績は以下のとおりとします。

（1）学年末総合評価試験対象科目（ヒューマンコミュニケーションを除く）においては、評定尺度を以下の通りとします。再試験に合格した場合、評定は変更となることがありますが、点数は定期本試験の点数のままに据え置きます。ただし、定期本試験で 60 点以上 70 点未満の者は、定期本試験での合格が再試験の結果により取り消されることはありません。

評定	再試験点数	合否	ＧＰ
B	80～100	合格	2.0
C	60～79	合格	1.0
D	60 未満	不合格	0

（2）（1）以外の科目においては、再試験に合格した場合、成績の点数は定期本試験の点数のままに据え置き、評定はＣとします。

5．再試験の不合格者および欠席者を対象とした試験は、原則として行いません。

6．４年次科目においては、再々試験を実施することがあります。ただし、再々試験については、規定の条件を満たしていない場合は受験資格を失います。

7．中間試験については原則として再試験を行いません。ただし、授業担当者が必要と認めた場合はその限りではありません。

Ⅲ．認定試験

1．仮進級した者を対象に、未認定の科目について、原則として下級年次の追再試験と同時期に認定試験を行います。

2．認定試験の合否判定は、それまでに行われた当該科目の諸試験の成績などを参考にして、総合的に下すことがあります。

3．認定試験に合格した場合、科目の単位が認定されますが、成績の点数は定期本試験の点数のままに据え置き、評定はＣとします。

4．認定試験の欠席者を対象とした試験は、原則として行いません。

5．認定試験対象科目は、原則として前年次科目に限ります。

Ⅳ．学年末総合評価試験

1．学年末総合評価試験は、１～３年次の年度末にＣＢＴ形式（コンピューターでの試験）で行います。

２．試験範囲は入学から受講した全ての科目が対象となります。ただし、情報リテラシー、医療社会学、英語、薬学への招待２、選択科目、語学演習１～２、医療コミュニケーション１～２、薬学実習１～７は、学年末総合評価試験の対象外とします。

３．当該学年の学年末総合評価対象科目の出席が総授業回数の３分の２に満たない場合、学年末総合評価試験の本試験受験資格を失います。

４．以下の者については、再試験を受験できません。

（１）学年末総合評価試験を欠席し、正当な理由の「試験欠席届」が提出されていない者。

（２）欠席回数が当該学年、学年末総合評価対象科目の総授業回数の半分を超えた者。

５．再試験の不合格者および欠席者を対象とした試験は、原則として行いません。

６．学年末総合評価試験（本試験・追再試験）の合格基準は正答率 60%以上とします。

受験上の注意

Ⅰ．受験における注意事項

１．指定された試験場および座席で受験してください。

２．試験場においては、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は、退場を命ずることがあります。

３．学生証を呈示しない者は受験できません。学生証を忘れた場合には、仮学生証の発行を受け、それを呈示してください。

４．ノートなどの持ち込みが認められている場合でも、複写（コピー）したものは許可しません。

５．教科書、参考書、辞書などの持ち込みが許可されている場合でも、書き込みのあるものは許可しません。

６．試験開始前に、携帯電話や iPad などは電源を必ず切って、かばんに入れてください。試験終了後、指示があるまではかばんに触れないでください。

７．試験時間は、原則として 60 分とします。

８．試験開始後 20 分以内の遅刻者には原則として受験を認めます。ただし、試験時間は延長しません。

９．試験中の退室は、原則として認めません。

１０．試験中に机や手などに記録を残してはいけません。

１１．答案用紙は、試験監督者の指示に従って提出しなければいけません。

１２．出席番号、氏名などの必要事項が答案用紙に正確に記入されていない場合、答案を無効とすることがあります。

Ⅱ．試験における不正行為およびその対処

１．試験中の次のような行為は不正行為とみなされます。

（１）筆記用具、学生証その他試験監督者が許可していないものを使用した場合、または机上や机の中に置いたり所持していたりした場合。

（２）受験者同士で私語をした場合、あるいは受験者同士で筆記用具を貸借した場合。

（３）他人の答案を故意に覗いたり、また故意に他人に見せたりした場合。

（４）回収の指示がある試験問題等を試験室外へ持ち出した場合、または内容を記録した場合。

（５）その他試験監督者の指示に従わない等、受験態度が不良であった場合。

２．不正行為を行った者には次のように対処します。

（１）即時受験を停止し、試験室から退室とする。

（2）不正行為を行った場合は、不正行為を行った科目および当該年度中にすでに終了した試験の成績をすべて無効とすると同時に不正行為を行った時点以降当該年度中のすべての試験（追試験、再試験を含む）について受験停止とする。また、学則及び学部規程の定めにより懲戒処分を行う。

レポート

担当教員の指示により、レポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

1．レポート用紙のサイズは特に指定が無い場合は、各自判断してください。

2．指示された受付期間内に必ず提出してください。受付期間前および締め切り日に遅れたレポートは一切受け取れません。事務室前のレポート BOX に提出する場合は指定された BOX 番号を十分確認の上、投函してください。誤って提出しても取り出しは行いません。

3．郵送および代理人提出は認められません。必ず本人が指定場所（窓口等）へ提出してください。

4．レポートは必ず表紙をつけて学科、学年、学籍番号、氏名、科目、担当教員を記入し、ホチキス等で１冊に綴じてください。綴じていないもの、表紙のないものについては、受け取れません。

5．レポート内容の盗用・剽窃は不正行為であるので、処分を科すことがあります。

進級、卒業

Ⅰ．進級

1．進級の判定は、学年末に開かれる会議において行われます。

2．本学部における教育制度は学年制を加味した単位制となっているので、その学年末までに取得した単位数が規定の標準単位数より少ない場合は、会議の議により、仮進級もしくは留年となります。ただし、薬学実習１～１０およびヒューマンコミュニケーションのうち１科目でも未認定の場合には、原則として取得した単位数に関係なく仮進級を認めません。また、５年次への仮進級は、原則として認めません。

3．１～３年次における進級要件は以下のとおりとします。

・当該学年における必要単位をすべて取得すること。ただし、必修科目未認定科目数が２科目以下の場合は仮進級を認めます。

・過年度未認定科目の認定試験に全て合格すること。

・学年末総合評価試験に合格すること。ただし、学年末総合評価試験（本試験・追再試験）の合格基準は正答率60%以上とします。

・進級ＧＰＡが 1.10 以上であること。

4．４年次生は薬学共用試験（CBT と OSCE）に合格しないと５年次に進級できません。

5．５年次生は薬学実務実習（病院・薬局）を終了しないと６年次に進級できません。

6．留年となった場合は、既得の単位は認定されますが、当該学年の全教科目を再履修することを原則とします。ただし、英語、選択科目、実習・演習科目（薬学実習８、９、１０、薬学演習、薬学統合演習１を除く）については、再履修する必要がありません。

7．仮進級となった場合は、進級後に行われる未認定科目についての認定試験に合格すれば、単位が認定されます。ただし、認定試験対象科目は原則として前年次科目に限ります。

Ⅱ．卒業

1．以下の項目をすべて満たすことにより、教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位が授与されます。

（1）薬学部に６年以上在籍し、卒業に必要な所定の単位をすべて修得していること。

（2）ディプロマ・ポリシーに明示されている薬剤師に求められる基本的な資質と能力を備えていると認められること。

在学年限

医学部および薬学部は 12 年、医療技術学部は 8 年とします。ただし、スポーツ医療学科救急救命士コースを除き、同一学年における在学年限を 2 年までとします（2009 年度以前入学生は 3 年）。

休学

1．休学は事情により認められます。

2．休学（3 か月以上欠席の場合）しようとする者は、所定の休学願を事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。休学願の提出期限は 12 月末日とします。

3．病気その他やむを得ない事情で休学しようとする者は、所定の休学願に病気の場合は医師の本学指定の診断書を、その他の場合は事由を明記した書類を添付してください。

4．休学期間は、休学願が提出された学年末までの 1 年以内とします。事情によっては 2 年以内まで認めることがあります。その場合は改めて所定の手続きをとってください。

5．休学期間は在学期間に算入しません。ただし、12 月末日までに休学願を提出した場合に限ります。

6．休学可能な年数は通算して 3 年ですが、連続して休学できるのは 2 年までです。

7．休学中においても学費を納入する必要があります。

復学

1．休学していた者が復学するときは、所定の復学願を 2 月中旬から 2 月末日までの間に事務部教務課へ提出し、学長の許可を得なければなりません。病気回復により復学する者は、「復学可能である」という医師の診断書を添付してください。

2．復学した場合は復学した学年と同額の学費を納入する必要があります。

退学

1．病気その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、所定の退学願を事務部教務課に提出し、学長の承認を得なければなりません。退学願には学生証を添付してください。またロッカーの私物も持ち帰ってください。

2．他の大学に転学しようとする場合は退学願を事務部教務課へ提出し、学長の承認を得た後、転学の手続きをしてください。

3．退学を願い出る場合は、退学日までの学費を完納していなければなりません。

除籍

1．以下のいずれかに該当する者は除籍となります。（スポーツ医療学科救急救命士コースは（2）は除く）

（1）学則第 17 条に定める在学年限を超えた者（医学部および薬学部 12 年、医療技術学部 8 年）。

（2）同一学年の在学年数が 2 年を超えた者（2009 年以前入学生は 3 年を超えた者）。

（3）長期にわたり行方不明の者。

（4）授業料等を正当な事由なく期日内に納入せず、かつ督促を受けても納入しない者。

2．上記（4）による除籍後、長期にわたらないうちに事由が解消し、学業継続が可能になった者が復籍を願い出たときは許可されることがあります。復籍を希望する者は、学費を納入すると共に、復籍料 5,000 円を添えて所定の復籍願を事務部教務課に提出してください。

オフィスアワー

本学には、オフィスアワー制度が設けられています。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修・学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深めアドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいいます。相談時間に該当する時間であっても出張や会議等の理由から教員が不在となる場合があります。

講義内資料

授業中に使用する資料の中には、様々な文献から引用した図表や日常の診療で経験した画像などが含まれます。これらの資料は、学生が勉学に利用することを目的としていますので、自らの勉学以外に不正に使用することや、どこかに置き忘れて学外者にわたるようなことがないように注意してください。

科目ナンバー

シラバスに記載の「科目ナンバー」は、体系的な学修のために、科目を分類したものです。

＜上 4 桁－下 5 桁＞の番号で、上 4 桁は 0000 固定です。下 5 桁の分類ルールは以下のとおりです。

学部		学科		水準		連番
Y	薬学部	1	薬学科	1	学士課程 1 年レベル	01～99
				2	学士課程 2 年レベル	
				3	学士課程 3 年レベル	
				4	学士課程 4 年レベル	
				5	学士課程 5 年レベル	
				6	学士課程 6 年レベル	

共用試験

１．実施のための条件

（1）薬剤師免許を持たない薬学生が病院と薬局における参加型の実務実習を行うためには、次の３つの条件を満たす必要があります（平成 19 年５月の厚生労働省医薬食品局の通達による）。

①患者の同意（患者の権利の保障と安全確保の観点から、患者の同意を個別または包括的に得た上で実習を実施すること）

②目的の正当性（質の高い薬剤師の養成を目指すという正当な目的のための実習であること）

③行為の相当性（実習生と実習指導者の資質が担保され、実習に係わる患者、医療従事者、実習生に対する保障体制が整備されていること）

（2）前項③のうち、実習生の資質の担保のためには、ア） 大学における事前学習を充分かつ適切に実施すること、イ）薬学共用試験を適正に実施すること、ウ） 各大学の６年制薬学教育に対する第三者評価を実施することが必要とされています。

２．薬学共用試験

（1）薬学共用試験は、知識を試験する CBT（Computer-Based Testing）と技能・態度を試験する OSCE（Objective Structured Clinical Examination：オスキー）で構成され、薬学共用試験センターが実施します。

（2）2022 年度に実施する CBT の出題分野と問題数は下記のとおりで、各学生は３ゾーンすべてを１日で受験します。本学では、１学年を２グループに分け、12 月中旬２日間で CBT を実施します。2022 年度は 12 月 20 日（火）21 日（水）に実施する予定です。

ゾーン	試験時間	分野	コアカリ番号	問題数
1	120 分	物理系薬学	C1,C2	30
		化学系薬学	C3,C4,C5	35
		生物系薬学	C6,C7,C8	35
2	120 分	薬理・薬物治療	E1,E2	60
		薬剤系	E4,E5	35
		情報系	E3	15
3	120 分	基本事項	A	10
		衛生薬学	D	40
		薬学と社会	B	20
		実務実習前に修得する事項	F	30

（3）2022 年度に実施する OSCE の出題領域と課題の内容は下記のとおりで、各学生は合計 6 課題（薬剤の調製が 2 課題）を受験します。2022 年度は、12 月 4 日（日）に実施する予定です。

領域	課題の内容
1.患者・来局者応対	薬局での患者応対、病棟での初回面談、来局者応対、在宅での薬学的管理
2.薬剤の調製	計量調剤（散剤・水剤・軟膏剤）、計数調剤（錠剤・外用剤など）
3.調剤監査	調剤薬監査（散剤・水剤・錠剤など）、持参薬チェック
4.無菌操作の実践	手洗いと手袋の着脱／手指の消毒と手袋・ガウンの着脱、注射剤混合
5.情報の提供	薬局での薬剤交付、病棟での服薬指導、一般用医薬品の情報提供、疑義照会、医療従事者への情報提供

（4）CBT と OSCE の両方に合格しないと、5 年次に進級することができません。

（5）CBT と OSCE の追・再試験は、当該年度内に 1 回のみ受験できます。

（6）当該年度の臨床準備教育（実務実習事前学習）に該当する授業科目をすべて履修していないと、OSCE 本試験を受験することができません。

国家試験

各々の学科を卒業すると、各々の国家試験の受験資格が取得できます。この国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けることによって、医師、薬剤師、視能訓練士、看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師、救急救命士になることができます。詳しくは各施行規則等を確認してください。

卒業する学部学科	取得できる国家試験受験資格	関連法令
医学部	医師	医師法 医師法施行規則
薬学部	薬剤師	薬剤師法 薬剤師法施行規則
医療技術学部 視能矯正学科	視能訓練士	視能訓練士法 視能訓練士法施行規則
医療技術学部 看護学科	看護師 保健師※1	保健師助産師看護師法 保健師助産師看護師法施行規則
医療技術学部 診療放射線学科	診療放射線技師	診療放射線技師法 診療放射線技師法施行規則
医療技術学部 臨床検査学科	臨床検査技師	臨床検査技師等に関する法律 臨床検査技師等に関する法律施行規則 臨床検査技師等に関する法律施行令
医療技術学部 スポーツ医療学科 救急救命士コース	救急救命士※2	救急救命士法 救急救命士法施行規則

※1 保健師国家試験受験資格は、看護学科において、卒業に必要な単位の他、保健師課程の単位を修得した場合に取得できます。

※2 救急救命士国家試験受験資格は、スポーツ医療学科救急救命士コースにおいて、救急救命士国家試験受験資格に必要な科目をすべて修得し、卒業要件単位を満たした場合に取得できます。

時　　間　　割

2022年度　薬学部［1年 前期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	機能形態学 （細山田）	薬学への招待１ （丸山ほか）	薬学実習１ またはヒューマンコミュニケーション または演習		
	2	薬学への招待１ （丸山ほか）	機能形態学 （細山田）			
火	1	生命倫理 （久保田）	基礎生物学 （山口）	薬学実習１ またはヒューマンコミュニケーション または演習		
	2	基礎生物学 （山口）	生命倫理 （久保田）			
水	1	基礎化学 （忍足・田畑）	英語 （松原・西本・牛島）	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目
	2	英語 （松原・西本・牛島）	基礎化学 （忍足・田畑）			
木	1	情報リテラシー （横山ほか）	基礎物理化学 （楯）	薬学実習１ またはヒューマンコミュニケーション または演習		
	2	基礎物理化学 （楯）	情報リテラシー （横山ほか）			
金	1	薬学数学１ （藤代）	生命科学１ （原田）	薬学実習１ またはヒューマンコミュニケーション または演習		
	2	生命科学１ （原田）	薬学数学１ （藤代）			
土	1	補講	補講			
	2					

薬学実習１：５月２０日（金）～６月７日（火）（ガイダンス含）。
午後のヒューマンコミュニケーションと演習の日程の詳細は、別途通達する。
午前の講義室は、ガイダンスで通達する。

2022年度　薬学部［1年 後期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	生理学１ （上園・森麻）	医療社会学 （大滝ほか）	薬学実習２ またはＢＬＳ または演習		
	2	医療社会学 （大滝ほか）	生理学１ （上園・森麻）			
火	1	薬品分析化学 （馬渡）	薬学数学２ （藤代）	薬学実習２ または「薬物治療学入門（安藤）」、「薬学への招待２（厚味ほか）」 または演習		
	2	薬学数学２ （藤代）	薬品分析化学 （馬渡）			
水	1	医学概論 （細山田）	英語 （松原・西本・牛島）	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目
	2	英語 （松原・西本・牛島）	医学概論 （細山田）			
木	1	物理化学１ （岸本）	生命科学２ （原田・濱）	薬学実習２ または「薬学数学２（藤代）」、「薬学への招待２（厚味ほか）」 または演習		
	2	生命科学２ （原田・濱）	物理化学１ （岸本）			
金	1	薬科生物学 （道志）	有機化学１ （忍足）	薬学実習２ またはＢＬＳ または演習		
	2	有機化学１ （忍足）	薬科生物学 （道志）			
土	1	ヒューマンコミュニケーション				
	2					

薬学実習２：９月２２日（木）～１０月１８日（火）（ガイダンス含）。演習の日程の詳細は、別途通達する。
後期のヒューマンコミュニケーションは、医学部・医療技術学部と合同（土曜日２回）。日程の詳細は、別途通達する。
午前の講義室は、ガイダンスで通達する。

2022年度　薬学部［2年 前期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	有機化学２ （高野）	薬理学２ （上園・小野）	薬学実習３ または演習		
	2	薬理学２ （上園・小野）	有機化学２ （高野）			
火	1	物理化学２ （岸本・今野）	物理薬剤学 （横山）	薬学実習３ または語学演習１ または演習		
	2	物理薬剤学 （横山）	物理化学２ （岸本・今野）			
水	1	製剤学１ （唐澤）	薬理学１ （坂本）	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目
	2	薬理学１ （坂本）	製剤学１ （唐澤）			
木	1	応用分析化学 （安田）	生化学１ （佐々木）	薬学実習３ または語学演習１ または演習		
	2	生化学１ （佐々木）	応用分析化学 （安田）			
金	1	生理学２ （根岸）	医療コミュニケーション１ （唐澤ほか）	薬学実習３ または演習		
	2	医療コミュニケーション１ （唐澤ほか）	生理学２ （根岸）			
土	1	補講	補講			
	2					

薬学実習３：４月８日（金）～４月２８日（木）。
土曜日の補講は、必要に応じて不定期に行われる。
午前の講義室は、ガイダンスで通達する。

2022年度　薬学部［2年 後期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	生化学２ （山下）	病態・薬理学１ （伊藤）	薬学実習４ または演習		
	2	病態・薬理学１ （伊藤）	生化学２ （山下）			
火	1	物理化学３ （三枝・村田）	薬理学３ （飯島・坂本）	薬学実習４ または語学演習１ または演習		
	2	薬理学３ （飯島・坂本）	物理化学３ （三枝・村田）			
水	1	エコサイエンス （山本・長田）	病態・薬理学２ （厚味）	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目	【選】共通教育科目
	2	病態・薬理学２ （厚味）	エコサイエンス （山本・長田）			
木	1	栄養化学 （岡）	機器分析学 （三枝・福内）	薬学実習４ または語学演習１ または演習		
	2	機器分析学 （三枝・福内）	栄養化学 （岡）			
金	1	製剤学２ （黄倉）	有機化学３ （杉山）	薬学実習４ または演習		
	2	有機化学３ （杉山）	製剤学２ （黄倉）			
土	1	補講	補講			
	2					

薬学実習４：１０月２０日（木）～１１月１４日（月）（ガイダンス含）。
土曜日の補講は、必要に応じて不定期に行われる。
午前の講義室は、ガイダンスで通達する。

2022年度　薬学部［3年 前期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	環境衛生学 （山本・下山）	臨床分析学 （安田・福内）	薬学実習５または薬学実習６ または演習		
	2	臨床分析学 （安田・福内）	環境衛生学 （山本・下山）			
火	1	感染免疫学 （本間・青木）	病態・薬理学４ （厚味）	薬学実習５または薬学実習６ または語学演習２ または演習		
	2	病態・薬理学４ （厚味）	感染免疫学 （本間・青木）			
水	1	薬学統計学 （青木・森千）	調剤学 （渡辺茂・渡部多）			
	2	調剤学 （渡辺茂・渡部多）	薬学統計学 （青木・森千）			
木	1	衛生化学 （荒田）	有機化学４ （忍足）	薬学実習５または薬学実習６ または語学演習２ または演習		
	2	有機化学４ （忍足）	衛生化学 （荒田）			
金	1	病態・薬理学３ （大藏）	生物薬剤学 （鈴木亮・小俣）	薬学実習５または薬学実習６ または演習		
	2	生物薬剤学 （鈴木亮・小俣）	病態・薬理学３ （大藏）			
土	1	補講	補講			
	2					

薬学実習５：５月６日（金）～５月２５日（水）（ガイダンス含）、薬学実習６：６月７日（火）～６月２７日（月）（ガイダンス含）。
土曜日の補講は、必要に応じて不定期に行われる。
午前の講義室は、ガイダンスで通達する。

2022年度　薬学部［3年 後期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	放射薬品学 （宮田・長田）	医薬品化学１ （橘高ほか）	薬学実習７ または演習		
	2	医薬品化学１ （橘高ほか）	放射薬品学 （宮田・長田）			
火	1	分子生物学 （本間光・森千）	医薬品情報学 （丸山・安原）	薬学実習７ または語学演習２ または演習		
	2	医薬品情報学 （丸山・安原）	分子生物学 （本間光・森千）			
水	1	生薬学・天然物化学 （山岡・田畑）	病態・薬理学５ （小野）			
	2	病態・薬理学５ （小野）	生薬学・天然物化学 （山岡・田畑）			
木	1	薬物治療学１ （板垣）	薬物動態学 （久保）	薬学実習７ または語学演習２ または演習		
	2	薬物動態学 （久保）	薬物治療学１ （板垣）			
金	1	病態・薬理学６ （宮田・河村）	毒性学 （鈴木俊・北）	薬学実習７ または 医療コミュニケーション２ または演習		
	2	毒性学 （鈴木俊・北）	病態・薬理学６ （宮田・河村）			
土	1	補講	補講			
	2					

薬学実習７：１１月１７日（木）～１２月６日（火）（ガイダンス含）。
土曜日の補講は、必要に応じて不定期に行われる。
午前の講義室は、ガイダンスで通達する。

2022年度　薬学部［4年 前期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	薬物治療学２ （安藤）	漢方医学概論 （山岡）	薬学実習８・９ または薬学演習 または医療コミュニケーション３ または演習		
	2	漢方医学概論 （山岡）	薬物治療学２ （安藤）			
火	1	保健衛生学 （鈴木俊・本間太）	医薬品安全性学 （渡邊真ほか）	薬学実習８・９ または薬学演習 または医療コミュニケーション３ または演習		
	2	医薬品安全性学 （渡邊真ほか）	保健衛生学 （鈴木俊・本間太）			
水	1	薬物治療学３ （飯島・板垣）	地域医療論 （安原ほか）	薬学実習８・９ または薬学演習 または医療コミュニケーション３ または演習		
	2	地域医療論 （安原ほか）	薬物治療学３ （飯島・板垣）			
木	1	薬物動態制御学 （鈴木亮ほか）	薬物治療学４ （渡邊真ほか）	薬学実習８・９ または薬学演習 または医療コミュニケーション３ または演習		
	2	薬物治療学４ （渡邊真ほか）	薬物動態制御学 （鈴木亮ほか）			
金	1	医薬品化学２ （橘高・杉山）	薬事関係法規・制度 （丸山ほか）	薬学実習８・９ または薬学演習 または医療コミュニケーション３ または演習		
	2	薬事関係法規・制度 （丸山ほか）	医薬品化学２ （橘高・杉山）			
土	1	補講	補講			
	2					

薬学実習８（実務実習事前学習）：４月１２日（火）～５月２０日（金）（ガイダンス含）。
薬学実習９：５月３１日（火）～６月２３日（木）（ガイダンス含）。
医療コミュニケーション３、薬学演習の日程の詳細は、別途通達する。
土曜日の補講は、必要に応じて不定期に行われる。午前の講義室は、１組-３０３教室、２組-３０４教室を原則とする。

2022年度　薬学部［4年 後期］時間割

帝京大学 薬学部

月～金曜日（1～５時限）
　基礎薬学特論１、基礎薬学特論２（９月）
　基礎薬学特論３、衛生薬学特論（１０～１１月）
　薬物動態制御学（１１月）
　薬学統合演習１（９～１０月、１月）
　薬学演習（４～１２月）

講義や演習は、１組-３０３教室、２組-３０４教室を原則とする。
薬学実習１０（１０～１２月）多目的実習室などで行われる。

土曜日は、必要に応じて講義などが行われることがある。

日程の詳細は、行事予定表を参照すること。

2022年度　薬学部［5年］時間割

帝京大学 薬学部

	第1期	第2期	第3期	第4期
	2月21日(月)~5月8日(日)	5月23日(月)~8月7日(日)	8月22日(月)~11月6日(日)	11月21日(月)~2月12日(日)
A組	薬局実習	病院実習	卒業研究	卒業研究
B組	卒業研究	薬局実習	病院実習	卒業研究
C組	卒業研究	卒業研究	薬局実習	病院実習

◯講義：学校期に、薬学最前線、医療コミュニケーション4の2つの講義がある。

2022年度　薬学部［6年 前期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	薬学統合演習２ 薬学総合講義１(物理・生物・衛生) 薬学総合講義２(化学・薬剤・病態薬治) 薬学総合講義３(薬理・実務・法規) ＊科目ごとに集中型講義 ＊日程の詳細は、行事予定表を参照。		卒論実習 または演習	卒論実習	卒論実習
	2					
火	1			卒論実習 または演習	卒論実習	卒論実習
	2					
水	1			卒論実習 または演習	卒論実習	卒論実習
	2					
木	1			卒論実習 または演習	卒論実習	卒論実習
	2					
金	1			卒論実習 または演習	卒論実習	卒論実習
	2					
土	1	補講	補講	補講	補講	補講
	2					

土曜日の補講は、必要に応じて不定期に行われる。午前の講義室は、１組-３０１教室、２組-４０１教室を原則とする。

2022年度　薬学部［6年 後期］時間割

帝京大学 薬学部

曜日	時限	1	2	3	4	5
	時間	9:00～10:30	10:45～12:15	13:05～14:35	14:50～16:20	16:35～18:05
月	1	薬学総合講義４：９月～１１月 ＊日程の詳細は、行事予定表を参照。		特別補講	特別補講	
	2					
火	1			特別補講	特別補講	
	2					
水	1			特別補講	特別補講	
	2					
木	1			特別補講	特別補講	
	2					
金	1			特別補講	特別補講	
	2					
土	1	補講	補講	補講	補講	補講
	2					

土曜日の補講は、必要に応じて不定期に行われる。講義室は、１組-３０１教室、２組-４０１教室を原則とする。

行　事　予　定

2022年

2021年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年				6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内(午前・午後)	実務実習	午前		午後		午前	午後	
3月	1	火								CBT追再試験 卒論実習 (B組・C組)	2022年度 第1期薬局実習 (A組) 2/21(月) ～5/8(日)							
	2	水								卒論実習 (B組・C組)								
	3	木																
	4	金																
	5	土	一般選抜型Ⅲ期															
	6	日	一般選抜型Ⅲ期															
	7	月								卒論実習 (B組・C組)		薬学最前線 追・再試験		新6年生ガイダンス/ 病院就職ガイダンス				
	8	火										薬学統合演習2-1			卒論実習			
	9	水										薬学統合演習2-2						
	10	木								CBT追再試験 予備日 卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2-3						
	11	金								卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2-4						
	12	土								OSCE追再試験 予備日 卒論実習 (B組・C組)								
	13	日																
	14	月							第1回研究室 配属ガイダンス	卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2-5			卒論実習			
	15	火							第1回研究室 配属ガイダンス			薬学統合演習2-6						
	16	水										薬学統合演習2-7						
	17	木	卒業式(日本武道館)									自学自習		自学自習				
	18	金										薬学統合演習2-8			卒論実習			
	19	土	オープンキャンパス									薬学統合演習2(予備日)						
	20	日																
	21	月																
	22	火								卒論実習 (B組・C組)		第107回薬剤師国家試験 体験受験						
	23	水																
	24	木	第107回国家試験発表									薬剤師国家試験 解説・演習補講①				国家試験発表		
	25	金	薬学会年会									薬剤師国家試験 解説・演習補講②						
	26	土	薬学会年会															
	27	日	薬学会年会															
	28	月	薬学会年会							卒論実習 (B組・C組)		薬剤師国家試験 解説・演習補講③						
	29	火										薬剤師国家試験 解説・演習補講④						
	30	水						新4年生教務ガイダンス 第1回実務実習ガイダンス(教員)				薬剤師国家試験 解説・演習補講⑤						
	31	木				新3年生 ガイダンス 習熟度テスト	習熟度テスト 新3年生 ガイダンス		第1回研究室配属 調査/習熟度テスト									

2022年

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内(午前・午後)	実務実習	午前	午後	
4月	1	金				新2年生 ガイダンス	新2年生 ガイダンス					卒論実習 (B組・C組)	2022年度 第1期薬局実習 (A組) 2/21(月) ～5/8(日)	卒論実習		
	2	土														
	3	日														
	4	月	入学式(日本武道館)	入学式	ガイダンス	月①		月①	語学演習2 1組 ①	月①	前期薬学演習ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ/ 第2回実務実習 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ(事務)	卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2-9	卒論実習	
	5	火		ガイダンス 担任顔合わせ	基礎学力試験	火①	薬学生のための 学び方講座A	火①	臨床学習 ガイダンス	火①	演習			薬学統合演習2-10	卒論実習	
	6	水		ガイダンス 担任顔合わせ	選択科目①	水①	選択科目①	水①	薬学生のための 学び方講座A	水①	健康診断			薬学統合演習2-11	卒論実習	
	7	木		木①	薬学生のための 学び方講座Ⅰ	木①		木①	健康診断	木①	演習			薬学統合演習2-12	卒論実習	
	8	金		健康診断		金①	薬学実習3	金①	語学演習2 2組 ①	金①	第2回配属 ガイダンス			薬学統合演習2-13	卒論実習	ガイダンス
	9	土														
	10	日														
	11	月		月①	演習ガイダンス	健康診断	薬学実習3	月②	演習ガイダンス	月②	第2回配属 希望調査	卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2-14	健康診断	月① 履修登録届提出期間
	12	火		火①	早期臨床体験 ガイダンス：病院	火②		火②	語学演習2 1組 ②	火②	A 医療コミュ3-① B 薬学実習8 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ			薬学統合演習2-15	卒論実習	火① 履修登録届提出期間
	13	水		水①	選択科目②	水②	選択科目②	水②	演習1-1	水②	第3回配属 希望調査			薬学統合演習2-16	卒論実習	水① 履修登録届提出期間
	14	木		木②	演習1-1	木②	薬学実習3	木②	語学演習2 2組 ②	木②	A 薬学実習8 ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ B 医療コミュ3-①			薬学統合演習2-17	卒論実習	木① 履修登録届提出期間
	15	金		金①	演習1-2	金②		金②	演習1-2	金②	薬学演習①			薬学統合演習2-18	卒論実習	金① 履修登録届提出期間
	16	土		ヒューマンコミュ												土① 履修登録届提出期間
	17	日														
	18	月		月②	演習1-3	月②	薬学実習3	月③	演習1-3	月③	薬学実習8-①	卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2-19	卒論実習	月②
	19	火		火②	早期臨床体験 病院①	火③		火③	語学演習2 1組 ③	火③	薬学実習8-②			薬学統合演習2-20	卒論実習	火②
	20	水		水②	選択科目③	水③	選択科目③	水③	演習1-4	水③	配属研究室 顔合わせ			薬学統合演習2-21	卒論実習	水②
	21	木		木③	ヒューマンコミュ ①A	木③	薬学実習3	木③	語学演習2 2組 ③	木③	薬学実習8-③			薬学統合演習2-22	卒論実習	木②
	22	金		金②	ヒューマンコミュ ①B	金③		金③	演習1-5	金③	薬学実習8-④			薬学統合演習2-23	卒論実習	金②
	23	土												薬学統合演習2(予備日)		土②
	24	日														
	25	月		月③	ヒューマンコミュ ①C	月③	薬学実習3 予備日	月④	演習1-6	月④	薬学実習8予備日	卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2定期試験		月③
	26	火		火③	早期臨床体験 病院②	火④		火④	語学演習2 1組 ④	火④	A 医療コミュ3-② B 演習			定期試験復習定期試験(予備日)		火③
	27	水		水③	選択科目④	水④	選択科目④	水④	演習1-7	水④	薬学演習 補充演習			卒論実習		水③
	28	木		木④	演習1-4	木④	薬学実習3 実習試験	木④	語学演習2 2組 ④	木④	A 演習 B 医療コミュ3-②			スタートアップ模試		木③
	29	金	昭和の日													
	30	土										卒論実習 (B組・C組)		模擬試験復習模擬試験(予備日)		土③

2022年

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
5月	1	日											2022年度 第1期薬局実習 （A組） 2/21（月） ～5/8（日）			
	2	月		月④	演習1-5	月④	演習ガイダンス	月⑤	演習1-8	月⑤	演習	卒論実習 （B組・C組）		卒論実習		月④
	3	火	憲法記念日													
	4	水	みどりの日													
	5	木	こどもの日													
	6	金		金③	演習1-6	金④	演習1-1	金④	薬学実習5 ガイダンス	金④	薬学演習②	卒論実習 （B組・C組）		薬学総合講義1-1 （物理・生物・衛生）	卒論/演習	金③
	7	土												薬学総合講義1-2	演習	土④
	8	日														
	9	月		月⑤	確認テスト	月⑤	薬学実習3 実習試験追再試	月⑥	薬学実習5	月⑥	薬学実習8-⑤	学力測定試験	学力測定試験	薬学総合講義1-3	卒論/演習	月⑤
	10	火		火④		火⑤	演習1-2	火⑤		火⑤	薬学実習8-⑥	卒論実習 （B組・C組） /帝京病院就職説明会	予備日 /帝京病院就職説明会	薬学総合講義1-4	卒論/演習 /帝京病院 就職説明会	火④
	11	水		水④	選択科目⑤	水⑤	選択科目⑤	水⑤	演習1-9	水⑤	演習	卒論実習 （B組・C組）	予備日	薬学総合講義1-5	卒論/演習	水④
	12	木		木⑤	確認テスト	木⑤	演習1-3	木⑤	薬学実習5	木⑤	薬学実習8-⑦	卒論実習 （B組・C組） / 卒業生による就職ガイダンス	予備日 / 卒業生による就職ガイダンス	薬学総合講義1-6	卒論/演習	木④
	13	金		金④		金⑤	演習1-4	金⑤		金⑤	薬学実習8-⑧	卒論実習 （B組・C組）	予備日	薬学総合講義1-7	卒論/演習	金④
	14	土														土⑤
	15	日														
	16	月		月⑥	確認テスト	月⑥	語学演習1 1，2組 ①	月⑦	薬学実習5	月⑦	薬学実習8-⑨	学力測定試験 見直し	学力測定試験 見直し	薬学総合講義1-8	卒論/演習	月⑥
	17	火		火⑤	早期臨床体験 病院③	火⑥	語学演習1 1組 ②	火⑥		火⑥	薬学実習8-⑩	ガイダンス（全体/C組） / 卒論実習（C組）	ガイダンス（全体/A・B組） / 予備日	薬学総合講義1-9	卒論/演習	火⑤
	18	水		水⑤	選択科目⑥	水⑥	選択科目⑥	水⑥	薬学実習5予備日/ 演習1-10	水⑥	演習	卒論実習 （C組）	振返り教育（A組） 直前教育（B組）	薬学総合講義1-10	卒論/演習	水⑤
	19	木		木⑥	早期臨床体験 病院④	木⑥	語学演習1 2組 ②	木⑥	演習1-11	木⑥	薬学実習8-⑪		医療コミュニケーション4 （A組）	薬学総合講義1-11	卒論/演習	木⑤
	20	金		金⑤	薬学実習1 ガイダンス	金⑥	確認テスト	金⑥	演習1-12	金⑥	薬学実習8 予備日		医療コミュニケーション4 （A組）	薬学総合講義1-12	卒論/演習	金⑤
	21	土												薬学総合講義1-13	演習	土⑥
	22	日														
	23	月		月⑦	薬学実習1	月⑦	確認テスト	月⑧	演習1-13	月⑧	薬学演習 補充演習	卒論実習 （C組）	2022年度 第2期病院実習（A組） 第2期薬局実習（B組） 5/23（月） ～8/7（日）	薬学総合講義1-14	卒論/演習	月⑦
	24	火		火⑥		火⑦		火⑦	演習1-14	火⑦	演習			薬学総合講義1-15	卒論/演習	火⑥
	25	水		水⑥	選択科目⑦	水⑦	選択科目⑦	水⑦	薬学実習5 実習試験	水⑦	演習			薬学総合講義1-16	卒論/演習	水⑥
	26	木		木⑦	薬学実習1	木⑦	確認テスト	木⑦	演習1-15	木⑦	演習			薬学総合講義1-17	卒論/演習	木⑥
	27	金		金⑥	演習1-7	金⑦		金⑦	確認テスト	金⑦	演習			薬学総合講義1-18	卒論/演習	金⑥
	28	土												薬学総合講義1（予備日）		土⑦
	29	日														
	30	月		月⑧	演習1-8	月⑧	演習1-5	月⑨	確認テスト	月⑨	演習	薬学最前線 （C組）		定期試験Ⅰ（物理・生物・衛生）		月⑧
	31	火		火⑦	薬学実習1	火⑧	語学演習1 1組 ③	火⑧		火⑧	A 医療コミュ3-③ B 実習9ガイダンス	卒論実習 （C組）		定期試験Ⅰ復習 定期試験Ⅰ（予備日）		火⑦

2022年

2022年度　行事予定

	日	曜	共　通	1　年		2　年		3　年		4　年		5　年		6　年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
6月	1	水		水⑦	選択科目⑧	水⑧	選択科目⑧	水⑧	薬学実習5 実習試験追再試	水⑧	演習	卒論実習 （C組）	2022年度 第2期病院実習（A組） 第2期薬局実習（B組） 5/23（月） ～8/7（日）	薬学総合講義2-1 （化学・薬剤・ 薬理病態薬治A）	卒論/演習	水⑦
	2	木		木⑧	薬学実習1	木⑧	演習1-6	木⑧	確認テスト	木⑧	A　実習9ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ B　医療ｺﾐｭ3-③			薬学総合講義2-2	卒論/演習	木⑦
	3	金		金⑦		金⑧	演習1-7	金⑧		金⑧	演習			薬学総合講義2-3	卒論/演習	金⑦
	4	土														土⑧
	5	日	オープンキャンパス													
	6	月		月⑨	薬学実習1 予備日	月⑨	演習1-8	月⑩	演習1-16	月⑩	薬学演習③	薬学最前線 （C組）		薬学総合講義2-4	卒論/演習	
	7	火		火⑧	薬学実習1 実習試験	火⑨	語学演習1 2組 ③	火⑨	薬学実習6 ガイダンス	火⑨	医薬品安全性学 （演習）	卒論実習 （C組）		薬学総合講義2-5	卒論/演習	火⑧
	8	水		水⑧	選択科目⑨	水⑨	選択科目⑨	水⑨	演習1-17	水⑨	演習			薬学総合講義2-6	卒論/演習	水⑧
	9	木		木⑨	ヒューマンコミュ ②A	木⑨	演習1-9	木⑨	薬学実習6	木⑨	薬学実習9			薬学総合講義2-7	卒論/演習	木⑧
	10	金		金⑧	ヒューマンコミュ ②B	金⑨	演習1-10	金⑨		金⑨				薬学総合講義2-8	卒論/演習	金⑧
	11	土														
	12	日														
	13	月		月⑩	ヒューマンコミュ ②C	月⑩	演習1-11	月⑪	薬学実習6	月⑪	薬学実習9	薬学最前線 （C組）		薬学総合講義2-9	卒論/演習	
	14	火		火⑨	早期臨床体験 病院⑤	火⑩	語学演習1 1組 ④	火⑩		火⑩		卒論実習 （C組）		薬学総合講義2-10	卒論/演習	
	15	水		水⑨	選択科目⑩	水⑩	選択科目⑩	水⑩	演習1-18	水⑩	演習			薬学総合講義2-11	卒論/演習	
	16	木		木⑩	ヒューマンコミュ ③A	木⑩	演習1-12	木⑩	薬学実習6	木⑩	薬学実習9			薬学総合講義2-12	卒論/演習	
	17	金		金⑨	ヒューマンコミュ ③B	金⑩	演習1-13	金⑩		金⑩				薬学総合講義2-13	卒論/演習	
	18	土								医薬品安全性学 （薬害）						
	19	日														
	20	月		月⑪	ヒューマンコミュ③C	月⑪	演習1-14	月⑫	薬学実習6	月⑫	薬学実習9	薬学最前線 （C組）		薬学総合講義2-14	卒論/演習	前期科目 定期試験
	21	火		火⑩	演習1-9	火⑪	演習1-15	火⑪		火⑪		卒論実習 （C組）		薬学総合講義2-15	卒論/演習	
	22	水		水⑩	選択科目⑪	水⑪	選択科目⑪	水⑪	演習1-19	水⑪	薬学実習9 予備日			薬学総合講義2-16	卒論/演習	
	23	木		木⑪	早期臨床体験 病院⑥	木⑪	演習1-16	木⑪	薬学実習6	木⑪	薬学実習9 実習試験			薬学総合講義2-17	卒論/演習	
	24	金		金⑩	ヒューマンコミュ	金⑪	演習1-17	金⑪	薬学実習6 予備日	金⑪	薬学演習 補充演習			薬学総合講義2-18	卒論/演習	
	25	土								第1回CBT模試				薬学総合講義2 （予備日）		
	26	日														
	27	月		月⑫	演習1-10	月⑫	**水⑫**	水⑫	薬学実習6 実習試験	**水⑫**	薬学実習9 実習試験予備日	薬学最前線 （C組）		定期試験Ⅰ （化学・薬剤・薬理病態薬治A）		
	28	火		火⑪	早期臨床体験 病院⑦	火⑫	語学演習1 2組 ④	火⑫	演習1-20	火⑫	演習	卒論実習 （C組）		定期試験Ⅰ復習 定期試験Ⅰ（予備日）		
	29	水	創立記念日													
	30	木		木⑫	演習1-11	木⑫	演習1-18	木⑫	ガイダンス	木⑫	1組　第2回教務 ガイダンス	卒論実習 （C組）		薬学総合講義3-1 （薬理病態薬治B・ 実務・法規）	卒論/演習	

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内(午前・午後)	実務実習	午前	午後	
7月	1	金		金⑪	ヒューマンコミュ	金⑫	演習1-19	金⑫	薬学実習6 実習試験追再試	金⑫	2組 第2回教務 ガイダンス	卒論実習(C組)	2022年度 第2期病院実習(A組) 第2期薬局実習(B組) 5/23(月) ～8/7(日)	薬学総合講義3-2	卒論/演習	
	2	土												薬学総合講義3-3	卒論/演習	
	3	日	オープンキャンパス													
	4	月		金⑫	早期体験学習 ガイダンス:薬局	前期科目 補講期間		前期科目 補講期間		前期科目 補講期間		卒論実習 (C組)		薬学総合講義3-4	卒論/演習	
	5	火		火⑫	早期臨床体験 病院⑧									薬学総合講義3-5	卒論/演習	
	6	水		水⑪	選択科目⑫		選択科目⑫							薬学総合講義3-6	卒論/演習	
	7	木		前期科目 補講期間										薬学総合講義3-7	卒論/演習	
	8	金												薬学総合講義3-8	卒論/演習	
	9	土														
	10	日														
	11	月		前期科目 補講期間								定期試験 (C組)		薬学総合講義3-9	卒論/演習	
	12	火										定期試験 (予備日)		薬学総合講義3-10	卒論/演習	
	13	水		水⑫	選択科目⑬		選択科目⑬					卒論実習 (C組)		薬学総合講義3-11	卒論/演習	
	14	木		前期科目 補講期間										薬学総合講義3-12	卒論/演習	
	15	金												薬学総合講義3-13	卒論/演習	
	16	土														
	17	日														
	18	月	海の日													
	19	火										卒論実習 (C組)		薬学総合講義3-14	卒論/演習	
	20	水			選択科目⑭		選択科目⑭							薬学総合講義3-15	卒論/演習	
	21	木		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験			薬学総合講義3 (予備日)		
	22	金		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験			薬学総合講義3 (予備日)		
	23	土		試験予備日		試験予備日		試験予備日		試験予備日				定期試験Ⅰ (薬理病態薬治B・実務・法規)		
	24	日														
	25	月		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	卒論実習 (C組)		定期試験Ⅰ復習 定期試験Ⅰ予備日		
	26	火		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験			卒論実習		
	27	水		定期試験	選択科目⑮	定期試験	選択科目⑮	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験			卒論実習		
	28	木		試験予備日		試験予備日		試験予備日		試験予備日				卒論実習		
	29	金		早期臨床体験薬局(半日)①										卒論発表会 (準備)	卒論発表会	
	30	土												卒論発表会		
	31	日														

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
8月	1	月		早期臨床体験薬局（半日）②		高齢者福祉施設実習 （実習期間のうちいずれか半日）						休暇（C組）	2022年度 第2期病院実習（A組） 第2期薬局実習（B組） 5/23（月） ～8/7（日）			
	2	火		早期臨床体験薬局（半日）③												
	3	水		早期臨床体験薬局（半日）④												
	4	木		早期臨床体験薬局（半日）⑤												
	5	金		早期臨床体験薬局（半日）⑥												
	6	土														
	7	日														
	8	月		早期臨床体験薬局（半日）⑦		高齢者福祉施設実習 （実習期間のうちいずれか半日）						夏期休業				
	9	火	オープンキャンパス	早期臨床体験薬局（半日）⑧												
	10	水	オープンキャンパス													
	11	木	山の日													
	12	金				高齢者福祉施設実習 （実習期間のうちいずれか半日）										
	13	土														
	14	日														
	15	月				高齢者福祉施設実習 （実習期間のうちいずれか半日）						学力測定試験	学力測定試験			
	16	火										ガイダンス（全体/A組） / 学力測定試験見直し	ガイダンス（全体/B・C組） / 学力測定試験見直し			
	17	水										学力測定試験の見直し	振返り教育（B組） 直前教育（C組）			
	18	木										卒論実習 （A組）	医療コミュニケーション4 （B組）	総合講義定期試験Ⅱ （生物・衛生）		
	19	金											医療コミュニケーション4 （B組）	総合講義定期試験Ⅱ （物理・薬剤）		
	20	土														
	21	日														
	22	月										休暇 （A組）	2022年度 第3期病院実習（B組） 第3期薬局実習（C組） 8/22（月） ～11/6（日）	総合講義定期試験Ⅱ （化学・薬理病態薬治A）		
	23	火												総合講義定期試験Ⅱ （薬理病態薬治B・法規・実務）		
	24	水		前期科目 追再試験①	前期科目 追再試験②	前期科目 追再試験①/ 認定試験	前期科目 追再試験②/ 認定試験	前期科目 追再試験①/ 認定試験	前期科目 追再試験②/ 認定試験	前期科目 追再試験①/ 認定試験	前期科目 追再試験②/ 認定試験			定期試験Ⅱ復習 定期試験Ⅱ（予備日）		
	25	木		前期科目 追再試験③	前期科目 追再試験④	前期科目 追再試験③/ 認定試験	前期科目 追再試験④/ 認定試験	前期科目 追再試験③/ 認定試験	前期科目 追再試験④/ 認定試験	前期科目 追再試験③/ 認定試験	前期科目 追再試験④/ 認定試験			ステップアップ模試		
	26	金		前期科目 追再試験⑤	前期科目 追再試験⑥	前期科目 追再試験⑤/ 認定試験	前期科目 追再試験⑥/ 認定試験	前期科目 追再試験⑤/ 認定試験	前期科目 追再試験⑥/ 認定試験	前期科目 追再試験⑤/ 認定試験	前期科目 追再試験⑥/ 認定試験			ステップアップ模試		博士課程 中間発表会
	27	土		前期科目追再試験 （予備日）		前期科目追再試験/認定試験 （予備日）		前期科目追再試験/認定試験 （予備日）		前期科目追再試験/認定試験 （予備日）				模試復習模試（予備日）		
	28	日														
	29	月		前期科目 追再試験⑦	前期科目 追再試験⑧	前期科目 追再試験⑦/ 認定試験	前期科目 追再試験⑧/ 認定試験	前期科目 追再試験⑦/ 認定試験	前期科目 追再試験⑧/ 認定試験	前期科目 追再試験⑦/ 認定試験	前期科目 追再試験⑧/ 認定試験			特別補講-1	面談	
	30	火		前期科目 追再試験⑨	前期科目 追再試験 （予備日）	前期科目 追再試験⑨/ 認定試験	前期科目 追再試験/ 認定試験 （予備日）	前期科目 追再試験⑨/ 認定試験	前期科目 追再試験⑩/ 認定試験	前期科目 追再試験⑨/ 認定試験	前期科目 追再試験⑩/ 認定試験	卒論実習 （A組）		特別補講-2	面談	
	31	水		前期科目追再試験 （予備日）		前期科目追再試験/認定試験 （予備日）		前期科目認定試験 （予備日）		医療コミュ3-④（事前講義） CBT体験受験ガイダンス 薬学統合演習1ガイダンス 第3回教務ガイダンス				特別補講-3	面談	

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内(午前・午後)	実務実習	午前	午後	
9月	1	木								医療コミュニケーション		卒論実習（A組）	2022年度 第3期病院実習（B組） 第3期薬局実習（C組） 8/22(月) ～11/6(日)	特別補講-4	面談	
	2	金												特別補講-5	面談	
	3	土						前期科目追再試験（予備日）		前期科目追再試験/認定試験（予備日）						
	4	日														
	5	月										卒論実習（A組）		薬学総合講義4-1	特別補講-6	月① 履修登録届提出期間
	6	火								薬学共用試験 CBT体験受験				薬学総合講義4-2	特別補講-7	火① 履修登録届提出期間
	7	水												薬学総合講義4-3	特別補講-8	水① 履修登録届提出期間
	8	木												薬学総合講義4-4	特別補講-9	木① 履修登録届提出期間
	9	金								薬学演習④ 薬学統合演習1	薬学統合演習1			薬学総合講義4-5	特別補講-10	金① 履修登録届提出期間
	10	土								予備校特別講義①						土① 履修登録届提出期間
	11	日														
	12	月								薬学統合演習1		薬学最前線（A組）		薬学総合講義4-6	特別補講-11	月②
	13	火										卒論実習（A組）		薬学総合講義4-7	特別補講-12	火②
	14	水			選択科目①		選択科目①							薬学総合講義4-8		水②
	15	木								薬学演習⑤ 薬学統合演習1	薬学統合演習1			全国統一模擬試験Ⅰ		木②
	16	金								薬学統合演習1				全国統一模擬試験Ⅰ		金②
	17	土								CBT体験受験（予備日）				模試復習模試（予備日）		土②
	18	日														
	19	月	敬老の日													
	20	火		早期体験学習 振り返り	教務ガイダンス 薬学生のための 学び方講座Ⅱ 薬学への招待2①	高齢者福祉施設実習事後学習			臨床学習 （選択科目） 講義（予定）	薬学統合演習1		卒論実習（A組）			特別補講-13	火③
	21	水		水①	選択科目②	水①	選択科目②	水①	ガイダンス	演習薬学統合演習1 予備日				薬学総合講義4-9	特別補講-14	水③
	22	木		木①	薬学実習2 ガイダンス	木①	語学演習1 1組 ⑤	木①	演習ガイダンス	薬学統合演習1 試験	第1回OSCEｶﾞｲﾀﾞﾝｽ 薬学実習1Oｶﾞｲﾀﾞﾝｽ			薬学総合講義4-10	特別補講-15	木③
	23	金	秋分の日													
	24	土		ヒューマンコミュニケーションA						薬学統合演習1 予備日		卒論実習（A組）				土③
	25	日														
	26	月		月①	薬学実習2	月①	演習ガイダンス	月①	演習2-1	第2回CBT模試		薬学最前線（A組）		薬学総合講義4-11	特別補講-16	月③
	27	火		火①		火①	語学演習1 2組⑤	火①	演習2-2	基礎1、2①	薬学実習1O-①	卒論実習（A組）		薬学総合講義4-12	特別補講-17	火④
	28	水		水②	選択科目③	水②	選択科目③	水②	演習2-3	基礎1、2②	薬学実習1O-②			薬学総合講義4-13	特別補講-18	水④
	29	木		木②	薬学実習2	木②	演習2-1	木②	演習2-4	基礎1、2③	薬学実習1O-③			薬学総合講義4-14	特別補講-19	木④ 学位申請の手引き配布
	30	金	卒延生卒業式	金①		金①	演習2-2	金①	医療コミュ2-①	基礎1、2④	予備校特別講義②			薬学総合講義4-15	特別補講-20	金③

2022年

2022年度　行事予定

	日	曜	共　通	１　年		２　年		３　年		４　年		５　年		６　年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
10月	1	土		ヒューマンコミュニケーションA								卒論実習（A組）	2022年度 第3期病院実習（B組） 第3期薬局実習（C組） 8/22（月） ～11/6（日）			土④
	2	日														
	3	月		月②	薬学実習2	月②	演習2-3	月②	演習2-5	基礎1、2⑤	演習	薬学最前線（A組）		薬学総合講義4-16	特別補講-21	月④
	4	火		火②		火②	語学演習11組 ⑥	火②	生薬学・天然物化学③ 演習（自学自習）	基礎1、2⑥	演習	卒論実習（A組）		薬学総合講義4-17	特別補講-22	火⑤
	5	水		水③	選択科目④	水③	選択科目④	1組:薬草園見学 2組:病態・薬理学5③④	1組:薬草園見学 2組:演習（自学自習）	基礎1、2⑦	演習			薬学総合講義4-18	特別補講-23	水⑤
	6	木		木③	薬学実習2	木③	語学演習1 2組 ⑥	木③	語学演習2 1組 ⑤	基礎1、2⑧	演習			薬学総合講義4-19	特別補講-24	木⑤
	7	金		金②		金②	演習2-4	金②	医療コミュ2-②	演習 基礎1、2予備日	演習			薬学総合講義4-20	特別補講-25	金④
	8	土	総合型選抜Ⅰ期（仮）													
	9	日	総合型選抜Ⅰ期（仮）													
	10	月	スポーツの日													
	11	火		火③	薬学実習2	火③	語学演習1 1組 ⑦	火③	生薬学・天然物化学③ 演習（自学自習）	定期試験（基礎1、2） 第3回実務実習ガイダンス（事務）（教員）		卒論実習（A組）		薬学総合講義4-21	特別補講-26	火⑥
	12	水		水④	選択科目⑤	水④	選択科目⑤	1組:病態・薬理学5③④ 2組:薬草園見学	1組:演習（自学自習） 2組:薬草園見学	薬学演習⑥ 薬学統合演習1	薬学統合演習1			薬学総合講義4-22	特別補講-27	水⑥
	13	木		木④	薬学実習2 予備日	木④	語学演習1 2組 ⑦	木④	語学演習2 2組 ⑤	薬学統合演習1				薬学総合講義4-23	特別補講-28	木⑥
	14	金		金③	休講	金③	休講	金③	休講	薬学演習⑦ 薬学統合演習1	演習			薬学総合講義4-24		金⑤
	15	土	帝桜祭（仮）													
	16	日														
	17	月		月③	薬学への招待2② ／演習ガイダンス	休講	休講	休講	休講	薬学統合演習1		薬学最前線（A組）		薬学総合講義4 学力判定試験1（345問）		月⑤
	18	火		火④	薬学実習2 実習試験	火④	演習2-5	火④	語学演習2 1組 ⑥			卒論実習（A組）		薬学総合講義4 学力判定試験1（345問）		火⑦
	19	水		水⑤	選択科目⑥	水⑤	選択科目⑥	水⑤	医療コミュ2-③	薬学演習⑧ 薬学統合演習1	薬学統合演習1			学力判定試験1復習 学力判定試験1（予備日）		水⑦
	20	木		木⑤	演習2-1	木⑤	薬学実習4 ガイダンス	木⑤	語学演習2 2組 ⑥	薬学統合演習1				冬期補講1		木⑦
	21	金		金④	薬学への招待2③④	金④	薬学実習4	金④	医療コミュ2-④					冬期補講2		金⑥
	22	土		ヒューマンコミュニケーションB						定期試験（基礎1、2） 予備日						土⑤
	23	日														
	24	月		月④	演習2-2	月③	薬学実習4	月③	演習2-6	薬学演習⑨ 薬学統合演習1	薬学統合演習1	薬学最前線（A組）		冬期補講3		月⑥
	25	火		火⑤	確認テスト	火⑤		火⑤	語学演習2 1組 ⑦	薬学統合演習1		卒論実習（A組）		冬期補講4		火⑧
	26	水		水⑥	選択科目⑦	水⑥	選択科目⑦	水⑥	演習2-7					冬期補講5		水⑧
	27	木		木⑥	薬学実習2 実習試験追再試	木⑥	薬学実習4	木⑥	語学演習2 2組 ⑦	薬学統合演習1 試験	薬学実習10-④			冬期補講6		木⑧
	28	金		金⑤	確認テスト	金⑤		金⑤	医療コミュ2-⑤	第3回CBT模試				冬期補講7		金⑦ 学位論文要旨提出締切
	29	土								予備校特別講義③						土⑥
	30	日														
	31	月		月⑤	確認テスト	月④	薬学実習4	月④	確認テスト	基礎3、衛生①	薬学実習10-⑤	定期試験（A組）	卒論実習（A組）	冬期補講8		月⑦

2022年

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
11月	1	火		火⑥	確認テスト	火⑥	薬学実習4	火⑥	確認テスト	基礎3、衛生②	薬学実習10−⑥	卒論実習（A組）	2022年度 第3期病院実習（B組） 第3期薬局実習（C組） 8/22（月）〜11/6（日）	冬期補講9		
	2	水		水⑦	選択科目⑧	水⑦	選択科目⑧	水⑦		基礎3、衛生③	薬学実習10−⑦			冬期補講10		
	3	木	文化の日													
	4	金		金⑥	薬学への招待2⑤/薬物治療学入門①	金⑥	薬学実習4	金⑥	確認テスト	基礎3、衛生④	薬学実習10−⑧	卒論実習（A組）		冬期補講11		金⑧
	5	土		ヒューマンコミュニケーションB												土⑦
	6	日														
	7	月		月⑥	薬学への招待2⑥/薬物治療学入門②	月⑤	薬学実習4	月⑤	語学演習2 1組 ⑧	基礎3、衛生⑤	薬学実習10−⑨	学力測定試験	学力測定試験	冬期補講12		月⑧
	8	火		火⑦	確認テスト	火⑦	**月⑥**	火⑦	確認テスト	基礎3、衛生⑥	演習	学力測定試験	学力測定試験	冬期補講13		
	9	水		水⑧	選択科目⑨	水⑧	選択科目⑨	水⑧	**月⑥**	基礎3、衛生⑦	演習	学力測定試験 見直し	学力測定試験 見直し	冬期補講14		
	10	木		木⑦	演習2−3	木⑦	薬学実習4 予備日	木⑦	語学演習2 2組 ⑧	基礎3、衛生⑧	演習	面接の受け方 / 企業情報交換会	面接の受け方 / 企業情報交換会	冬期補講15		
	11	金		金⑦	薬学への招待2⑦/薬物治療学入門③	金⑦	確認テスト	金⑦	医療コミュ2−⑥	演習 基礎3、衛生予備日	演習	企業情報交換会	企業情報交換会	冬期補講16		
	12	土		ヒューマンコミュニケーションC												土⑧
	13	日														
	14	月		月⑦	薬学への招待2⑧/薬物治療学入門④	月⑦	薬学実習4 実習試験	月⑦	語学演習2 演習試験	定期試験（基礎3、衛生）		学力測定試験 見直し	学力測定試験 見直し	冬期補講17		
	15	火		火⑧	演習2−4	火⑧	確認テスト	火⑧	医療コミュ2−⑦	薬物動態制御学 ⑬⑭	演習	ガイダンス（全体/A・B組） / 学力測定試験 見直し	ガイダンス（全体/C組） / 学力測定試験 見直し	冬期補講18		
	16	水		水⑨	選択科目⑩	水⑨	選択科目⑩	水⑨	医療コミュ2−⑧（OSCE）	薬物動態制御学 ⑮⑯	演習	卒論実習（A組・B組）	振返り教育（C組）	冬期補講19		
	17	木		木⑧	演習2−5	木⑧	確認テスト	木⑧	薬学実習7 ガイダンス	薬物動態制御学 ⑰	演習		医療コミュニケーション4（C組）	全国統一模擬試験Ⅱ		
	18	金		金⑧	薬学への招待2⑨/薬物治療学入門⑤	金⑧		金⑧	薬学実習7	演習 薬物動態制御学 予備日	演習		医療コミュニケーション4（C組）	全国統一模擬試験Ⅱ		
	19	土	学校推薦型選抜Ⅰ期（仮）													
	20	日	学校推薦型選抜Ⅰ期（仮）													
	21	月		月⑧	薬学への招待2⑩/薬物治療学入門⑥	月⑧	薬学実習4 実習試験追再試	月⑧	薬学実習7	薬物動態制御学 定期試験2	薬学実習10−⑩	薬学最前線（B組）	2022年度 第4期病院実習（C組） 11/21（月）〜2/12（日）	冬期補講20		後期科目 定期試験
	22	火		火⑨	演習2−6	火⑨	確認テスト	火⑨		薬学演習 補充演習	薬学実習10−⑪	卒論実習（A組・B組）		冬期補講21		
	23	水	勤労感謝の日													
	24	木		木⑨	演習2−7	木⑨	語学演習1 1組 ⑧	木⑨	薬学実習7	薬物動態制御学 定期試験2 予備日	薬学実習10−⑫	卒論実習（A組・B組）		冬期補講22		
	25	金		金⑨	薬学への招待2⑪/薬物治療学入門⑦	金⑨	語学演習1 2組 ⑧	金⑨		第4回CBT模試				冬期補講23		
	26	土		ヒューマンコミュニケーションC										模試復習 模試（予備日）		
	27	日														
	28	月		月⑨	薬学への招待2⑫/薬物治療学入門⑧	月⑨	演習2−6	月⑨	薬学実習7	薬学実習10 総合実習1	薬学実習10 総合実習2	薬学最前線（B組）		冬期補講24		
	29	火		火⑩	演習2−8	火⑩	語学演習1 演習試験	火⑩		薬学実習10 総合実習3	薬学実習10 総合実習4	卒論実習（A組・B組）		冬期補講25		学位論文要旨集配布
	30	水		水⑩	選択科目⑪	水⑩	選択科目⑪	水⑩	語学演習2 演習試験追再試	薬学実習10 総合実習5	薬学実習10 総合実習6			冬期補講26		

2022年

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
12月	1	木		木⑩	演習2-9	木⑩	演習2-7	木⑩	薬学実習7	薬学実習10 定期試験2 第2回OSCEガイダンス 第4回教務ガイダンス	薬学実習10 補習	卒論実習 （A組・B組）	2022年度 第4期病院実習（C組） 11/21（月） ～2/12（日）	冬期補講27		
	2	金		金⑩	演習2-10	金⑩	演習2-8	金⑩		薬学実習10 総合実習 予備日	演習			冬期補講28		
	3	土	OSCE準備													
	4	日								共用試験OSCE本試験						
	5	月		月⑩	BLS予備日	月⑩	語学演習1 演習試験追再試	月⑩	薬学実習7 予備日	演習		薬学最前線 （B組）		薬学総合講義4 学力判定試験2（345問）		
	6	火		火⑪	BLS①	火⑪	演習2-9	火⑪	薬学実習7 実習試験	演習		卒論実習 （A組・B組）		薬学総合講義4 学力判定試験2（345問）		
	7	水		水⑪	選択科目⑫	水⑪	選択科目⑫	水⑪	演習2-8	後期追再試験				学力判定試験2復習 学力判定試験2（予備日）		
	8	木		木⑪	BLS②	木⑪	演習2-10	木⑪	演習2-9	後期追再試験				冬期補講29		
	9	金		金⑪	BLS③	金⑪	演習2-11	金⑪	演習2-10	薬物動態制御学追再試験				冬期補講30		
	10	土	総合型選抜Ⅱ期（仮）													
	11	日	学校推薦型Ⅱ期（仮） 総合型選抜Ⅱ期（仮）													
	12	月		月⑪	BLS④	月⑪	演習2-12	月⑪	演習2-11	後期追再試験予備日		薬学最前線 （B組）		冬期補講31		
	13	火		火⑫	BLS⑤	火⑫	演習2-13	火⑫	臨床学習 まとめ	薬学演習⑩～⑫		卒論実習 （A組・B組）		冬期補講32		
	14	水		水⑫	選択科目⑬	水⑫	選択科目⑬	水⑫	演習2-12	演習				冬期補講33		
	15	木		木⑫	BLS⑥	木⑫	演習2-14	木⑫	演習2-13	演習				冬期補講34		
	16	金		金⑫	BLS⑦	金⑫	演習2-15	金⑫	演習2-14	演習				冬期補講35		口述発表会
	17	土														
	18	日								OSCE予備日						
	19	月		月⑫	ガイダンス／ BLS予備日	月⑫	演習2-16	月⑫	ガイダンス	CBTガイダンス		薬学最前線 （B組）		冬期補講36		
	20	火		後期科目 補講期間		後期科目 補講期間		後期科目 補講期間		共用試験CBT本試験		卒論実習 （A組・B組）		冬期補講37		
	21	水			選択科目⑭		選択科目⑭			共用試験CBT本試験				冬期補講38		
	22	木												冬期補講39		
	23	金								第5回教務ガイダンス／ 第4回実務実習ガイダンス				冬期補講40		
	24	土												冬期休業開始		
	25	日														
	26	月										卒論実習 （A組・B組）				
	27	火														
	28	水														
	29	木														
	30	金														
	31	土														

2023年

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
1月	1	日											2022年度 第4期病院実習（C組） 11/21（月） ～2/12（日）			
	2	月														
	3	火														
	4	水			選択科目⑮		選択科目⑮					卒論実習 （A組・B組）		薬学総合講義4 定期試験（345問）		
	5	木								再々試験				薬学総合講義4 定期試験（345問）		
	6	金		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	認定試験				定期試験復習 定期試験（予備日）		学位審査関係書類 提出締切
	7	土		定期試験						薬学共用試験CBT本試験予備日						
	8	日														
	9	月	成人の日													
	10	火								卒論実習		定期試験 （B組）		直前補講1		
	11	水		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	卒論実習／認定試験		定期試験 （予備日）		直前補講2		
	12	木		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	卒論実習／認定試験				直前補講3 合宿ガイダンス		
	13	金		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	卒論実習／認定試験		卒論実習 （A組・B組）		直前補講4		
	14	土		定期試験（予備日）		定期試験（予備日）		定期試験（予備日）		認定試験（予備日）				学外補講	合宿	
	15	日														
	16	月		定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	定期試験	卒論実習／認定試験				学外補講		
	17	火		定期試験（予備日）		定期試験（予備日）		定期試験（予備日）		薬学統合演習1				直前補講5		
	18	水		総合評価試験								卒論実習 （A組・B組）		直前補講6		
	19	木				総合評価試験								全国統一模擬試験Ⅲ		
	20	金						総合評価試験			就職ガイダンス			全国統一模擬試験Ⅲ		
	21	土		総合評価試験 （予備日）		総合評価試験 （予備日）		総合評価試験 （予備日）		薬学統合演習1 予備日						
	22	日														
	23	月								卒論実習		卒論実習 （A組・B組）		直前補講7		
	24	火												直前補講8 前期科目再試験		
	25	水												補講質問対応1 前期科目再試験		
	26	木	医学部一次入試（仮）											補講質問対応2		
	27	金	医学部一次入試（仮）											補講質問対応3		
	28	土	医学部一次入試（仮）													
	29	日														
	30	月	一般選抜Ⅰ期（仮）							卒論実習		卒論実習 （A組・B組）		補講質問対応4		
	31	火	一般選抜Ⅰ期（仮）											補講質問対応5		

2023年

2022年度 行事予定

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内（午前・午後）	実務実習	午前	午後	
2月	1	水	一般選抜Ⅰ期（仮）							卒論実習		卒論実習（A組・B組）	2022年度 第4期病院実習（C組） 11/21（月）～2/12（日）	補講質問対応6		
	2	木												薬学総合講義4 追再試験（345問）		
	3	金												薬学総合講義4 追再試験（345問）		
	4	土												追再試験（予備日）		
	5	日														
	6	月	医学部二次入試（仮）							卒論実習		休暇（A組・B組）		直前補講9		
	7	火	医学部二次入試（仮）											直前補講10		
	8	水		後期科目 追再試験	後期科目 追再試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験					直前補講11		
	9	木		後期科目 追再試験	後期科目 追再試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験					直前補講12		
	10	金		後期科目 追再試験	後期科目 追再試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験					直前補講13	国試ガイダンス	
	11	土	建国記念日													
	12	日														
	13	月		後期科目 追再試験	後期科目 追再試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	新5年生ガイダンス		成果発表会準備/ガイダンス				
	14	火		後期科目 追再試験	後期科目 追再試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	成果発表会/卒論実習		実習成果発表会（終日）				
	15	水		後期科目 追再試験	後期科目 追再試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験	後期科目 追再試験/ 認定試験			実習成果発表会（終日）				
	16	木		後期科目 追再試験	前期科目追再試験 （予備日）	前期科目追再試験/認定試験 （予備日）		前期科目追再試験/認定試験 （予備日）		直前教育（A組） 卒論実習（B・C組）		健康食品 /実務実習振り返り				
	17	金	共通テスト二次（仮）							卒論実習						
	18	土	第108回国家試験（仮）											第108回国家試験（仮）		
	19	日	第108回国家試験（仮）							休暇（B組・C組） 2/26（日）まで				第108回国家試験（仮）		
	20	月		総合評価試験 追再試			総合評価試験 追再試				2023年度 第1期薬局実習 （A組） 2/20（月）～5/7（日）			国家試験報告会		
	21	火	一般選抜Ⅱ期（仮）													
	22	水	一般選抜Ⅱ期（仮）													
	23	木	一般選抜Ⅱ期（仮） 天皇誕生日													
	24	金						総合評価試験 追再試								
	25	土		総合評価試験追再試（予備日）		総合評価試験追再試（予備日）		総合評価試験追再試（予備日）		OSCE追再試験						
	26	日								ここまで 休暇（B組・C組）						
	27	月								卒論実習開始 （B組・C組）						
	28	火								CBT追再試験 卒論実習 （B組・C組）						

	日	曜	共 通	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年				6 年		大学院
				午前	午後	午前	午後	午前	午後	学内(午前・午後)	実務実習	午前		午後		午前	午後	
3月	1	水								卒論実習 (B組・C組)	2023年度 第1期薬局実習 (A組) 2/20(月) ～5/7(日)							
	2	木																
	3	金																
	4	土	一般選抜Ⅲ期(仮)															
	5	日	一般選抜Ⅲ期(仮)															
	6	月								卒論実習 (B組・C組)		薬学最前線 追・再試験		新6年生ガイダンス /病院就職ガイダンス				
	7	火										薬学統合演習2		卒論実習				
	8	水																
	9	木								CBT追再試験 予備日 卒論実習 (B組・C組)								
	10	金								卒論実習 (B組・C組)								
	11	土								OSCE追再試験 予備日								
	12	日																
	13	月								卒論実習 (B組・C組)		薬学統合演習2		卒論実習				
	14	火																
	15	水																
	16	木																
	17	金	卒業式															
	18	土	オープンキャンパス(仮)															
	19	日																
	20	月	この頃、第108回国家試験 合格発表							卒論実習 (B組・C組)								
	21	火	春分の日															
	22	水								卒論実習 (B組・C組)		第108回薬剤師国家試験 体験受験						
	23	木																
	24	金										薬剤師国家試験 解説・演習補講 ①						
	25	土																
	26	日																
	27	月								卒論実習 (B組・C組)		薬剤師国家試験 解説・演習補講 ②						
	28	火										薬剤師国家試験 解説・演習補講 ③						
	29	水										薬剤師国家試験 解説・演習補講 ④						
	30	木										薬剤師国家試験 解説・演習補講 ⑤						
	31	金																

薬学教育モデル・コアカリキュラム
－平成25年度改訂版－

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。
６年卒業時に必要とされている資質は以下のとおりである。

（薬剤師としての心構え）
医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。

（患者・生活者本位の視点）
患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。

（コミュニケーション能力）
患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。

（チーム医療への参画）
医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。

（基礎的な科学力）
生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。

（薬物療法における実践的能力）

薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。

（地域の保健・医療における実践的能力）

地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。

（研究能力）

薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。

（自己研鑽）

薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。

（教育能力）

次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

A　基本事項

（1）薬剤師の使命

GIO　医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、薬害防止における役割を理解し、薬剤師としての使命感を身につける。

【①医療人として】

1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。（態度）
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。（態度）
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。（態度）
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。（知識・態度）
5. 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。（知識・態度）
6. 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。（知識・態度）
7. 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。（知識・態度）

【②薬剤師が果たすべき役割】

1. 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。（態度）
2. 薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。
3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。
4. 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。
5. 医薬品の創製（研究開発、生産等）における薬剤師の役割について説明できる。
6. 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。
7. 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。
8. 現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。（知識・態度）

【③患者安全と薬害の防止】

1. 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。（態度）
2. WHO による患者安全の考え方について概説できる。
3. 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。
4. 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。
5. 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）
6. 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。
7. 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）

【④薬学の歴史と未来】

1. 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。
2. 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。
3. 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。
4. 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）

（2）薬剤師に求められる倫理観

GIO　倫理的問題に配慮して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身につけ、医療の担い手としての感性を養う。

【①生命倫理】

1. 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）
2. 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。
3. 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）
4. 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。

【②医療倫理】

1. 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。
2. 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。
3. 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。

【③患者の権利】

1. 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）
2. 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。
3. 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。
4. 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）

【④研究倫理】

1. 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。
2. 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）

（3）信頼関係の構築

GIO　患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。

【①コミュニケーション】

1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。

2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。
3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。
4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。
5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)

【②患者・生活者と薬剤師】

1. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。
2. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)

(4) 多職種連携協働とチーム医療

GIO　医療・福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身につける。

1. 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
2. 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。
3. チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。
4. 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)
5. チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)

(5) 自己研鑽と次世代を担う人材の育成

GIO　生涯にわたって自ら学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承する意欲と行動力を身につける。

【①学習の在り方】

1. 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)
2. 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)
3. 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)
4. 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)
5. インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)

【②薬学教育の概要】

1. 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。
2. 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）

【③生涯学習】

1. 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。
2. 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）

【④次世代を担う人材の育成】

1. 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）
2. 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）

B　薬学と社会

GIO	人と社会に関わる薬剤師として自覚を持って行動するために、保健・医療・福祉に係る法規範・制度・経済、及び地域における薬局と薬剤師の役割を理解し、義務及び法令を遵守する態度を身につける。

(1) 人と社会に関わる薬剤師

GIO	人の行動や考え方、社会の仕組みを理解し、人・社会と薬剤師の関わりを認識する。

1. 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。
2. 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)
3. 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)
4. 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)
5. 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)

(2) 薬剤師と医薬品等に係る法規範

GIO	調剤、医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の供給、その他薬事衛生に係る任務を薬剤師として適正に遂行するために必要な法規範とその意義を理解する。

【①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範】

1. 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。
2. 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。
3. 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。
4. 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。
5. 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。
6. 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。
7. 個人情報の取扱いについて概説できる。
8. 薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について概説できる。

【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範】

1. 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品（薬局医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。
2. 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる。
3. 治験の意義と仕組みについて概説できる。
4. 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。
5. 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。

6. 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。
7. 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。
8. 日本薬局方の意義と構成について説明できる。
9. 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。
10. 健康被害救済制度について説明できる。
11. レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。

【③特別な管理を要する薬物等に係る法規範】

1. 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。
2. 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる。
3. 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる。

(3) 社会保障制度と医療経済

GIO　社会保障制度のもとで提供される医療と福祉について、現状と課題を認識するとともに、薬剤師が担う役割とその意義を理解する。

【①医療、福祉、介護の制度】

1. 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。
2. 医療保険制度について説明できる。
3. 療養担当規則について説明できる。
4. 公費負担医療制度について概説できる。
5. 介護保険制度について概説できる。
6. 薬価基準制度について概説できる。
7. 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。

【②医薬品と医療の経済性】

1. 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。
2. 国民医療費の動向について概説できる。
3. 後発医薬品とその役割について説明できる。
4. 薬物療法の経済評価手法について概説できる。

(4) 地域における薬局と薬剤師

GIO　地域の保健、医療、福祉について、現状と課題を認識するとともに、その質を向上させるための薬局及び薬剤師の役割とその意義を理解する。

【①地域における薬局の役割】

1. 地域における薬局の機能と業務について説明できる。
2. 医薬分業の意義と動向を説明できる。

3. かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。
4. セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
5. 災害時の薬局の役割について説明できる。
6. 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。

【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】

1. 地域包括ケアの理念について説明できる。
2. 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。
3. 学校薬剤師の役割について説明できる。
4. 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。
5. 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。（知識・態度）

C　薬学基礎

C1　物質の物理的性質

GIO	物質の物理的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などに関する基本的事項を身につける。

(1) 物質の構造

GIO	物質を構成する原子・分子の構造、および化学結合に関する基本的事項を修得する。

【① 化学結合】

1. 化学結合の様式について説明できる。
2. 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。
3. 共役や共鳴の概念を説明できる。

【② 分子間相互作用】

1. ファンデルワールス力について説明できる。
2. 静電相互作用について例を挙げて説明できる。
3. 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。
4. 分散力について例を挙げて説明できる。
5. 水素結合について例を挙げて説明できる。
6. 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。
7. 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。

【③原子・分子の挙動】

1. 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。
2. 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。
3. 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。
4. 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。
5. 光の散乱および干渉について説明できる。
6. 結晶構造と回折現象について概説できる。

【④放射線と放射能】

1. 原子の構造と放射壊変について説明できる。
2. 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。
3. 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。
4. 核反応および放射平衡について説明できる。
5. 放射線測定の原理と利用について概説できる。

(2) 物質のエネルギーと平衡

GIO　物質の状態を理解するために、熱力学に関する基本的事項を修得する。

【①気体の微視的状態と巨視的状態】

1. ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。
2. 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。
3. エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。

【②エネルギー】

1. 熱力学における系、外界、境界について説明できる。
2. 熱力学第一法則を説明できる。
3. 状態関数と経路関数の違いを説明できる。
4. 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。
5. 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。
6. エンタルピーについて説明できる。
7. 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。

【③自発的な変化】

1. エントロピーについて説明できる。
2. 熱力学第二法則について説明できる。
3. 熱力学第三法則について説明できる。
4. ギブズエネルギーについて説明できる。
5. 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。

【④化学平衡の原理】

1. ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
2. ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
3. 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。
4. 共役反応の原理について説明できる。

【⑤相平衡】

1. 相変化に伴う熱の移動について説明できる。
2. 相平衡と相律について説明できる。
3. 状態図について説明できる。

【⑥溶液の性質】

1. 希薄溶液の束一的性質について説明できる。
2. 活量と活量係数について説明できる。

3. 電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。
4. イオン強度について説明できる。

【⑦電気化学】

1. 起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。
2. 電極電位（酸化還元電位）について説明できる。

(3) 物質の変化

GIO　物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。

【①反応速度】

1. 反応次数と速度定数について説明できる。
2. 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)
3. 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。
4. 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)
5. 代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。
6. 反応速度と温度との関係を説明できる。
7. 代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる。

C2　化学物質の分析

GIO　化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、物質の定性、定量に関する基本的事項を修得する。

（1）分析の基礎

GIO　化学物質の分析に用いる器具の使用法と得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。

【①分析の基本】

1. 分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）
2. 測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）
3. 分析法のバリデーションについて説明できる。

（2）溶液中の化学平衡

GIO　溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。

【①酸・塩基平衡】

1. 酸・塩基平衡の概念について説明できる。
2. pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）
3. 溶液の pH を測定できる。（技能）
4. 緩衝作用や緩衝液について説明できる。

【②各種の化学平衡】

1. 錯体・キレート生成平衡について説明できる。
2. 沈殿平衡について説明できる。
3. 酸化還元平衡について説明できる。
4. 分配平衡について説明できる。

（3）化学物質の定性分析・定量分析

GIO　化学物質の定性分析および定量分析に関する基本的事項を修得する。

【①定性分析】

1. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。
2. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。

【②定量分析（容量分析・重量分析）】

1. 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。
2. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
3. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
4. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。
5. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）
6. 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。
7. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。

（4）機器を用いる分析法

GIO　機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。

【①分光分析法】

1. 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。
2. 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。
3. 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。
4. 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。
5. 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。
6. 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）

【②核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法】

1. 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。

【③質量分析法】

1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。

【④Ｘ線分析法】

1. Ｘ線結晶解析の原理および応用例を概説できる。
2. 粉末Ｘ線回折測定法の原理と利用法について概説できる。

【⑤熱分析】

1. 熱重量測定法の原理を説明できる。
2. 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。

（5）分離分析法

GIO　分離分析法に関する基本的事項を修得する。

【①クロマトグラフィー】

1. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。
2. 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
3. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
4. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
5. クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。(知識・技能)

【②電気泳動法】

1. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。

(6) 臨床現場で用いる分析技術

GIO　臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。

【① 分析の準備】

1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。
2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。

【②分析技術】

1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。
2. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。
3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。
4. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。
5. 代表的な画像診断技術（X 線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など）について概説できる。

C3　化学物質の性質と反応

GIO	化学物質を理解できるようになるために、代表的な有機化合物の構造、性質、反応、分離法、構造決定法、および無機化合物の構造と性質に関する基本的事項を修得する。

(1) 化学物質の基本的性質

GIO	基本的な有機化合物の命名法、電子配置、反応、立体構造などに関する基本的事項を修得する。

【①基本事項】

1. 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。
3. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。
4. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。
5. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。
6. 基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。
7. 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。
8. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。
9. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。（技能）

【②有機化合物の立体構造】

1. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。
2. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。
3. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。
4. ラセミ体とメソ体について説明できる。
5. 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。（知識、技能）
6. 炭素―炭素二重結合の立体異性（*cis*, *trans* ならびに *E*, *Z* 異性）について説明できる。
7. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。（技能）
8. エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。

(2) 有機化合物の基本骨格の構造と反応

GIO	有機化合物の基本骨格となる脂肪族および芳香族化合物の構造、性質、反応性などに関する基本的事項を修得する。

【①アルカン】

1. アルカンの基本的な性質について説明できる。

2. アルカンの構造異性体を図示することができる。（技能）
3. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。
4. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。（技能）
5. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。

【②アルケン・アルキン】

1. アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。
2. アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。
3. アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。

【③芳香族化合物】

1. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。
2. 芳香族性の概念を説明できる。
3. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。
4. 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。
5. 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。

（3）官能基の性質と反応

GIO　官能基を有する有機化合物の性質、反応性に関する基本的事項を修得する。

【①概説】

1. 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。
2. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）

【②有機ハロゲン化合物】

1. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
2. 求核置換反応の特徴について説明できる。
3. 脱離反応の特徴について説明できる。

【③アルコール･フェノール･エーテル】

1. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
2. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。

【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】

1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
2. カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。
3. カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。

【⑤アミン】

1. アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。

【⑥電子効果】

1. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。

【⑦酸性度・塩基性度】

1. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。
2. 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。

(4) 化学物質の構造決定

GIO	代表的な機器分析としての核磁気共鳴（NMR)、赤外吸収（IR)、質量分析による構造決定法の基本的事項を修得する。

【①核磁気共鳴（NMR)】

1. ^{1}H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。
2. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。
3. ^{1}H NMR の積分値の意味を説明できる。
4. ^{1}H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する基本的な分裂様式を説明できる。
5. 代表的な化合物の部分構造を ^{1}H NMR から決定できる。(技能)

【②赤外吸収（IR)】

1. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。
2. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)

【③質量分析】

1. マススペクトルより得られる情報を概説できる。
2. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)
3. ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明できる。
4. 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)

【④総合演習】

1. 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)

(5) 無機化合物・錯体の構造と性質

GIO	代表的な無機化合物・錯体(医薬品を含む)の構造、性質に関する基本的事項を修得する。

【①無機化合物・錯体】

1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。
2. 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。
3. 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。
4. 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。
5. 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。

C4　生体分子・医薬品の化学による理解

GIO	医薬品の生体内での作用を化学的に理解できるようになるために、医薬品標的および医薬品の構造と性質、生体反応の化学に関する基本的事項を修得する。

(1) 医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質

GIO	医薬品の標的となる生体分子の基本構造と、その化学的な性質に関する基本的事項を修得する。

【①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造】

1. 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく化学的性質を説明できる。
2. 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。

【②生体内で機能する小分子】

1. 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。
2. 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。
3. 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。
4. 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。

(2) 生体反応の化学による理解

GIO	医薬品の作用の基礎となる生体反応の化学的理解に関する基本的事項を修得する。

【①生体内で機能するリン、硫黄化合物】

1. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。
2. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。

【②酵素阻害剤と作用様式】

1. 不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。
2. 基質アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。
3. 遷移状態アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。

【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】

1. 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。
2. 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。

【④生体内で起こる有機反応】

1. 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。
2. 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。

（3）医薬品の化学構造と性質、作用

GIO　医薬品に含まれる代表的な構造およびその性質を医薬品の作用と関連づける基本的事項を修得する。

【①医薬品と生体分子の相互作用】

1. 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。

【②医薬品の化学構造に基づく性質】

1. 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性など）を説明できる。
2. プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。

【③医薬品のコンポーネント】

1. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。
2. バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。
3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。

【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】

1. ヌクレオシドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
2. フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
3. スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
4. キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
5. β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
6. ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。

【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】

1. カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
2. アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。

3. ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
4. ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。
5. オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。

【⑥DNA に作用する医薬品の構造と性質】

1. DNA と結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。
2. DNA にインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。
3. DNA 鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。

【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】

1. イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。

C5　自然が生み出す薬物

GIO	自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようになるために、代表的な生薬の基原、特色、臨床応用および天然生物活性物質の単離、構造、物性、作用などに関する基本的事項を修得する。

(1) 薬になる動植鉱物

GIO	基原、性状、含有成分、品質評価などに関する基本的事項を修得する。

【①薬用植物】

1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。
2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)
3. 植物の主な内部形態について説明できる。
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。

【②生薬の基原】

1. 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。

【③生薬の用途】

1. 日本薬局方収載の代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途などを説明できる。
2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。

【④生薬の同定と品質評価】

1. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。
2. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。
3. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)
4. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。
5. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。

(2) 薬の宝庫としての天然物

GIO	医薬品資源としての天然生物活性物質を構造によって分類・整理するとともに、天然生物活性物質の利用に関する基本的事項を修得する。

【①生薬由来の生物活性物質の構造と作用】

1. 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。
2. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

【②微生物由来の生物活性物質の構造と作用】

1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。
2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。

【③天然生物活性物質の取扱い】

1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。（知識、技能）

【④天然生物活性物質の利用】

1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。
2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。
3. 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。

C6　生命現象の基礎

GIO	生命現象を細胞レベル、分子レベルで理解できるようになるために、生命体の最小単位である細胞の成り立ちや生命現象を担う分子に関する基本的事項を修得する。

(1) 細胞の構造と機能

GIO	細胞膜、細胞小器官、細胞骨格などの構造と機能に関する基本的事項を修得する。

【①細胞膜】

1. 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。
2. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。

【②細胞小器官】

1. 細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）やリボソームの構造と機能を説明できる。

【③細胞骨格】

1. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。

(2) 生命現象を担う分子

GIO	生命現象を担う分子の構造、性質、役割に関する基本的事項を修得する。

【①脂質】

1. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。

【②糖質】

1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。

【③アミノ酸】

1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。

【④タンパク質】

1. タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。

【⑤ヌクレオチドと核酸】

1. ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。

【⑥ビタミン】

1. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。

【⑦微量元素】

1. 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。

【⑧生体分子の定性、定量】

1. 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)

(3) 生命活動を担うタンパク質

GIO	生命活動を担うタンパク質の構造、性質、機能、代謝に関する基本的事項を修得する。

【①タンパク質の構造と機能】

1. 多彩な機能をもつタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）を列挙し概説できる。

【②タンパク質の成熟と分解】

1. タンパク質の翻訳後の成熟過程（細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。
2. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。

【③酵素】

1. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。
2. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。
3. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。
4. 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)

【④酵素以外のタンパク質】

1. 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。
2. 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。

(4) 生命情報を担う遺伝子

GIO	生命情報を担う遺伝子の複製、発現と、それらの制御に関する基本的事項を修得する。

【①概論】

1. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。

【②遺伝情報を担う分子】

1. 染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど）を説明できる。
2. 遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。
3. RNA の種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA など)と機能について説明できる。

【③遺伝子の複製】

1. DNA の複製の過程について説明できる。

【④転写・翻訳の過程と調節】

1. DNA から RNA への転写の過程について説明できる。
2. エピジェネティックな転写制御について説明できる。
3. 転写因子による転写制御について説明できる。
4. RNA のプロセシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリ A 鎖など）について説明できる。
5. RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。

【⑤遺伝子の変異・修復】

1. DNA の変異と修復について説明できる。

【⑥組換え DNA】

1. 遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など）を概説できる。
2. 遺伝子改変生物（遺伝子導入･欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について概説できる。

(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系

GIO	**生体エネルギーの産生、貯蔵、利用、およびこれらを担う糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝に関する基本的事項を修得する。**

【① 概論】

1. エネルギー代謝の概要を説明できる。

【②ATP の産生と糖質代謝】

1. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。
2. クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。
3. 電子伝達系（酸化的リン酸化）と ATP 合成酵素について説明できる。
4. グリコーゲンの代謝について説明できる。
5. 糖新生について説明できる。

【③脂質代謝】

1. 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。
2. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。

【④飢餓状態と飽食状態】

1. 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。
2. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。

【⑤その他の代謝系】

1. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。
2. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。
3. ペントースリン酸回路について説明できる。

（6）細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達

GIO　細胞間コミュニケーション及び細胞内情報伝達の方法と役割に関する基本的事項を修得する。

【①概論】

1. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。

【②細胞内情報伝達】

1. 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。
2. 細胞膜受容体からGタンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。
3. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。
4. 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。
5. 細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。

【③細胞間コミュニケーション】

1. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。
2. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。

（7）細胞の分裂と死

GIO　細胞周期と分裂、細胞死に関する基本的事項を修得する。

【①細胞分裂】

1. 細胞周期とその制御機構について説明できる。
2. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。

【②細胞死】

1. 細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。

【③がん細胞】

1. 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。
2. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。

C7　人体の成り立ちと生体機能の調節

GIO　人体の成り立ちを個体、器官、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能、調節に関する基本的事項を修得する。

(1) 人体の成り立ち

GIO　遺伝、発生、および各器官の構造と機能に関する基本的事項を修得する。

【①遺伝】

1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。
2. 遺伝子多型について概説できる。
3. 代表的な遺伝疾患を概説できる。

【②発生】

1. 個体発生について概説できる。
2. 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。

【③器官系概論】

1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。
2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系など）を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。
3. 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。（技能）
4. 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。（技能）

【④神経系】

1. 中枢神経系について概説できる。
2. 末梢（体性・自律）神経系について概説できる。

【⑤骨格系・筋肉系】

1. 骨、筋肉について概説できる。
2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。

【⑥皮膚】

1. 皮膚について概説できる。

【⑦循環器系】

1. 心臓について概説できる。
2. 血管系について概説できる。
3. リンパ管系について概説できる。

【⑧呼吸器系】

1. 肺、気管支について概説できる。

【⑨消化器系】

1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。
2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。

【⑩泌尿器系】

1. 泌尿器系について概説できる。

【⑪生殖器系】

1. 生殖器系について概説できる。

【⑫内分泌系】

1. 内分泌系について概説できる。

【⑬感覚器系】

1. 感覚器系について概説できる。

【⑭血液・造血器系】

1. 血液・造血器系について概説できる。

(2) 生体機能の調節

GIO	生体の維持に関わる情報ネットワークを担う代表的な情報伝達物質の種類、作用発現機構に関する基本的事項を修得する。

【①神経による調節機構】

1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。
2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。
3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。
4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。

【②ホルモン・内分泌系による調節機構】

1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。

【③オータコイドによる調節機構】

1. 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。

【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】

1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。

【⑤血圧の調節機構】

1. 血圧の調節機構について概説できる。

【⑥血糖の調節機構】

1. 血糖の調節機構について概説できる。

【⑦体液の調節】

1. 体液の調節機構について概説できる。
2. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。

【⑧体温の調節】

1. 体温の調節機構について概説できる。

【⑨血液凝固・線溶系】

1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。

【⑩性周期の調節】

1. 性周期の調節機構について概説できる。

C8　生体防御と微生物

GIO	生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化を理解できるようになるために、免疫反応による生体防御機構とその破綻、および代表的な病原微生物に関する基本的事項を修得する。

(1) 身体をまもる

GIO	ヒトの主な生体防御反応としての免疫応答に関する基本的事項を修得する。

【① 生体防御反応】

1. 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。
2. 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。
3. 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。
4. 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。

【②免疫を担当する組織・細胞】

1. 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。
2. 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。
3. 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。

【③分子レベルで見た免疫のしくみ】

1. 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。
2. MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。
3. T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。
4. 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。
5. 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。

(2) 免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用

GIO	免疫応答の制御とその破綻、および免疫反応の臨床応用に関する基本的事項を修得する。

【① 免疫応答の制御と破綻】

1. 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。
2. アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。
3. 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。
4. 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。
5. 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。
6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。

【② 免疫反応の利用】

1. ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチンなど）について説明できる。
2. モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。
3. 血清療法と抗体医薬について概説できる。
4. 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウエスタンブロット法など）を実施できる。（技能）

（3）微生物の基本

GIO　微生物の分類、構造、生活環などに関する基本的事項を修得する。

【① 総論】

1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。

【② 細菌】

1. 細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。
2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。
3. 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。
4. 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。
5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。
6. 代表的な細菌毒素について説明できる。

【③ ウイルス】

1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。

【④ 真菌・原虫・蠕虫】

1. 真菌の性状を概説できる。
2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。

【⑤ 消毒と滅菌】

1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。
2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。

【⑥ 検出方法】

1. グラム染色を実施できる。（技能）
2. 無菌操作を実施できる。（技能）
3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）

（4）病原体としての微生物

GIO　ヒトと微生物の関わりおよび病原微生物に関する基本的事項を修得する。

【①感染の成立と共生】

1. 感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）と共生（腸内細菌など）について説明できる。
2. 日和見感染と院内感染について説明できる。

【②代表的な病原体】

1. DNA ウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど）について概説できる。
2. RNA ウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など）について概説できる。
3. グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌など）およびグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など）について概説できる。
4. グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌など）およびグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など）について概説できる。
5. グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ／コリなど）およびスピロヘータについて概説できる。
6. 抗酸菌（結核菌、らい菌など）について概説できる。
7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。
8. 真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など）について概説できる。
9. 原虫（マラリア原虫、トキソプラズマ、腟トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど）、蠕虫（回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど）について概説できる。

D　衛生薬学

D1　健康

GIO　人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、現代社会における疾病とその予防、栄養と健康に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 社会・集団と健康

GIO　人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、保健統計と疫学に関する基本的事項を修得する。

【①健康と疾病の概念】

1. 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。

【②保健統計】

1. 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。
2. 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。
3. 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。

【③疫学】

1. 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。
2. 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。
3. 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。
4. リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）

(2) 疾病の予防

GIO　健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、感染症、生活習慣病、職業病などについての現状とその予防に関する基本的事項を修得する。

【①疾病の予防とは】

1. 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。
2. 健康増進政策（健康日本２１など）について概説できる。

【②感染症とその予防】

1. 現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。
2. 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。

3. 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。
4. 予防接種の意義と方法について説明できる。

【③生活習慣病とその予防】

1. 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。
2. 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。
3. 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)

【④母子保健】

1. 新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。
2. 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。

【⑤労働衛生】

1. 代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。
2. 労働衛生管理について説明できる。

(3) 栄養と健康

GIO	**食生活が健康に与える影響を科学的に理解するために、栄養と食品機能、食品衛生に関する基本的事項を修得する。**

【①栄養】

1. 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。
2. 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。
3. 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。
4. 五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。
5. エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。
6. 日本人の食事摂取基準について説明できる。
7. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。
8. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。

【②食品機能と食品衛生】

1. 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。
2. 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)
3. 食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。
4. 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。
5. 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。
6. 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。
7. 食品衛生に関する法的規制について説明できる。

【③食中毒と食品汚染】

1. 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。
2. 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。
3. 化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。

D2　環境

GIO	人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上に貢献できるようになるために、化学物質などのヒトへの影響、適正な使用、および地球生態系や生活環境と健康との関わりにおける基本的知識、技能、態度を修得する。

(1) 化学物質・放射線の生体への影響

GIO	化学物質などの生体への有害作用を回避し、適正に使用できるようになるために、化学物質の毒性などに関する基本的事項を修得する。

【①化学物質の毒性】

1. 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。
2. 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。
3. 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。
4. 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。
5. 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)
6. 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。
7. 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。

【②化学物質の安全性評価と適正使用】

1. 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)
2. 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。
3. 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。
4. 化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。
5. 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。

【③化学物質による発がん】

1. 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。
2. 遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。
3. 発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。

【④放射線の生体への影響】

1. 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。
2. 代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。
3. 電離放射線を防御する方法について概説できる。
4. 非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。

(2) 生活環境と健康

GIO	**地球生態系や生活環境を保全、維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、汚染除去などに関する基本的事項を修得する。**

【①地球環境と生態系】

1. 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。
2. 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。
3. 化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。
4. 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。
5. 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)

【②環境保全と法的規制】

1. 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。
2. 環境基本法の理念を説明できる。
3. 環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。

【③水環境】

1. 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。
2. 水の浄化法、塩素処理について説明できる。
3. 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)
4. 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。
5. 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)
6. 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。

【④大気環境】

1. 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。
2. 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)
3. 大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。

【⑤室内環境】

1. 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)
2. 室内環境と健康との関係について説明できる。

【⑥廃棄物】

1. 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。
2. 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。
3. マニフェスト制度について説明できる。

E　医療薬学

E1　薬の作用と体の変化

GIO　疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を理解する。

(1) 薬の作用

GIO　医薬品を薬効に基づいて適正に使用できるようになるために、薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する。

【①薬の作用】

1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。
2. アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。
4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【②細胞内情報伝達】1.～ 5. 参照)
6. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。
(E4 (1)【②吸収】、【③分布】、【④代謝】、【⑤排泄】参照)
7. 薬物の選択（禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。
8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。
(E4 (1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)
9. 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。

【②動物実験】

1. 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)
2. 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)
3. 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)

【③日本薬局方】

1. 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。

(2) 身体の病的変化を知る

GIO　身体の病的変化から疾患を推測できるようになるために、代表的な症候、病態・臨床検査に関する基本的事項を修得する。

【①症候】

1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。

ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害

【②病態・臨床検査】

1. 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
2. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
4. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
5. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
6. 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
7. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。

（3）薬物治療の位置づけ

GIO　医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における治療と薬物療法に関する基本的事項を修得する。

1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）

（4）医薬品の安全性

GIO　医療における医薬品のリスクを回避できるようになるために、有害事象（副作用、相互作用）、薬害、薬物乱用に関する基本的事項を修得する。

1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。

2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。
   血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害
4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。（態度）

E2　薬理・病態・薬物治療

GIO	患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得する。

(1) 神経系の疾患と薬

GIO	神経系・筋に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①自律神経系に作用する薬】

1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)

【②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】

1. 知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
2. 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
3. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)
4. 以下の疾患について説明できる。
   進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）

【③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】

1. 全身麻酔薬、催眠薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO 三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。
3. 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
4. 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等)・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
5. うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等)・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
6. 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等)・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

7. てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
9. Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
10. 認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
11. 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。
12. 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）
13. 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）
14. 以下の疾患について説明できる。
    脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症

【④化学構造と薬効】

1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

（2）免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

GIO	**免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。**

【①抗炎症薬】

1. 抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。
3. 創傷治癒の過程について説明できる。

【②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】

1. アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
3. 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
    アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消

化管アレルギー、気管支喘息（重複）

4. 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。
   Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹
5. アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
6. 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病
7. 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血(重複)、アジソン病、1 型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）、シェーグレン症候群
8. 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）
9. 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】

1. 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【④化学構造と薬効】

1. 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

（3）循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

GIO	**循環器系・血液・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。**

【①循環器系疾患の薬、病態、治療】

1. 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW 症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（Vf）、房室ブロック、QT 延長症候群
2. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   本態性高血圧症、二次性高血圧症（腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む）
5. 以下の疾患について概説できる。
   閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患
6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）

【②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】

1. 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
3. 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血
4. 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
5. 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複）
   （E2（7）【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照）

【③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療】

1. 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病

態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

5. 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石
6. 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫
7. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 以下の生殖器系疾患について説明できる。
   異常妊娠、異常分娩、不妊症

【④化学構造と薬効】

1. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

（4）呼吸器系・消化器系の疾患と薬

GIO	**呼吸器系・消化器系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。**

【①呼吸器系疾患の薬、病態、治療】

1. 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。

【②消化器系疾患の薬、病態、治療】

1. 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎
2. 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、

機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

4. 膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
5. 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
6. 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
7. 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
9. 痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【③化学構造と薬効】

1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬

GIO	**代謝系・内分泌系に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。**

【①代謝系疾患の薬、病態、治療】

1. 糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. 脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【②内分泌系疾患の薬、病態、治療】

1. 性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。
2. Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 甲状腺炎（慢性（橋本病)、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用)、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

5. 以下の疾患について説明できる。
先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群（SIADH）、副甲状腺機能亢進症･低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全（急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）

【③化学構造と薬効】

1. 代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

（6）感覚器・皮膚の疾患と薬

GIO	**感覚器・皮膚の疾患と薬の薬理作用・機序および副作用に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。**

【①眼疾患の薬、病態、治療】

1. 緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. 白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. 加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 以下の疾患について概説できる。
結膜炎（重複）、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症

【②耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】

1. めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. 以下の疾患について概説できる。
アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎

【③皮膚疾患の薬、病態、治療】

1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（E2（2）【②免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療】参照）
2. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（E2（7）【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】参照）

3. 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. 以下の疾患について概説できる。
   蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬(重複）、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）

【④化学構造と薬効】

1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

（7）病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬

GIO	**病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）、および悪性新生物に作用する医薬品の薬理および疾患の病態・薬物治療に関する基本的知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。**

【①抗菌薬】

1. 以下の抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。
   β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体（アミノグリコシド）系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤（ST 合剤を含む）、その他の抗菌薬
2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤（ワクチン等）を挙げ、その作用機序を説明できる。

【②抗菌薬の耐性】

1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。

【③細菌感染症の薬、病態、治療】

1. 以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   上気道炎（かぜ症候群（大部分がウイルス感染症）を含む）、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎
2. 以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎
3. 以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎
4. 以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎

5. 以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   梅毒、淋病、クラミジア症等
6. 脳炎、髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
7. 以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病
8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等
10. 以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
    ジフテリア、劇症型 A 群 β 溶血性連鎖球菌感染症、新生児 B 群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症

【④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】

1. ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
3. インフルエンザについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
4. ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。（重複）
5. 後天性免疫不全症候群（AIDS）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
6. 以下のウイルス感染症（プリオン病を含む）について、感染経路と予防方法および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
   伝染性紅斑（リンゴ病）、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob（クロイツフェルト-ヤコブ）病

【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】

1. 抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。

2. 以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症

【⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】

1. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢
2. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
回虫症、蟯虫症、アニサキス症

【⑦悪性腫瘍】

1. 腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。
2. 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。
組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状およびがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因
3. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。

【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】

1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性）および臨床適用を説明できる。
アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬
2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。
3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）の軽減のための対処法を説明できる。
4. 代表的ながん化学療法のレジメン（FOLFOX 等）について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。
5. 以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病、成人 T 細胞白血病（ATL）
6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
7. 骨肉腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌
9. 肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選

択等）を説明できる。

脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍

11. 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

前立腺癌、子宮癌、卵巣癌

12. 腎・尿路系の悪性腫瘍（腎癌、膀胱癌）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
13. 乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【⑨がん終末期医療と緩和ケア】

1. がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。
2. がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。

【⑩化学構造と薬効】

1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。

（8）バイオ・細胞医薬品とゲノム情報

GIO	**医薬品としてのタンパク質、遺伝子、細胞を適正に利用するために、それらを用いる治療に関する基本的知識を修得し、倫理的態度を身につける。併せて、ゲノム情報の利用に関する基本的事項を修得する。**

【①組換え体医薬品】

1. 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。
2. 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。
3. 組換え体医薬品の安全性について概説できる。

【②遺伝子治療】

1. 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）

【③細胞、組織を利用した移植医療】

1. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）
2. 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。
3. 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。
4. 胚性幹細胞（ES 細胞）、人工多能性幹細胞（iPS 細胞）を用いた細胞移植医療について概説できる。

(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフメディケーション

GIO	**適切な薬物治療および地域の保健・医療に貢献できるようになるために、要指導医薬品・一般用医薬品およびセルフメディケーションに関する基本的知識を修得する。併せて、薬物治療実施に必要な情報を自ら収集するための基本的事項を修得する。**

1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。
2. 要指導医薬品および一般用医薬品（リスクの程度に応じた区分（第一類、第二類、第三類）も含む）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。
4. 要指導医薬品・一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる要指導医薬品・一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。
   発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病　等
6. 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。
7. 要指導医薬品・一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。
8. 要指導医薬品･一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）

(10) 医療の中の漢方薬

GIO	**漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。**

【①漢方薬の基礎】

1. 漢方の特徴について概説できる。
2. 以下の漢方の基本用語を説明できる。
   陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証
3. 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。
4. 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。

【②漢方薬の応用】

1. 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。
2. 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。
3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。

【③漢方薬の注意点】

1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。

（11）薬物治療の最適化

GIO	最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する基本的事項を修得する。

【①総合演習】

1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）
2. 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）
3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）

E3　薬物治療に役立つ情報

GIO	薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。

(1) 医薬品情報

GIO	医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践、生物統計ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。

【①情報】

1. 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる
2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。
3. 医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験等）と得られる医薬品情報について概説できる。
4. 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。
5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度（「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など）とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。

【②情報源】

1. 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。
2. 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。
3. 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。
4. 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけについて説明できる。
5. 医薬品添付文書（医療用、一般用）の記載項目（警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など）を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。
6. 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。

【③収集・評価・加工・提供・管理】

1. 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）
2. MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。（知識・技能）
3. 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。
4. 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。（技能）
5. 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務など）について説明できる。

【④EBM（Evidence-based Medicine）】

1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。
2. 代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。
3. 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概説できる。（E3（1）【③収集・評価・加工・提供・管理】参照）
4. メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。

【⑤生物統計】

1. 臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など）の意味と違いを説明できる。
2. 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。
3. 代表的な分布（正規分布、 t 分布、二項分布、ポアソン分布、χ^2 分布、F 分布）について概説できる。
4. 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。
5. 二群間の差の検定（ t 検定、χ^2 検定など）を実施できる。（技能）
6. 主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰など）と相関係数の検定について概説できる。
7. 基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線など）について概説できる。

【⑥臨床研究デザインと解析】

1. 臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴を概説できる。
2. 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。
3. 観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など）について概説できる。
4. 副作用の因果関係を評価するための方法（副作用判定アルゴリズムなど）について概説できる。
5. 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。
6. 介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化など）について概説できる。
7. 統計解析時の注意点について概説できる。
8. 介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを、例を挙げて説明できる。
9. 臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合）を説明し、計算できる。（知識・技能）

【⑦医薬品の比較・評価】

1. 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。

2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。（技能）
3. 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。（技能）

（2）患者情報

GIO　患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。

【①情報と情報源】

1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。
2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。

【②収集・評価・管理】

1. 問題志向型システム（POS）を説明できる。
2. SOAP 形式などの患者情報の記録方法について説明できる。
3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。
4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。（A (2)【③患者の権利】参照）

（3）個別化医療

GIO　薬物治療の個別化に関する基本的事項を修得する。

【①遺伝的素因】

1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。
2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など）について、例を挙げて説明できる。
3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。

【②年齢的要因】

1. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。
2. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。

【③臓器機能低下】

1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
3. 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。

【④その他の要因】

1. 薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動など）を列挙できる。
2. 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。
3. 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。

【⑤個別化医療の計画・立案】

1. 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。（技能）
2. コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。

E4　薬の生体内運命

GIO	薬物の生体内運命を理解し、個々の患者の投与設計ができるようになるために、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を修得し、それらを応用する基本的技能を身につける。

（1）薬物の体内動態

GIO	吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項を修得する。

【①生体膜透過】

1. 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。
2. 薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。

【②吸収】

1. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。
2. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。
3. 薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因など）を列挙し、説明できる。
4. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。
5. 初回通過効果について説明できる。

【③分布】

1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。
2. 薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。
3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。
4. 血液ー組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。
5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。
6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。

【④代謝】

1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。
2. 薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。
3. 代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。
4. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。
5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を

挙げ、説明できる。

【⑤排泄】

1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。
2. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。
3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。
4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。
5. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。

(2) 薬物動態の解析

GIO　薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する。

【①薬物速度論】

1. 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など）の概念を説明できる。
2. 線形１－コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与［単回および反復投与］、定速静注）。（知識、技能）
3. 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。（知識、技能）
4. モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。
5. 組織クリアランス（肝、腎）および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。
6. 薬物動態学－薬力学解析（PK-PD 解析）について概説できる。

【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与設計】

1. 治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDM が有効な薬物を列挙できる。
2. TDM を行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。
3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。（知識、技能）
4. ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。

E5　製剤化のサイエンス

GIO　製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、および薬物送達システムに関する基本的事項を修得する。

（1）製剤の性質

GIO　薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する。

【①固形材料】

1. 粉体の性質について説明できる。
2. 結晶（安定形および準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。
3. 固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡など）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。（C2（2）【①酸・塩基平衡】1. 及び【②各種の化学平衡】2. 参照）
4. 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pH や温度など）について説明できる。
5. 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。

【②半固形・液状材料】

1. 流動と変形（レオロジー）について説明できる。
2. 高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度など）について説明できる。

【③分散系材料】

1. 界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着など）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。（C2（2）【②各種の化学平衡】4. 参照）
2. 代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など）を列挙し、その性質について説明できる。
3. 分散した粒子の安定性と分離現象（沈降など）について説明できる。
4. 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。

【④薬物及び製剤材料の物性】

1. 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。
2. 薬物の安定性（反応速度、複合反応など）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度など）について説明できる。（C1（3）【①反応速度】1. ～7. 参照）
3. 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。

（2）製剤設計

GIO　製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する。

【①代表的な製剤】

1. 製剤化の概要と意義について説明できる。
2. 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
3. 粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。
4. 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
5. 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。
6. その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。

【②製剤化と製剤試験法】

1. 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。
2. 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。
3. 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。
4. 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。

【③生物学的同等性】

1. 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。

(3) DDS (Drug Delivery System：薬物送達システム)

GIO	**薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS に関する基本的事項を修得する。**

【①DDS の必要性】

1. DDS の概念と有用性について説明できる。
2. 代表的な DDS 技術を列挙し、説明できる。(プロドラッグについては、E4(1)【④代謝】4. も参照)

【②コントロールドリリース（放出制御)】

1. コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。
2. 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。
3. コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。

【③ターゲティング（標的指向化)】

1. ターゲティングの概要と意義について説明できる
2. 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。
3. ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。

【④吸収改善】

1. 吸収改善の概要と意義について説明できる。
2. 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。
3. 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。

F　薬学臨床

GIO	**患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。**

※F 薬学臨床における代表的な疾患は、がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症とする。病院・薬局の実務実習においては、これら疾患を持つ患者の薬物治療に継続的に広く関わること。

前）：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項

（1）薬学臨床の基礎

GIO	**医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活躍する臨床現場で必要な心構えと薬学的管理の基本的な流れを把握する。**

【①早期臨床体験】　※原則として 2 年次修了までに学習する事項

1. 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。（知識・態度）
2. 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。（知識・態度）
3. 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。（知識・技能）

【②臨床における心構え】〔Ａ（１）、（２）参照〕

1. 前）医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。（態度）
2. 前）患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。（態度）
3. 前）患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度）
4. 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。（態度）
5. 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する。（態度）
6. 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。（態度）
7. 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。（態度）

【③臨床実習の基礎】

1. 前）病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。
2. 前）病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。
3. 前）病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。
4. 前）病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。
5. 前）薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。〔Ｂ（３）①参照〕
6. 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。
7. 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。

8. 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。（態度）
9. 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。
10. 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。
11. 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。
12. 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。
13. 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。
14. 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。
15. 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。（知識・態度）

(2) 処方せんに基づく調剤

GIO　処方せんに基づいた調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的調剤業務を修得する。

【①法令・規則等の理解と遵守】〔B（２）、（３）参照〕

1. 前）調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。
2. 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。（知識・技能）
3. 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。（技能・態度）
4. 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。

【②処方せんと疑義照会】

1. 前）代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。
2. 前）処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。
3. 前）処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。
4. 前）処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。
5. 前）処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。
6. 前）処方せん等に基づき疑義照会ができる。（技能・態度）
7. 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）
8. 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。（知識・技能）
9. 処方せんの正しい記載方法を例示できる。（技能）
10. 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる。（知識・技能）
11. 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。（技能・態度）

【③処方せんに基づく医薬品の調製】

1. 前）薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。（技能）
2. 前）主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。
3. 前）処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。（技能）
4. 前）後発医薬品選択の手順を説明できる。
5. 前）代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。
6. 前）無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）
7. 前）抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。（技能）
8. 前）処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。（知識・技能）
9. 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。（技能）
10. 適切な手順で後発医薬品を選択できる。（知識・技能）
11. 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。（技能）
12. 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能）
13. 一回量(一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能）
14. 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。（技能）
15. 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
16. 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。（技能）
17. 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。（知識・技能）
18. 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。（知識・技能）
19. 調製された薬剤に対して、監査が実施できる。（知識・技能）

【④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育】

1. 前）適切な態度で、患者・来局者と応対できる。（態度）
2. 前）妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。
3. 前）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）
4. 前）患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。（技能・態度）
5. 前）代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。
6. 前）患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。（技能・態度）
7. 前）薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。
8. 前）代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。（技能）
9. 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。（態度）
10. 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。（知識・態度）
11. 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。（知識・態度）
12. 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育

ができる。（知識・態度）

13. 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。（知識・態度）
14. お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。（態度）
15. 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。（知識・技能）

【⑤医薬品の供給と管理】

1. 前）医薬品管理の意義と必要性について説明できる。
2. 前）医薬品管理の流れを概説できる。
3. 前）劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。
4. 前）特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。
5. 前）代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。
6. 前）院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。
7. 前）薬局製剤・漢方製剤について概説できる。
8. 前）医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。
9. 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。（知識・技能）
10. 医薬品の適切な在庫管理を実施する。（知識・技能）
11. 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。
12. 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。（知識・技能）
13. 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。（知識・技能）

【⑥安全管理】

1. 前）処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。
2. 前）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。
3. 前）代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する。（知識・態度）
4. 前）感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。
5. 前）衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。（技能）
6. 前）代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。
7. 前）医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。
8. 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。（知識・技能・態度）
9. 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。
10. 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる。（知識・態度）
11. 施設内の安全管理指針を遵守する。（態度）
12. 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。（技能）
13. 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。（技能・態度）
14. 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる。（知識・態度）

(3) 薬物療法の実践

GIO	患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。

【① 患者情報の把握】

1. 前）基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。
2. 前）患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）〔Ｅ３（２）①参照〕
3. 前）身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。
4. 前）基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。（知識・技能）
5. 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。（知識・態度）
6. 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。（技能・態度）
7. 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。（技能・態度）

【②医薬品情報の収集と活用】〔Ｅ３（１）参照〕

1. 前）薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。（知識・技能）
2. 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。（知識・技能）
3. 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。（知識・技能）
4. 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。（知識・態度）
5. 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。（知識・技能）
6. 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。（知識・態度）

【③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）】

1. 前）代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。
2. 前）病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。
3. 前）患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。
4. 前）皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。
5. 前）代表的な輸液の種類と適応を説明できる。
6. 前）患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。
7. 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。
8. 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。
9. 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。（知識・態度）

10. 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。（知識・態度）
11. 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。（知識・態度）
12. アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。（知識・態度）
13. 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。
14. 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる。（知識・態度）

【④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）】

1. 前）代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。
2. 前）代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。（知識・技能）
3. 前）代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で記録できる。（知識・技能）
4. 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。（知識・態度）
5. 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。（知識・態度）
6. 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる。（知識・技能）
7. 臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
8. 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
9. 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。
10. 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。（知識・態度）
11. 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。（技能）
12. 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で適切に記録する。（知識・技能）
13. 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能）

（4）チーム医療への参画　〔Ａ（４）参照〕

GIO	**医療機関や地域で、多職種が連携・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における多職種の役割と意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案と実施ができる。**

【①医療機関におけるチーム医療】

1. 前）チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。
2. 前）多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。
3. 前）病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。
4. 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。（態度）

5. 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL 等）の情報を共有する。（知識・態度）
6. 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する。（知識・態度）
7. 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。（知識・態度）
8. 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。（知識・態度）
9. 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。（知識・態度）

【②地域におけるチーム医療】

1. 前）地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。
2. 前）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。（知識・態度）
3. 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。（知識・態度）
4. 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。（技能・態度）

（5）地域の保健・医療・福祉への参画　〔B（４）参照〕

GIO	**地域での保健・医療・福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解するとともに、これらの活動に参加することで、地域住民の健康の回復、維持、向上に関わることができる。**

【①在宅（訪問）医療・介護への参画】

1. 前）在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。
2. 前）在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。
3. 前）在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。
4. 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。（知識・態度）
5. 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。（知識・態度）
6. 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。（知識・態度）

【②地域保健（公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動）への参画】

1. 前）地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。
2. 前）公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。
3. 学校薬剤師の業務を体験する。（知識・技能）

4. 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。（知識・技能）

【③プライマリケア、セルフメディケーションの実践】〔Ｅ２（９）参照〕

1. 前）現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。（態度）
2. 前）代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる。（知識・態度）
3. 前）代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。（技能・態度）
4. 前）代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。（知識・態度）
5. 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる。（技能・態度）
6. 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。（知識・態度）
7. 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる。（知識・態度）
8. 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる。（知識・態度）
9. 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。（知識・態度）

【④災害時医療と薬剤師】

1. 前）災害時医療について概説できる。
2. 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。
3. 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。（態度）

G　薬学研究

GIO	薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。

(1) 薬学における研究の位置づけ

GIO	研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解する。

1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。
2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。
3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)
4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)

(2) 研究に必要な法規範と倫理

GIO	自らが実施する研究に係る法令、指針を理解し、それらを遵守して研究に取り組む。

1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。
2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。
3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3 再掲

(3) 研究の実践

GIO	研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能)
2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。(知識・技能)
3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度)
4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)
5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)
6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)

薬学部教職員一覧
オフィスアワー制度について

2022年度 帝京大学薬学部教員組織・オフィスアワー制度について

【オフィスアワー制度について】

本学には、オフィスアワー制度が設けられています。オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修・学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいいます。

相談時間については、下記のとおりです。該当する時間であっても、出張や会議等の理由から教員が不在となる場合があります。

非常勤教員は講義日以外は在席しておりません。注意して下さい。

2022年度　帝京大学薬学部教員組織・薬学部オフィスアワー表

講座名	研究室名	場所	教員名		オフィスアワー
医薬化学	生体分子化学	大学棟本館10階	楯　直子	教授	火曜日　12：15～13：00、木曜日　16：00～17：00 その他在室中は随時対応致します
			伊藤　弦太	講師	月曜日　12：30～13：30、水曜日　13：00～14：00 実習後30分間、その他在室中は随時対応します
			村田　拓哉	助教	火曜日　13～15時
	物理化学	大学棟本館10階	岸本　泰司	教授	講義後および水曜日　13時～18時、その他在室中は随時対応
			今野　裕史	助教	講義または実習後随時
	医薬品分析学	大学棟本館10階	奥　直人	教授	講義または実習後30分間
			安田　誠	講師	月・木曜日　16～18時、その他在室中は随時対応します 電子メールでも受付　myasuda@pharm.teikyo-u.ac.jp
	臨床分析学	大学棟本館10階	山岡　法子	准教授	月・水曜日　16～17時 講義終了後、また、LMSメッセージと電子メールでも受付 n.yam@pharm.teikyo-u.ac.jp
			三枝　大輔	准教授	講義または実習後30分間
			福内　友子	講師	講義日　12：15～13：00、 何か相談、質問等があれば随時対応します
	代謝化学	大学棟本館10階	杉山　亨	准教授	金曜日　14～16時
			森谷　俊介	助教	講義または実習後30分間
	創薬化学	大学棟本館10階	忍足　鉄太	教授	講義後及び 月曜日・木曜日・金曜日、15時～16時 月曜日　17～18時 （但し、実習や会議、出張で不在の場合もあります。）
			田畑　英嗣	准教授	講義終了後、45分以内、 講義室または研究室（10階1014）で対応
			髙橋　由佳	助教	講義または実習後30分間
	薬化学	大学棟本館10階	橘髙　敦史	教授	火曜日　14～15時、金曜日　14～15時
			髙野　真史	講師	月曜日　14～16時
			川越　文裕	助教	講義または実習後30分間
生命薬学	病態分子生物学	大学棟本館9階	本間　光一	教授	講義終了後12：15～12：45、火曜日　16：30～17：30
			青木　直哉	准教授	講義終了後、 火曜日・金曜日　12：15～13：05、 水曜日　13：00～14：00
			森　千紘	助教	講義または実習後30分間 火曜日午後４時半～５時半
	基礎生物学	大学棟本館9階	山口　真二	教授	講義終了後、木曜日　16時～17時
			根岸　文子	准教授	講義の日　15～16時 何か相談、質問等があれば随時対応します
			藤田　俊之	助教	講義または実習後30分間

講座名	研究室名	場所	教員名		オフィスアワー
生命薬学	環境衛生学	大学棟本館9階	山本　秀樹	教授	大学棟本館9階 山本　秀樹 教授 講義または実習後30分間 その他の日時は、e-mailにて連絡下さい。
			下山　多映	助教	水曜日　13～15時　その他在室中は随時対応します
			岩井　裕美	助手	講義または実習後30分間
	生物化学	大学棟本館9階	山下　　純	教授	講義日、月・木曜日　15～18時
			佐々木　洋子	講師	講義日（木曜日）12:15 ～13:00、 電子メール（ynsasaki@pharm.teikyo-u.ac.jp）やLMSのメッセージでも受付けます。
			松本　直樹	助教	月曜日　12～13時
	衛生化学	大学棟本館9階	荒田　洋一郎	教授	木曜日　12：15～13：00 その他在室中は随時対応します
			岡　　沙織	准教授	水曜日　12：15～13：00 その他在室中は随時対応します
			田村　真由美	助教	水曜日　12：15～13：00 その他在室中は随時対応します
	毒性学	大学棟本館9階	鈴木　俊英	教授	火曜日　14～16時
			北　加代子	准教授	金曜日　14～16時
			本間　太郎	講師	火曜日　14～16時 電子メールでも受付　thonma@pharm.teikyo-u.ac.jp
医療薬学	分子薬剤学	大学棟本館8階	唐澤　　健	教授	水・金曜日　12：15～13：05　801へ来て下さい。それ以外の曜日、時間も在室中であればできるかぎり対応します。
			谷川　和也	助教	水曜日　15～18時 電子メールで予め連絡下さい tanigawa@pharm.teikyo-u.ac.jp
	薬物治療学	大学棟本館8階	宮田　佳樹	准教授	月・木曜日　13～15時 その他、在室中は随時対応します。
			日下部　吉男	講師	講義または実習後随時
	物理薬剤学	大学棟本館8階	横山　和明	教授	講義日または火・木曜日　12：15～13：05
			濱　弘太郎	准教授	講義日の12:30～13:00、実習後30分間
			藤原　優子	講師	講義または実習後30分間。その他、在室中は出来る限り対応
	病態生理学	大学棟本館8階	厚味　厳一	教授	講義や実習後の1時間。ただし、在室中はできる限り対応します。各講義の質問用メールアドレスへの連絡に対しても対応します。
			石橋　賢一	助教	講義または実習後30分間、 在室中は出来る限り対応します。
	薬物送達学	大学棟本館8階	鈴木　　亮	教授	金曜日　12：15～13：15、在室中は出来る限り対応
			小俣　大樹	講師	金曜日　12：15～13：15、在室中は出来る限り対応
			宗像　理紗	助教	火曜日　13：00～14：00、在室中は出来る限り対応
	薬物動態学	大学棟本館8階	久保　義行	教授	水曜日　13時～16時、または在室中
			黒澤　俊樹	助教	月・火曜日　12時半～14時、または在室中
	生体防御学	大学棟本館8階	大藏　直樹	准教授	在室中は出来る限り対応します 水曜日　13：15～17：00 金曜日　13：15～15：00
			鎌田　理代	講師	金曜日　13～15時 このほか在室時は随時対応します

講座名	研究室名	場所	教員名		オフィスアワー
臨床薬学	薬効解析学	大学棟本館7階	小野　景義	教授	水曜日　13～15時
			鈴木　重人	助手	講義または実習後30分間
	医薬品作用学	大学棟本館7階	坂本　謙司	教授	水曜日　12時30分～14時 なお，在室中は可能な限り対応します あらかじめ電子メール（sakamoto@pharm.teikyo-u.ac.jp）で連絡してもらえると確実です また，電子メールでの質問も受け付けます
			上園　　崇	准教授	月曜日　13～14時、15～16時、水曜日　13～14時
			森　　麻美	講師	講義または実習後30分間
	人体機能形態学	大学棟本館7階	細山田　真	教授	前期月曜日・後期水曜日　12:30～13:50　研究室
			道志　　勝	講師	月～金曜日　15～17時 何か相談、質問等があれば随時受付ます
	製剤学	大学棟本館7階	黄倉　　崇	教授	金曜日　12：15～13：15 講義室または720で受付ます
			中谷　絵理子	助教	講義または実習後30分間
			赤下　　学	助教	講義または実習後30分間
	臨床薬剤学	大学棟本館7階	渡邊　真知子	教授	火曜日　12：15～14：00
			板垣　文雄	教授	木曜日 13：00～14：00 その他在室中は随時対応します
			前島　多絵	助教	火・金曜日　12：15～13：15 その他在室中は随時対応します
			永島　一輝	助教	講義または実習後30分間 電子メールでも受付(nagakazu@pharm.teikyo-u.ac.jp)
	病院薬学	大学棟本館7階	安野　伸浩	教授	講義または実習後30分間、火曜日12：00～13：00
			河村　剛至	准教授	講義または実習後30分間、水曜日17：00～18：00、 金曜日12：15～17：00
			渡部　多真紀	准教授	月・水曜日 12：15～13：30 上記以外、在室中は随時対応します 電子メールでも受付(tamaki-w@med.teikyo-u.ac.jp)
			奥平　倫世	助教	月・水・金曜日 13：00～14：00 上記以外、在室中は随時対応します
	地域医療薬学	大学棟本館9階	安原　眞人	教授	月・火曜日　12：15～13：15 木曜日　14：00～17：00
			安藤　崇仁	講師	講義または実習後30分間

講座名	研究室名	場所	教員名		オフィスアワー
薬学教育推進センター	臨床実習ユニット	大学棟本館4階	渡辺　茂和	教授	月・木曜日　16～17時 金曜日　17：00～17：30 その他、メールでも受付
			下平　秀夫	教授	水曜日　17：00～17：30
			久保田　篤司	准教授	講義または実習後30分間
			丸山　桂司	准教授	講義または実習後30分間 その他在室中は随時対応します
			村上　　勲	講師	講義・演習・実習後30分間 その他在室中は随時対応します
			新井　　亘	講師	講義または実習後30分間
			寺山　和利	助教	木曜　15:00～16:00
			土屋　裕伴	助教	講義または実習後30分間
			中村　英里	助手	講義または実習後30分間
			中村　康宏	助手	講義または実習後30分間
	基礎実習ユニット	大学棟本館4階	馬渡　健一	教授	火曜日　14～17時(10F 医薬品分析学研究室)
			川﨑　　茜	助教	講義または実習後30分間
	学習推進ユニット	大学棟本館7階	野呂瀬　崇彦	教授	平日　12：15～13：00 上記のほか、在室中は随時対応します ※会議や出張等で不在の場合もあります。メール（norose.takahiko.ie@teikyo-u.ac.jp）での対応、面談予約も受け付けます。
			岩澤　晴代	講師	木曜日　13時～18時 上記のほか、在室中は随時対応します
			長田　洋一	助教	木曜日　13～15時
			阿部　真也	助教	講義または実習後30分間
	就学支援ユニット	大学棟2号館1階	飯島　亮介	准教授	講義日の13～15時 在室中は随時対応します
			原田　史子	講師	前期：金曜日 12:30～15:00　後期：木曜日 12:30～15:00 （出張や会議などで不在の場合もあります） そのほか在室時は可能な限り随時対応します。 LMSのコース内メッセージでも受け付けます。
			木内　茂樹	助教	講義または実習後30分間

2022年度　オフィスアワー表（薬学部専任教員以外）

所属	場所	教員名		担当科目	配当年次	オフィスアワー
医学部救急医学講座	附属病院	金子　一郎	教授	薬学への招待２	１年	講義終了後随時。
国際教育研究所	附属病院	竹内　保男	講師	薬学への招待２	１年	講義終了後随時。
				薬学実習８	４年	
医学部 ちば地域医療ｾﾝﾀｰ	ちば総合医療ｾﾝﾀｰ	井上　和男	教授	地域医療論	４年	講義終了後随時。
薬学部	非常勤	孫　　尚孝	非常勤	地域医療論	４年	講義終了後随時。
				薬学統合演習１	４年	
	非常勤	高田　智生	非常勤	地域医療論	４年	講義終了後随時。
	非常勤	川名　三知代	非常勤	地域医療論	４年	講義終了後随時。
	非常勤	新井田　純坪	非常勤	地域医療論	４年	講義終了後随時。
	非常勤	赤羽根　秀宜	非常勤	薬事関係法規・制度	４年	講義終了後随時。
	非常勤	高橋　秀依	非常勤	薬学最前線	５年	講義終了後随時。
	非常勤	小嶌　隆史	非常勤	薬学最前線	５年	講義終了後随時。
	非常勤	永田　泰造	客員教授	薬学総合講義３	６年	講義終了後随時。
医療共通教育 研究センター	非常勤	熊谷　俊高	非常勤	情報リテラシー	１年	講義終了後随時。
	大学棟本館3階 物理学実験室	藤代　尚文	講師	薬学数学１	１年	火曜日 11：00－12：00 業務等の都合で 離席または日程を変更する場合あり
				薬学数学２		
	大学棟本館6階	大滝　恭弘	教授	医療社会学	１年	水曜日 17：00－18：00　業務等の都合で 離席または日程を変更する場合あり 大学棟本館6階611教員室内 医療共通教育研究センター
	非常勤	秦　奈峰子	非常勤	医療社会学	１年	講義終了後随時。
	大学棟本館6階	山村　朋子	講師	英語	１年	講義終了後随時。
	非常勤	松原　惠み	非常勤	英語	１年	講義終了後随時。
	非常勤	西本　公一	非常勤	英語	１年	講義終了後随時。
	非常勤	牛島　光一	非常勤	英語	１年	講義終了後随時。
	非常勤	井手口　直子	非常勤	ヒューマンコミュニケーション	１年	講義終了後随時。
中央RI教育・研究施設	大学棟本館地下2階 中央RI教育・研究施設	藤井　智彦	講師	薬学実習９	４年	講義終了後随時。
	大学棟本館地下2階 中央RI教育・研究施設	三本　拓也	助教	薬学実習９	４年	講義終了後随時。

2022年度　オフィスアワー表（選択科目担当教員）

所属	教員名		選択科目名	オフィスアワー
医学部内科学講座	大久保　由美子	教授	医療界のワーク・ライフ学	講義終了後随時。
	渡邊　清高	病院教授	チーム医療論	水曜日　17時－18時 ただし、出張や会議のため不在の場合あり
			地域健康管理学入門	
医学部薬理学講座	青山　晃治	教授	新薬発見のケーススタディー	水・木・金　17時～18時
	田村　淳	准教授	新薬発見のケーススタディー	講義終了後随時。
	松村　暢子	助教	新薬発見のケーススタディー	水　16：30～17：30
	木下　千智	助教	新薬発見のケーススタディー	水　12時～13時
	田中　啓雄	助教	新薬発見のケーススタディー	講義終了後随時。
	鈴木　利宙	助教	新薬発見のケーススタディー	講義終了後随時。
医学部生化学講座	安達　三美	教授	医療界のワーク・ライフ学	講義終了後随時。
医学部救急医学講座	神田　　潤	助教	チーム医療論	講義終了後随時。
医学部公衆衛生学講座	菊谷　昌浩	教授	災害からの復活と公衆衛生	講義終了後随時。
薬学部	楯　　直子	教授	チーム医療論	火曜日　12：15～13：00、木曜日　16：00～17：00 在室時は可能な限り、随時対応致します
	安野　伸浩	教授	チーム医療論	講義または実習後30分間
	山本　秀樹	教授	災害からの復活と公衆衛生	大学棟本館9階 山本　秀樹 教授 講義または実習後30分間 その他の日時は、e-mailにて連絡下さい。
	鈴木　　亮	教授	夢の薬物送達学システム（DDS）	講義または実習後30分間。在室中は出来る限り対応
	村上　　勲	講師	チーム医療論	講義・演習・実習後30分間 その他在室中は随時対応します
	藤原　優子	講師	医療界のワーク・ライフ学	講義または実習後30分間
	中村　英里	助手	チーム医療論	講義または実習後30分間
			医療界のワーク・ライフ学	
	森川　　馨	客員教授	医療数理科学入門	講義終了後随時。
	丸山　一雄	特任教授	夢の薬物送達学システム（DDS）	講義終了後随時。
医療技術学部 視能矯正学科	木田　淳子	非常勤	コンタクトレンズの基礎	講義終了後随時。
	佐々木　翔	講師	コンタクトレンズの基礎	講義終了後随時。
	臼井　千恵	教授	医療界のワーク・ライフ学	講義終了後随時。
医療技術学部 看護学科	上野　公子	教授	チーム医療論	講義終了後随時。
医療技術学部 診療放射線学科	大谷　浩樹	教授	医療界のワーク・ライフ学	講義終了後随時。
	菱木　　清	准教授	チーム医療論	講義終了後随時。
医療技術学部 臨床検査学科	生天目　禎子	助教	チーム医療論	講義終了後随時。
	橋本　章子	非常勤	ヘルス・コミュニケーション	講義終了後随時。

所属	教員名		選択科目名	オフィスアワー
医療医術学部 スポーツ医療学科 救急救命士コース	酒本　瑞姫	講師	医療界のワーク・ライフ学	講義終了後随時。
医療共通教育 研究センター	大胡　惠樹	教授	生命と物質のサイエンス	水曜日　13：00-14：00　大学棟本館6階601－1
	大滝　恭弘	教授	基礎医療法学	水曜日 17：00－18：00 業務等の都合で離席または日程を変更する場合あり 大学棟本館6階611教員室内医療共通教育研究センター
			日本国憲法	
			医療界のワーク・ライフ学	
	河内　正治	教授	世界に羽ばたく医療人	講義終了後随時。
	齋藤　智恵	准教授	イングリッシュ・コミュニケーション	木曜日　14：00－16：00業務等の都合で離席または日程を変更する場合あり
			多文化社会論	
	山村　朋子	講師	アカデミック･イングリッシュ	月曜日・火曜日　16：00－17：00 業務等の都合で離席または日程を変更する場合あり 大学棟本館6階611教員室内医療共通教育研究センター
	高柳　妙子	非常勤	ヘルスケアエデュケーション	講義終了後随時。
	皆吉　淳平	非常勤	社会と医療	講義終了後随時。
	加藤　大裕	非常勤	日本国憲法	講義終了後随時。
	西本　公一	非常勤	TOEIC対策英語	講義終了後随時。
	惠　　晋一	非常勤	グラフィック基礎	講義終了後随時。
	荒木　夕宇子	非常勤	地域健康管理学入門	講義終了後随時。
	大塚　良子	非常勤	地域健康管理学入門	講義終了後随時。
	松本　聡子	非常勤	地域健康管理学入門	講義終了後随時。
	小林　富美恵	非常勤	世界に羽ばたく医療人	講義終了後随時。
公衆衛生学研究科	中田　善規	教授	地域健康管理学入門	水曜日　15時－16時 ただし、出張や会議の理由で不在の場合あり
	松浦　正明	教授	災害からの復活と公衆衛生	講義終了後随時。
	高橋　謙造	教授	災害からの復活と公衆衛生	講義終了後随時。
	崎坂　香屋子	准教授	災害からの復活と公衆衛生	講義終了後随時。
	鈴木　明日香	講師	医療統計学	講義終了後随時。
			災害からの復活と公衆衛生	講義終了後随時。
	金森　　悟	講師	医療とボランティア	講義終了後随時。
	西原　三佳	講師	医療とボランティア	講義終了後随時。
	加藤　美生	助教	災害からの復活と公衆衛生	講義終了後随時。
経済学部 （八王子キャンパス）	岩崎　　淳	教授	医療経済学	講義終了後随時。
帝京平成大学	田代　信久	准教授	医療心理学	講義終了後随時。
			臨床心理学	

MEMO

シラバス（講義概要）は、Webにて確認してください。

https://www.e-campus.gr.jp/syllabus/current/ph